

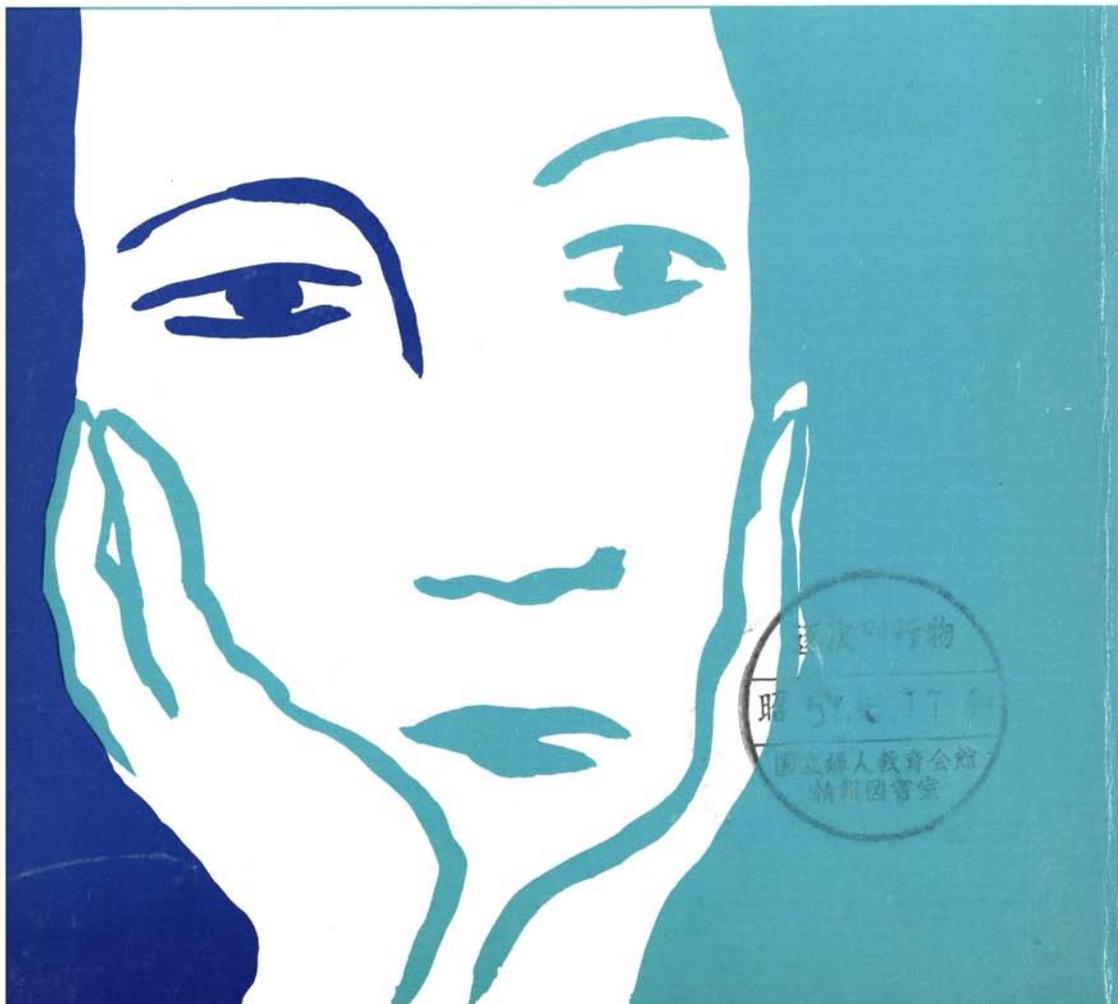
●ともに歩く女たちの雑誌

ねぶ

wife・NO.176.

特集 ● わたしの恋愛体験

- 座談会・男にとっての恋愛と人生
- データから恋愛へ — アルトマンシステムを利用する人々
- インタビュー・ぼくと雑誌 / 椎名 誠
- キッチンと鉄格子のはざままで — つくられる主婦ノイローゼ



母子関係の心理学

依田 明著 定価680円

母親がどんな態度や行動で子どもを養育するかによって、子どもの将来がきめられる。発達心理学から、なぜ母子関係が大切なのかを明快に説く



性差の発達心理

東 清和・小倉千加子著

定価680円

人の発達につれて、男女差がみられるのはどんな領域か、男らしさ、女らしさがなぜ生ずるのかを明らかにする。

性差の社会心理

東 清和著

定価600円

これまで男女差があるといわれた、仕事への意欲、職業活動の分野で、科学的な立場から、性差の有無をさぐる

現代女性の心理

永沢幸七著

定価680円

女性のものの見方、考え方が、恋愛、結婚、性、職業、家庭などについて、いま、どう変わってきたかを見る

大日本図書 東京・銀座1-9-10 電話03(561)8671

ドメス出版

東京都豊島区駒込1-35-2 170 TEL 03(944)5651 振替東京8-48766

わたしの回想(上・下)

近藤真柄

●上巻 父、堺利彦と同時代の人びと

日本社会主義運動の草分けの一人である堺利彦を父に、反戦、社会主義の申し子のごとくこの世に生まれた近藤真柄が、父に連なる多くの社会主義者(幸徳秋水、大杉栄、荒畑寒村、菅野すが、山川)の迫害と苦難の歴史を証言する。 221頁/1300円

●下巻 赤濁会とわたし

婦人解放運動の中で赤濁会の占めた役割は、短期間ではあったが、婦人の日本で最初の社会主義団体として大きな足跡を残した。下巻では、若くしてその運動の担い手となった近藤真柄と赤濁会のひとびとや婦人運動と平和にかけた彼女の生の軌跡を無産婦人同盟、社会大衆婦人同盟、婦人参政権運動を中心に展開する。 244頁/1500円

女人芸術の人びと

尾形明子

好評を博した『女人芸術の世界』の続篇である本書は、プロレタリア文学運動への洗礼と左傾、実践活動、転向、戦争への係わり、そして戦後へと、時代の波に翻弄されながらも力強く生き続けた16人の人びとの生とその仕事を聞き書きをまじえて追求した意欲作。 276頁/1700円

婦人問題関係好評図書

田村俊子とわたし

丸岡秀子/1400円

婦人思想形成史ノート(上)

丸岡秀子/1600円

女人芸術の世界

尾形明子/1300円

アガシ
いらたら

あかん

議員ノート③

一九八一年度(下)

1200円

中山千夏

話の特集・刊

議員ノート・シリーズ 好評発売中

議員ノート 一九八〇年度版

(80千夏の陣・選挙日記付) 980円

世の中メチャメチャ

議員ノート② 一九八一年度(上) 1200円

情報センター出版局

〒160 東京都新宿区四谷2-1 電話03-358-0231

共感と絶賛の渦!
ベスト・ロングセラー群

哀愁の町に霧が降るのだ (中・上)

椎名 誠 ■ いま八純頂ノ男ドラマの古存譜 ● 定価330円

かつをぶしの時代なのだ

椎名 誠 ■ 誠するべく、はげしく、インマニク... ● 定価330円

気分はだばだぼソーズ

椎名 誠 ■ 日本の異様な結婚式...が好評 ● 定価330円

さらば国分寺 店のオババ

椎名 誠 ■ 昭和軽薄体の笑撃的デビュー作 ● 定価780円

手縫いの服づくり

森 南海子 ■ 型紙なしで誰にでも簡単に... ● 定価680円

手縫いのリファオーム

森 南海子 ■ 鮮やかによみがえる80選... ● 定価330円

だきしめ中国

蔡素芬 ■ 日中混血女性の感動の帰郷旅行 ● 定価1000円

グラビア●自立する女たち 写真・文 野村路子

たべものや グリンピース

インタビュー●ぼくと雑誌 椎名 誠 10

特集●わたしの恋愛体験 18

《投稿》

恋愛ぬきの人生を生きて 高辺芳子 18

時は流れて 大辺 理衣 24

プロポーズなんかうざりだ 瀬川江里子 30

座談会●男にとっての恋愛と人生 38

出席者・大森彦一・芝岡 豊・中村彰良・増野 潔

データから恋愛へ 54

アルトマン・システムを利用する人々

わいふスクラップ帖 113

わたしのえらぶ画家 ⑦ 佃 堅輔 68

コミックライブラリー わんちゃん収支決算報告 絵・西田淑子 案・早乙女光子 70

ねぶ

176号

わたしの暮した地上の楽園 日下恵子

——ヤップ島滞在記——

73

《わいふ家庭科》

あなたの食卓診断 ③ 竹内富真子

81

電話料は安すぎる？ 北詰由貴子

92

キッチンと鉄格子のはざままで(下) 木下律子

104

《読者のページ》

らうんど・てーぶる

115

■随筆 ■私の視点 ■私の再就職 ■子育て会議 ■おしゃべり

情報コーナー

100

サークルだより

90

書評

102

投稿規定

142

テーマ原稿募集

143

編集だより

144



自立する女たち

たべものや「グリーンピース」

「ここは私たちにとって大切な店ではあるけれど、これがすべてじゃない——地域共同体を作っていくための、一つの拠点なのだと考えています」

新宿から小田急電車で一時間、相武台前でバスに乗り継いで十分、急激にひらけた新興住宅地の典型的な風景の中にある小さな店「たべものや・グリーンピース」。カウンターに四人、テーブルに八人も入れれば満員という小さな店だが、木村徳栄さん（42歳）の言うとお



り、地域活動をする女性たちが、次々と訪れてきて、一日中、活気でいっぱいだ。

主婦には、出産や育児や料理、洋服、手工芸……日常の営みの中で培い、身につけた、たくさん能力があるはず、それをお互いに出し合い、役立て合ったら、もっと良い人間関係も、住み良い地域もつくれる——ここに住むようになってからずっと、PTAや自治会活動に参加、消費者運動や婦人学級にも積極的に取り組んでいた木村さんは、そんな話を、常に仲間たちとしてきた。

夢のように思っていた人もいた、自分の小さな力では……と考えていた人もいた。だが「無鉄砲に」始めてしまうと、それぞれの力が大きく生きた。新しい能力も見つかった。

今、この店では、主婦たちが交代で、自分の得意な料理でメニューをつくり、腕をふるいながら、健康の自主管理を考え、無農薬野菜の共同購入や、手づくり食品の普及などに



も力を入れている。

資本金は、地域の人々の中から募ったもの、二年後に返済の約束だ。昨年七月にオープンして十ヶ月、ようやく全体の数字が読めるようになって来たが、まだ試行錯誤の段階、皆でとり決めた時給（一律三百円）にしても、さまざまな考え方があるのは事実だ。しかし、参加している四、五十人の主婦たちが、パートで働くのとは本質的に違う、新しい職場の創造を自分たちで実現しつつあることも、また確かなようだ。

（写真・文 野村 路子）



青木やよひ著

四六判・上製・一六〇〇円

女性・その性の神話

ウーマン・リブはなぜおこったのか？ これからの男と女の関わりはどうなっていくのか。こうした身近な疑問に答えてつづつ、文明的な幅広い展望と文化人類学的な視点とをとりこんだ新しい女性論。○主な内容○序論―男らしさ・女らしさを問う。第I章―女性性問題とは何か。第II章―性差別の根拠をさぐる。第III章―女の視点で世界を見ると。第IV章―差別なき社会に向けて。

川口 祐二著

四六判・上製・一三〇〇円

熊野の海は赤い海

野間宏氏評 ハマチ養漁の現場を襲う赤潮と漁民とのたたかいを精密にとらえ、現在人類が直面している危機に限りなくせまっている。

日高六郎編

四六判・一三〇〇円

憲法改悪反対運動入門

護憲のために―日高六郎 第九衆改悪と日米安保・自衛隊の将来
―星野安三郎 第三次大戦が起こったら日本はなくなるか―藤井治夫 軍事国家と日本経済の将来―鎌倉孝夫 改憲の論点とその論議―小林孝輔 いま、徴兵を問う―中島誠 非武装中立による防衛策―宮田光雄 若い世代の感性と第九衆―高野晴一 地方議会での護憲決議を―西田勝 憲法は民衆を守りうるか―太田昌彦 戦争と女―加納実紀代 息子たちよ誰のために銃をとるか―藤森司郎 文学 八兵ノ道ヲ願フラス―雨坊義道



オリジン出版センター

東京都新宿区岩戸町16 メンヤード神楽坂四〇二
振替東京〇四四七〇五五 〇三二六〇一〇四五三

野草社・暮らしを考える本

80年代No.14 暮らしをつくりはじめるために

暮らしを変えるために、まず手を動かしてみませんか。ドブクロ、豆腐、手縫いもの、そして神戸。生活を問い直すために！ 600円

80年代別冊5ピパの大地から

美明消費者協会編 生きていることを愛しているから、いのちの文化・ふるさとの味を創ろうとする消費者運動11年の記録。 950円

ひとり暮らし料理の技術

津村喬著 毎日なにを食べているかはとても大事なことだ。商品としての「食物」を追い出して、自分の台所を作り上げよう。 1500円

ザ・ファームベジタリアン・クックブック

鶴田静著 ベジタリアンの《ザ・ファーム》を訪ね、彼らの生活と大豆、豆乳、TOFU、大豆ヨーグルト等楽しい料理を紹介。1400円

東京都文京区後楽2-20-15 ☎(03)812-8145

わいふ

176号

語りあってみませんか
歩きだしてみませんか

走って
とびあがって
立ちどまって

女の生き方を
探ってみませんか

わいふは
みんなでつくる雑誌です



インタビュー！椎名誠

ぼくと雑誌

朝日新聞の水曜日に連載される痛快きわまりない「マガジン・ジャック」。あなたもファンの一人では？筆者の椎名誠さん。本業は「本の雑誌」というミニコミ風の雑誌の編集長、しかもそれが売れに売れているという。

売れに売れない「わいふ」としては、クヤシイ！ウラヤマシイ！アヤカリタイ！

というわけで、超多忙の椎名さんをつかまえた。

「スコラ」には真実メゲたぞ。創刊号のあの売り出しキャンペーン、桜の木の下のおまわりさんの「オイコラスコラ」を見てやる気がなくなった。「オイコラスコラ、カレらをバカにしてはいかんよ！」と言いたかった。(中略)するとしばらくして第二号が出た。月刊誌だからトーゼンだるうけれど第二号が出た。聞くところによるととてもよく売れているのだという。しかしはっきり言うけれどこういう雑誌がある程度のキャンペーンによって登場し、この程度の内容でそこそこ売れていく、

雑誌大好き人間があつまって

——雑誌評論なんて言葉があるのかなのか、ぼくもまあそれを仕事にするなんて気はまったくなかったんですけどね。雑誌が好きだったことはたしかにあって、それはぼくだけじゃなく「本の雑誌」を作っている連中やその周辺に、何らかのきっかけで雑誌大好き人間が集まっているというのはいし

かなんです。

考えてみれば学生時代から、単行本よりも雑誌っていうものに限りない魅力を感じていた世代であって、カタログ人間みたいなものが、ポバイによってではじめてくる前から、雑誌についてはこだわってた、っていう層かも知れないですね。

つまり、単行本よりもね、雑誌のほうがエライ、っていう思いこみね……：何がどうエライのか、つっこんでかかれるとむづかしいんですが。

ともかく、小説だろうが評論だろうがエッセイだろうがね、単行本っていうのは大体において一人が作っているわけですよ。

いかに天才かも知れないけど、あるいはエンターティナーかも知れないけど、本とはしょせんは一人の頭の中、あるいは一人の行動の中で作り出された産物でしかない、っていうことですね。

雑誌のほうは、まアよっぽどのこと

この程度の内容でそこそこ売れていく、というところにいまのわが国の雑誌状況の貧しさというものが象徴されているのではないかと、とオレは思うのである。久しぶりに「わが国」なんて懐れないコトバを使ってしまった。静かにさびしく逆上しているのであるよ。

スコラがどうしてよくないか。第一にこれは大手出版社がいまもっとも得意とする典型的な難売住宅のような雑誌であること。外国の女と日本のタレントのヌードを柱にして、いま一番注目されていそうな人々の意見発言周囲にならべ、若者好みのナンバ記事とクルマとプロ野球の話をすえてハイでできあがり、というやつ。見たせば世の中こういう雑誌ばかりではないですが、なにが「ニューウェーブマガジン」かよ。コケのはえたドロドロズブズブたまり沼のようなオールドズブ沼マガジンなのである。うーむしかしました新たなテキをつくってしまった。今日も早く寝よう。(五月五日・朝日新聞)

マガジン・ジャック)

がないかぎり、かなりの数の人たちが集まって作っているわけですよ。やっぱり一人よりも多数の人間の力の集結作業であるっていう、バカな考えから単純に、雑誌のほうのエライ！っていう評価のしかたを昔からしていたんですよ。

それで雑誌を読んでいろんなこというのもね、複数で作ってるものは複数で評論したほうがいいじゃないか、っていう考え方からなんです。ぼくたちはだから、一つの雑誌をとりあげるにも、大勢でワイワイというのが好きなんです。

雑誌というのは必ず好きキライがあつて、Aという派がこれはいい、という、Bという派がわるいという、Cがまアいいじゃないかと、日本の政治みたいなかんじになってくるでしょ。マガジン・ジャックではそれを一人でやるということ、そのことに若干抵抗はあったんですけど、たくさんの方が作ったものを一人で評論すると

いう、そういう対決の図式っていうものがあってもいいだろう、というので引受けたわけ。

——ぼくがどうして雑誌が好きか、っていうのもう一つの理由は、子どもの頃から妙に雑誌をつくるのが好きだったんです。ガリ版なんかで。今でいうミニコミですね。

今の学生たちなんかはコピーで簡単に作っちゃいますけどね、ぼくらのころはコピーはなかったから、ガリ版でガリガリ、ガリ切りやって、仲間たちにも結構そういうの作ってる奴がいて、大体「本の雑誌」なんていうのもそういうのを作っていた奴らが集まっているんです。ぼくは月刊「おれの足」っていうのを出して、今「本の雑誌」でイラスト書いてる沢野ひとしも月刊「子熊」っていうのを出していますね。もう一人は「目黒ジャーナル」っていうのをやってまして、何かそういうのを自分で作るのを好きな奴が集まってましたね。高校三年ぐらいの時だっ

たかなア。

女と男は違わない！と力説するひともいるけれど、こんな話を聞くとやっぱり男と女は違うなァ！と身に泌みる。ニキビ面？の高校生が、ワイワイガヤガヤ、ドタ靴や水虫の匂いのしそうな「おれの足」だの「子熊」だのを、臆面もなく作り上げ、そのうちにそれが仕事になってしまいう面白さ、この無鉄砲さというかハチャメチャなところが、どうも女には足りないんですなァ。

——ともかく雑誌を作るのをしごとにしたかったですね。それも編集者じゃなくて編集長。だから大手出版社に入ったら編集長になんかなかなかなれないだろうしと思っ、業界誌に入った。業界誌だったら編集長になれるだろうと思ったらチャンとなれたんですよ。一年後にね。
社員五十二名だったから業界誌とし

では大きいほうです。流通業界、パートとかスーパーとかの従業員に対する雑誌です。

それまでマジメすぎてちっとも面白くない雑誌だったから、徹底的に遊んじゃったんです。デパートを城に見立てて、今や流通業界は戦国時代であるなんて、戦力図を描いたりしてね。

いまの「本の雑誌」と同じようなかんのふざけかたをしたんですね。これがうまくいった。

そのあと「本の雑誌」をやってみて、何もないところから市場に本を流していくっていうことをやって、すごく面白かったですね。

紀の国屋なんかだったら千二百部ぐらい売りますよ。旭屋なんかもそれぐらい行ってるんじゃないかな。店によっては一店あたりの販売量で一位なんじゃないですかね。別に自慢話じゃないけど、広告も宣伝もしないで、五百から始めてそうなっちゃったということですね。

気が遠くなるほど たくさんある雑誌

——本の雑誌には一時期、おもしろい雑誌という連載の頁があつたんですよ。編集部員があちこち歩きまわって見つけてきた面白い雑誌を紹介してたんです。それで世の中には実に面白い雑誌があるっていうことに気がついた。

例えば「社交センター」なんていう雑誌がある。

これはね、キャバレーとかクラブとかで働いてるホステスたちの雑誌なんですよ。研究雑誌なんですよね。

早い話がいかにお客さんをだまぐらかすかということをものごくマジメに考えている雑誌なんですよ。見てるともう、これほど面白い雑誌はないわけです。もう心から笑っちゃう面白さがあるわけ。

あるいは「月刊住職」なんていうお坊さんの雑誌があつて、全国のお坊さんが読んでる。見てると、「戒名の

簡単なつけかた」とか(笑)。広告なんかもやっぱり、仏壇とか数珠とかの広告でね。もちろんお坊さんの雑誌にサーフ・ボードの広告なんか出るわけはないんだけど。

警官の雑誌だけだつて三冊あるんですよ。「警察公論」とかね。

そんな雑誌も入れると日本には雑誌は六千もありますからね、その中で本屋に並ぶのは大きいところでまあ千五百ぐらい。大体都市の本屋で六百も並んでればいいほうでしょう。要するに全体の十分の一ぐらいしか置いてないわけですよ。

気が遠くなる話です！ 六千の雑誌をいつ、どこへ置いて売るのですか！ 単行本でもその通り、本屋の本棚に収容できる冊数は発行数の三分の一しかないというのだが。

絶望的な話ばかりある中で、でもやはり「本の雑誌」が三万六千、売れているということは、大きな希望

ではありませんか。表紙の色もお粗末でうすっぱら、豪華さにはほど遠いこの雑誌が売れるには、売れるだけの理由がある、ノダ。(もしも「わいふ」が売れないのなら、売れないだけの理由がある、ノダ。ムムム……)

雑誌を見れば 時代がわかる

雑誌っていうのは要するにその時代の文化の反映なわけですよ。大昔の雑誌を見れば——まア昭和初期でも明治・大正でもいいんですけど、例えば大正時代にこういうことがありましたっていう単行本を何冊も読むよりも、その時の大衆に一番よまれた雑誌を一冊読めば大体わかってしまうでしょう。雑誌ってそういう意味でも後世のために、もずいぶん大きな力を持つてるものだと思いますね。

一時期一つの試みをしてね、文芸春秋を頭からおわりまで全部読んでみる

ということをしたんですよ。四日ぐ
らいかかりましたけれども、広告まで
全部きちんと読んで行くというのは世
界で誰もしたことないんじゃないかと
思って挑戦したんですよ。

やってみたら面白かったですよ、辛
かったけれども。終ったあとに何か一
つの充実感があってね。一つのことを
成し遂げたっていう――。

そんな中からひとつ、雑誌の広告は
一つの文化だ、っていうことがぼくは
分ったんです。

文芸春秋読んだときに、あの文芸春
秋でさえ、オカしい間違いがところど
ころあるわけだけど、広告っていうの
はミスがほとんどないですよ。

そしてその広告には世界の名だたる
ウイスキー、腕時計、万年筆、ライタ
ーなど、高級品がバツと並んでいて、
いかにも今の日本の文化を代表する品
物がそこにあるわけです。

同じ目で今のポパイを見てみればね、
ポパイに出てくるものを通じて今の若

者たちの状況を探れるんじゃないか。
同時に女性誌を見れば女性の世界がわ
かるんじゃないか、という気がする。

そんな視点で各時代の代表誌を三つ
ぐらいずつ見れば、過去を遡れるんじ
やないかなと思うんです。

そんな古い雑誌をひっぱり出してき
て読むというの、ものすごくコッ
ンすることであってね、だから雑誌っ
ていうのはいろんなとらえかたがある
んだな、っていうのを知ったわけです。
いい雑誌とか悪い雑誌とか、面白い
雑誌とか面白くない雑誌とか、四の五
のいってるだけじゃつまらないんでき
よ。

「雑誌は時代を反映するものであ
る」これはそのとおりでありましょ
う。ただしそれは、現実を直接反映
するという意味ではない。実際、こ
と女性誌に関するかぎり、紙面には
女の現実ほとんど反映していない
のだ。(ハवाईは別です)

最近の女性誌でのやはり「個性
のファッション化」だ。翔んでる
(らしき)女の暮しの、生きかたの
「ファッション化」だ。
そこにあるのは現実でなく、夢で
ある。

女性雑誌は「夢」を売る娯楽商品
と観念すればそれですむが、それを
現実の反映と思いこんで読む人もい
るところに、活字というもののヤバ
さがあるのではありますまいか。

――しょせん雑誌はたかが雑誌ですか
らねえ。真実なんて伝えられませんよ。
雑誌はウソツパチの世界でね。ウソ
として作りウソとして読むところに一
種バカバカしい魅力があるんでね。
日本人の国民性もあるでしょうけれ
ど、活字をわりと信用しやすいタイプ
ですね。ウソを書いちゃいけない、冗
談はダメだ、っていうところがあるで
しょう。

もっとも雑誌といっても、読者の層

によって性質がちがうんですよ。女性を対象にするのも、青年を対象にするのも、医学なら医学を扱うのもあるでしょ。そういう読者層によって、真実の伝え方も違ってきますよね。

まあ単純にいえることは、大部数になればなるほどウソになってくることはたしかでね。でなければ成立たないようなところがあるわけで。

それと営業ベースが優先する会社であればあるほどウソになってくる。だからマスで、大企業の出版社が出している、テリトリーの広い大部数雑誌はウソが多いですよ。真実を書いていれば例えば広告入ってこなくなるだろうし、夢はなくなってくるだろうし。雑誌というのは共同大幻想という原則の中で作られてるものだ、と思いますね。

これが小部数になってくると、また専門化してくると真実度がましてくるといふことはあるんで——小部数になればなるほどウソツッパチになってくる



んじゃない誰も買わないから。(笑)この公式をあてはめていけば大体わかりますよね。

それから子ども雑誌っていうのは、わりと真実なんです。子どもっていうのは欲求がモノスゴク素直だから、例えばいいわるいは別にして、面白いと思うものは評価するから、作る側も、いいわるいは別にして、面白さを提供しなければ成立たないわけですね。

主婦の人たちがマガジリ吊上げるよいうな、いわゆる良識で考えればよくなりたいなものが、少年誌の中にはたくさんありますよね。でもそれは読者が正直だからそうなってくるんで、学習誌をその目で見るとすぐ陳腐です。学習誌ではあい変わらず、現実にはとてもこんな子はいないんじゃないかっていう「よい子」が出てくるでしょう。

ぼくが雑誌の中ではいちばんきらいなものの一つに「太郎塾」っていうものがあるんだけど、この「太郎塾」

ってというのは、親の恐怖心を利用して、子どもをだしにしてショーバイをして行くっていう雑誌です。

例えばおたくの子は今のままでだめになってしまふよ、っていうのをサンザン言っておいて、今度はそれをよくするためにこういう方法がある、というのを本の中で語る、という、つまりマッチポンプなわけ。

しかしこれは雑誌としては非常にうまいやり方なんですよ。

ウブな女を巧妙な手練手管でだまらかして行く悪い男みたいなね。そういうしたたかさみたいなのがあって、雑誌を作っていくほうの目から見ると、ぼくはこの「太郎塾」のやり方はすごいな、と思うんですよ。

ところが読者のほう、例えば父親の目からみると、とんでもない雑誌なんですね。こういう雑誌を無批判、無抵抗に受け入れている母親というものの顔が見たいな、っていうかんじがする。

それからいまま、一番問題になるのは

母と子の雑誌ですよ。たくさん出ている絵本、それから、学校あるいは幼稚園を媒介として跳梁している雑誌、これはみな悪です。

つねに「正しい」ことのオソロシサ

例えば福音館の「母の友」なんかはつねにすごく正しいことをいっているわけですよ。いってるんだけれども、

あれは実際には、正しすぎちゃって、あまりにも正しすぎちゃってウソッパチなんですよ。現場にはあんな世界は全くないんですから。

例えば名作「大きなカブ」なんていうので、「大きなカブをおじいさんとおばあさんが抜きました。これをどういう教訓として読ませましょうか」

教訓なんてものは必要ないんじゃないかと思うんですよ。大きなカブをみんなで抜いた。スッポンと抜けたその面白さだけでいいとぼくは思うんです。

それなのに「お父さんお母さん、こ

れはこういうふうに教えてあげましょう」というのがつまり「母の友」なんですよね。

これはいってみれば、全国の同じ年齢の子どもたちを、同じ方向にひっぱっていくファッショといってもいいんだな。これはこういうふうに見るんですよ、他の見方をしたらバカなんですよ、という、これはおそろしいじゃないですか。

たとえばカブを抜いちゃったおじいさんとおばあさんは悪い人だとか、みんなで力を合せるのは二人がだらしないんだとか、カブが可哀そうだとかいう見方があってもいいじゃないですか。

「マイ・パースディ」なんていう女子中学生の読む古い雑誌があるんだけど、例えばカニ座の人は、今月はすごく地味なワンピースを着て浜辺に行きなさい、向うからいい恋人が現れます、なんて書いてある。何人かの人はそれを真に受けてやるかもしれない。一方

的にそういうことを押しつけられて実行するわけです。

この女の子が成人して女性になる、母親になる。これほど出版資本からバカにされた市場はないと思いますよ。もう女性週刊誌のことを四の五のいってもしようがないけど、ぼくはやっぱり、作ってるほうもほうだけれども買わされている女たち、ほんとに女たちよ、といいたくなるけど、つくづくバカだと思えますねえ。

主婦の友みたいな、毎年毎年同じ内容のものが、しかも四誌も同じような内容でやってること、それを許しているっていうこと、これは出版社というより、さっきいった占いの雑誌の年代からはじまって、女たちみーんがダメだ、ということじゃないんですか。

もの言えは

反響さまざまあって

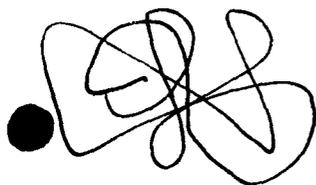
——「マガジン・ジャック」にもいろ

いろ書いていますから、全国から反響はありますよ。

朝日というのはさっきいったぼくの公式に当てはまる大部数の新聞でしょ。一番笑っちゃうのはね、「お前は朝日というケネイをカサに来て、四の五のいう」というやつね。ぼくは朝日なんて何とも感じてないんだから、そんなこという人ほど権威主義なわけで、チャンチャラおかしいんですけどね。何も朝日に頼みこんで書かせてもらってるわけじゃなし。

読者の反応っておかしいんですよね。例えばたのきんトリオをばかにするとたのきんのファンがぼつと手紙くれましてね、中には三十二歳の主婦なんという人もくれるわけですよ、真剣に。脅迫状もくるし、反響というのは半々ですよね。こっちのいうことが気に入ってくれたときは、「あなたが大好きです」とか、「あなたの愛人になりました」とかね。(笑) そういわれても困るんだけど。(笑)

(田中喜美子)



特集 私の恋愛体験

恋愛ぬきの人生を生きて

高 邊 芳 子
(東京都練馬区)



巷の女性雑誌、週刊誌などでは、恋愛の一つや二つするのは当たり前という前提のもとに、記事の書かれていることが多い。その度に、一度も恋愛したことのない女をどうしてくれるとつぶやくのである。ましてや五回、六回もの恋愛告白手記などを読むと、羨望のため息をつき、一回経験するとあとは気楽に次から次へと男の取っ替え引っ替えが出来るものらしいと、やっかみ半分に判断する。

日本中の女性すべてが恋愛をするとは限るまい。私のように恋愛しない女

特集投稿

だっているはずだ。そんな女を主人公にしてもらえないから、甘美な恋、苦悩の恋、遊びの恋など、さまざまに恋愛をしている女達で日本全国恋愛前線が走っているごとき印象を受けてしまっているのである。

恋愛は、男と女が好き合うという一つの理由のみだが、恋愛しない者にはそれぞれ異った多くの理由があるのである。

その中の一つで、気が弱くて恋愛する勇気のなかったのが私である。

恋愛は悪と思っていむ

高校の時男の子から手紙がきた。人並に男の子から手紙がもらえてうれしかった。さっそく返事を書いた。勉強の事とか中学時代の事とかを。

ある日、母に呼ばれて、いろいろで腕ぐみしている父の側に座ると、「この手紙は何だ」といきなりつき出されたのを見ると例

の男の子からの手紙である。二回目に

きた手紙が私の目にふれる前に父の手に渡ってしまったのだ。

「学生の身で男の子と文通するとは何ごとだ」

とさんざん叱られ、読むこともできぬままにその手紙を両親の目の前でいり燃やすと、父母は満足して、これからは、このようなことのないようにといった。

誰と文通しようと、私の勝手にしよう。私にきた手紙を勝手に見るなんてひどい。親といえども許せない。

そんな啖呵の一つもいえたらよかつたろうが、親に口答えするなんてもつてのほかだったし、素直で従順な私は二度と男の子と文通などしまいと思うのだった。

父はその後何もいわなかったが、母はいつまでも忘れず、三人で野良仕事に行くときなど、道すがら、ぐちぐちとその事にふれては腹立たしそうにのしるのだった。

「あんな家の息子とつき合うなんて何

というみつもなことをしたのだ。

誰のおかげで大きくしてもらったと思っている！ 親に断りもなく勝手なことをして、あんな家の息子と……」

もしいいところの息子だったらこれほどまで言ったかどうか、かえっていいところの息子とつき合えることを喜んでみだかもしれない。

「紡績へもやらず、苦勞して高校にやっていると……まったくお前にすぎがあるからこそあんな手紙が来るのだ。郵便配達が、あそこの娘には男から手紙が来たとき皆にいいふらしているよ。そんなだらしなない娘に誰が嫁のもらい手があるものか……」

肩にかついだ鍬を投げ捨てて後も見ずにすたすた帰ることもせず、小言を聞きながらうなだれて後をついて行く私だった。

そして嫁のもらい手もなくなるくらいにたいへんなことだったのかと今さらのように後悔する始末で、結婚できなくなったらどうしようと気弱く心配

するのだった。

このことよって私は異性への関心を恥ずべきことと思ひ込んでしまった。目ざめ始めた異性への興味を、小説を讀むことよってまぎらせ、恋物語に胸をおどらせ、素敵な王子様が見染めて恋をささやいてくれるのをうっかりと夢見るのであった。

高校を出て勤めに出ると、若さとはよいもので、美人でもない私だったが映画やお茶に誘ってくれる若い男性が幾人か現われた。

そのたびに、

「うん行こう行こう」

と冗談めかして答えながら行きはしなかった。

「昨日はずっと待っていたのにこなかったな」

と軽く肩をこずかれたりすると、くると思っていたのだからかと思議に思った。

女は男の言葉を真に受けてのこの出かけるものではないのだと思つてい

た。

誘いに乗るなんて尻軽女の証拠ではないか、ましてや二人で映画を見たりしたらそれこそ嫁のもらい手もなくなる！結婚する以外の男とは一緒に歩くことさえ用心せねばならぬ。

当時は昭和三十年代の初め、石原裕次郎、小林旭、赤木圭一郎などが主演の日活無国籍映画の全盛時代で、胸の熱くなる思いでスクリーンのタフガイぶりを見つめていたが、こんな定職もない風来坊に胸をときめかせるとは何たる恥ずべきことだ、と諫めながらも、あんな男と恋をしたいと、ひそかに思わずにはいられない娘心でもあった。

映画の主人公ではなく現実の男に恋心を抱かなかったかという、決してそうではなく、感じの良い人だな、好きな人だなと切なくなるような思いでながめた人はいっぱいた。しかしそれらの人は、私の周囲にいつつも接している人達ではなく、二回見るだ

けの親しく話すことも接することもない人に限られていて、はるかかなたから胸をときめかすのであった。

あの人私に一目で、おれしてくれてプロポーズしてくれたらよろこんで結婚するのよ、
と思つても、相手は私の存在すら気づかなかつたであろう。

もしこれらの人達が同じ職場で毎日接していたら恋心など湧くことはなかった。素敵な王子様は身近にはいないことになっている。

恋愛とセックスは別ものと

このように現実の男性には見向きもせず、はるかなる片想いをくりかえして、二十五歳で見合結婚をした。

恥ずかしいことながら、私は恋愛というものを、一目で好きになり、お茶飲んで映画を見て送ってもらう、それだけのものと思つていた。日常接してお互いの人間性を尊敬しあい、生

特集投稿

涯の伴侶として最高の人だと確信し、互いを必要とし求め合い離れ難くなつて、恋愛や結婚への出発点となることを、気づかなかつた。

それにもまして恋愛にセックスが介在するなんてことを知らなかつたし、思いもしなかつた。

私の考えでは、結婚の日取りが決まつて初めて接吻を交わし、結婚式の夜に初めて肉体関係(何と古めかしい言葉)を結ぶものだと思ひきつていた。

結婚前に体を許すような女を、男は軽蔑するのだと思つていた。それゆえ何をいわれても、気を許すべきではないのだ。恋愛小説をたくさん読んだはずなのに……

シェークスピアのハムレットとオフイリアはもちろん清い間柄だと疑いもしなかつた。ましてやロミオとジュリエットにおいておや。再び恥づかしながら結婚してのち三十過ぎるまでそう思い込んでいたのである。

ところが英国のシェークスピア役者が、

「自分はハムレットを演じる時はオフイリアと肉体関係があつたと解釈して演じている」

という記事を読んだ時、一撃をくわされたような衝撃を受けた。そうだったのか、そういうものだったのか、恋愛にはセックスも含まれていたのか、と初めて悟ることができたのである。

十四、五歳のロミオとジュリエットもそうだったというではないか……ああ……恋愛しないで良かったと思つた。

このような私が、もし恋愛していたら惨憺たるものとなつていたらう。

いったん心に泌みたものはなかなか抜けぬ私にとって、恋愛したからといって変わることはできなかつたであろう。二人で歩くことさえ用心するような女に恋愛などできようはずがなかつた。

恋愛にあこがれていながら自分から求めようとはせず、遠くから一目ぼれしてくれるのを待つような青春。それはとりもなおさず受身だけで生きてき

た私の人生そのものの姿でもあったのである。

恋愛するのは、勇気のいることであり、強さを持ち自我を確立することでもある。

そして、ひたむきに自分をさらけ出し、失敗しても立ち直つてしまつたと人生をみつめ、前進するものであつただ。

おそまきながら、今ようやくにして恋愛をする資格が得られたような気がする。

多くの人にとっては初めから備わつているものを、私には一大決心をして初めて可能になるのだ。

こうなつた以上は私だつて一生に一度でよいから身を焦がすような烈しい恋か、甘美なとろけるような恋愛をせねばならぬ。

しかしながら、実際には夫以外の男に近しく接する機会は何もなし、四十すぎたおばさんを一目見て、恋心を抱いてくれる奇特な男性がいようはずが

ない。

もしも、私と同じ年頃で妻子持ちの男性と心と心が通じ合い、お互いに離れ難くなって手に手をとって駆落ちしたらどうなるだろう。一緒に暮らしてみても、男ってこんなに大変なものだったのかと初めて気づくことになる。

前の亭主は何と手のかからぬ気楽にしていられる男だったろう。こんなことなら前の亭主の方がよかった、二人の子供はどうしているだろうと思うようになり、結局は恋の終わりを迎えるのである。そして恋愛と結婚は別だったと悟ることになる。

一方夫の方は、若い妻をもらい、女房とは、こんなによいものであったのか」と初めて女房のよさありがたさというものを知ってしまう。前の女房は何と不作な妻であったことか、ヒステリーはおこすし、家の中はいつも散らかしっぱなしで掃除一つろくにできず、押し入れの整理をすると、出したはよいがどう片付けたらよいか座り込

んだまま考え続けて日が暮れる始末でよくもまあこんな女に二十年近くも辛棒したもんだ」と悟ることになる。

所詮、私にとって恋愛はかなわぬ夢である。こんなことにうつつをぬかしてはいられぬ。

女房とはこんなによいものであったのか、
などと夢々夫に知られるようなことをしてはならぬのだ。

「貴方のようなご立派な男に、私だからこそ我慢してついているのよ」といって続けて行かねばならぬ。

遅すぎた春は実らず

昨年九州の実家に帰った時、学校時代の同級生達とスナックみたいなどころに行つた。後から入ってきて向こうのテーブルについて四十半ばの男に見覚えあり、側の一人に聞くと、そうだと行ってわざわざ私のいる事を教えに行つた。そして私を連れにもどつてきたので、

「久しぶり」
と側に行くと、

「本当に君か」

と大変なおどろきようである。

娘時代に私を好きに思ってくれた人でもあったが、遠い王子様を夢みていたのでまるで反応を示さなかつたのだ。

「本当に君か、まったく夢のようだ」

私の両手をにぎりしめて、夢のようだ、夢のようだ」とくりかえし涙を流さんばかりにして喜んでくれるのである。

十八年ぶりの再会である。

お互いに白髪が目立ち、中年のおじさんおばさんになっているのだが、十八年前と同じに思えてくるからおかしなものだ。

あまりの喜びように席を立つわけにも行かず、踊ろうといわれ踊り出すと「夢のようだ、夢のようだ」とまたしてもいい、きつく抱きしめてくる。離すのに一苦労だ。

「僕は君が好きだった。だけど君は○

特集投稿

○さんを好きだった」見当違いの○○さんの名前を出して、耳もとでささやく。素面ではいぬ言葉だろうが、酒の力でぐいぐい押してくる。真底から、本心をいつているのが痛いほどわかる。二十年前、この人の熱い目差しを感じたものだったが、その時と同じ気持ちを持ち続けていくくれることに胸の熱くなる思いだった。『妻の恋愛』が取沙汰されている昨今、このような形で始まるのだろうか、頭の中では冷静にながめている。

一回は恋愛とやらをしてみたい
夫や子供がいうとなんのその
人の口の端にのぼろうともいとはいは
せぬ

討ちてし止まん夜明けまで
心の準備はできている
チャンス訪れなばいざ出陣
しかしながら、二十年前と同じよう
に、胸のときめきも、慕わしい気持ち
もわかず、いまだに私のことを想って
くれることに、唯々感激するのみであ

った。
恋愛をすることはむずかしいと思っ
た。

私には不向きであるらしいと思う。
恋愛の喜びと苦しみを経て人間は成
長するという。私は恋愛の喜びと苦し
みを知らない。それゆえ、それで人生
が左右されることもなかったのである。
しかし心の貧しさ、いびつな考え方
ゆえに、ふつつつと湧き出る情熱を押し
かくして、恋愛を持つことのなかつ
た悲しみを知っている。それは私を哀
れな淋しい人間にした後、弱さゆえに
偉大であることを感じとる心の豊かさ、
強さを得させてくれた。

私は、私にふさわしい、私の道を歩
いていることに強い自信と誇りを見出
すことができた。恋愛は長い人生に
とって一コマでしかない。それを大き
なものとして捕えるか、小さなものと
するか、人さまぎまである。

それぞれに立派な人生である。
とはいえ、私にとって恋愛は永遠の

あこがれである。それはひそやかにあ
こがれるものを持つ己が心を楽しみ、
豊かなみずみずしい情熱を持ち続ける
ことでもある。



時は流れて

私の恋は背のびの連続だった

大辺理衣

(東京都世田谷区)

恋に恋していた私

昭和二十五年頃、東京の街は、まだ戦後の傷跡が深く残っておりまして。ビル街に焼けた鉄骨がさらされていたり、駅の周辺には闇市が存在して



いたのです。しかし、復興の息吹は、力強く、東京の街を包んでおりました。「青い山脈」の唄が街に流れておりました。

私は、その頃、法務府特別審査局の翻訳課に英文タイピストとして勤めて

おりました。

タイピスト学校を出たので、ひよこでした。私にとって生まれて初めて、自分の力で働き、お金を頂ける身分になったのでした。何もかも新鮮でした。昼休みには人事院ビルにあった職場からビルの前のマロニエの街路樹の道を散歩したり、お堀ばたでねころんだり、銀座まで足を伸ばしたりしました。

私は学生時代から小説が大好きでした。世界文学全集は、ほとんど読破していました。働くようになって、サラリーの何割かは、本代として消えていたのです。

小説の中の華麗な恋、清純な恋、甘美な恋に心酔しておりました。そして、自分にもいつの日か、必ず自分にふさわしい相手があらわれる事を願っておりました。

恋に恋する乙女心と言えましよう。

ある日、私は、一人の少年と役所の廊下でばったり会ったのです。私の胸

特集投稿

は早鐘のように高鳴ったのです。自分で自分の頬が染まったのが解りました。少年は、まっすぐに私を見ました。涼しい瞳ときりりとしまった口元が印象的でした。私は、とっさに感じたのです。私の描いていた恋人の姿であると。二人はすれちがいました。私は、すぐにふり返ったのです。少年もふり向きました。目と目が合いました。私は夢中で、その場を駆け出して逃げたのです。

十八歳の少女は、同じ職場の青年Tに恋をしたのです。休み時間になると、用もないのに、Tの職場のあたりをうろつきました。もしかして、ばったり彼に会えるかも知れないとはかない希みを抱いていたからです。

彼の心をとらえよう

私は当番でもないのに朝一番に出勤しました。そして、自分の番でもないのに食器を洗ったりお茶を入れたりしました。何故なら洗場でTに会える可

能性が十分にあったからです。Tに会うように努力をしたのです。別に話をするのでもありません。身近にいるそれだけで幸せなのです。たまに、目が合うと、胸がドキドキしました。これが恋というものなのだと思いに言い聞かせておりました。

Tは、その時、新宿高校(旧六中)の夜間部に通っておりました。きっと早稲田の法科へと進むのだろうと思っておりました。当時、法務府に勤務していた男性のほとんどが、昼間働き、夜は、中央、早稲田、明治等の大学で法律を学んでいたからです。法曹界の常識でした。

土曜日の午後、大きな机を並べて、ピンポンをするのが慣わしとなっておりました。夜間高校や大学へ通う男性達にとって、午後は学校へ通うまで時間があつたからです。私もそのピンポンに入れてもらいました。学生時代から、少しは自信があつたからです。もちろん、私のお目当は、Tと勝負すること

でした。私の打ち込みが成功して勝つと、私は鬼の首でも取つたようにはしやぎました。汗びっしょりになって、小さなピンポン玉を打ちました。私の恋心を託して。

募る想いをどうしようもなく、私はTに手紙を書きました。私の切ない胸の中を打ち開けてしまったのです。今考えれば、なんと大たんな軽率な行為だつたことでしょう。

「僕にとって、恋と野心は両立しないのです。僕は、恋よりも野心を取りません。あなたの気持は、僕にとって重荷でもあり邪魔なのです。解って下さい」
このような意味の返事が返ってきたのです。痛烈な悲しみに誇り高い私は深く傷つきました。当時の私には、相手の立場を思いやる配慮が皆無でした。ただ、一方的に、自分の気持を押しつけていたのです。それが、若さ故の無智だったのでしょう。傷ついた私は、それでも役所をやめませんでした。彼がいたからです。

俳句がきっかけで

季節が移りました。

翻訳課には、風流人が多勢おりました。句会を開こうと言う人の声に、皆参加しました。女子職員にも、勧誘の声がかかりました。しかし、参加したのは、私一人でした。俳句なんてむずかしい。これが女子達の声でした。五七五と言葉を揃える、それに季語を必ず入れる、それだけの事にすぎない。私は安易に考えておりました。

土曜日の午後、第一回俳句会が翻訳室で開かれました。席題は「春の雨」でした。外には、春雨がかすむように降っておりました。私も、知ったかぶりをして、目を閉じました。我家の庭に、白い花が咲いていたのを想い出して、

庭陰に白き花あり春の雨

と作句しました。生まれて始めて作った句です。私には生涯忘れ得ぬ句になるでしょう。上手な、風流人達の作

った句をさしおいて、何んと、この句が高得点をさらってしまつたのです。

句会報は、すぐに謄写印刷されました。そして、役所中に、それは配布されたのです。私が紅一点で俳句を作つたことも知れわたりました。

それから数日して、朝出勤すると、私の机の上に、一冊の句誌が置いてありました。その表紙は可愛らしいメルヘン調の多色刷の謄写刷でした。うすい小冊子のどの頁にも、これを作成した人のあたたかさが伝わるようでした。私は夢中で頁をくりました。そして、最後の頁に、発行人の住所氏名を見たのです。発行人の苗字はTと同じでした。私の心はふるえました。まさかとうたがいました。

私は勇気を出して、Tに会いに行きました。あの時、自分の想いを却下されて以来、なるだけ、さけるようになっていたTにです。

「ありがとうございます。これあなたが、下さつたのでしょうか」

Tは恥ずかしそうに言いました。

「父が発行している句誌です。この前の句会報を父に見せたんですよ。あなたの句を賞めていました。よかつたら、父の句誌にも投句して下さい」

私の凍りついていたTへの気持が、この時どつと奔流のように流れ去りました。

俳句を作ろう。一生懸命に俳句を作ろう。そして、上手な女流作家になつて、Tの父に認めてもらうのだ。そうすれば、私のTへの恋も必ず成就すると私は固く信じたのです。

私は、俳句について勉強を始めました。専門の俳句雑誌も購読しました。歳時記も買いととのえ、俳句入門書を始め、有名俳人の句集を片ぱしから集めました。近所の本屋に、俳句雑誌を買いに行く度に、そこのおかみさんが言いました。

「あなたが俳句を作るのですか？ とっても信じられないわ、若いのに、えらいわねー」

特集投稿

同じ年頃の女の子達が、その当時流行っていた「ひまわり」を買っている頃でした。

芭蕉について勉強しました。奥の細道を読み返し学びました。蕉門十哲を諳んじたり、蕪村や一茶についても、独りで本で学びました。好きな人のために学ぶ事は、疲れを知りませんでした。今に、きつと名のある女流俳句作家になって、世に出よう、T夫人として。私の夢はバラ色に輝いておりました。

句会にも、休まずに出席したのです。中年のおじ様達（Tの父も含めて）や、御老人達が主になって、句会は運営されておりました。十代の小娘が、ちょこんと、句会の下座にいるのは、一寸ばかり場ちがいユーモラスでした。でも皆様に、マスコットとして可愛がられ、甘やかされました。

思わぬ人に思われてとまどう

萬緑叢中紅一点とおだてられ私は得

意でした。母にせがんで和服を着せてもらったり、ことさら自分を目立たせるように努力もしました。句会は、月に二回ありました。東中野のフランス料理店モナミと、同じく東中野の氷川神社でした。

しんしんと降りしきる雪について、句会へ行くのは楽しいものでした。極暑の中、汗びっしょりで、緑陰深き氷川神社へ参るのも、さわやかなものでした。春の野辺への吟行、秋の神社仏閣への旅。私は、俳句の世界へと導かれていたのでした。

この道に入って、間もない頃でした。私の句が主幹の目にとまり、巻頭十句の中に選ばれたのです。

薪いぶり涙する目にはげいとう
当時、まだ薪でごはんを炊いたり、煮物をしたものでした。私も、母の手伝いで夕飯の仕度のために薪をくべていたのです。それがいぶり出し、目に入ったところへ、庭先の真赤なげいとうの花が目映ったという、ごく単

純な写生の句でした。

しかし、この句に対して、思いがけない理解者が登場したのです。私の単純な発想以上に、この句を掘り下げて、解釈してしまつたのです。その人は、Kと言いました。同じ同人誌に、それは、鋭い句を投句していたのです。私も、上手な人だなあと思っておりました。私は、Kの解釈にびっくりしてしまいました。

そして彼の存在が気になり始めたのです。彼を知る人より、Kの事を聞きました。都立一中時代（今の日比谷高校）学年で一番の成績であった秀才でしたが、カリエスを病んで現在は、闘病中であるとの事。たまたま私の属している句誌に俳句を投句している事などでした。病気になつていなければ、東京大学に入学して勉強していたにちがいない人でありました。当時の日比谷高校は日本一東京大学への合格率の高い学校でした。

私は、手紙を書きました。私の句に

対する解釈の事や、もろもろの事をそえて、打てばひびくように返事がきました。私の理想の人そのものでした。

素晴らしい人でした。私の気持は、徐々に、Kに傾いて行くのでした。現実には、Tの妻になる事が最高の夢であった私が、俳句を通して、Kの心を尊しとしていたのです。手紙の数が増える度に、Kのやさしさ、人柄が、私をぐんぐん引っぱって行くのでした。

気がついた時には、私の心には、TもKも同じように恋しい存在になっていったのです。Tには、ほとんど会っていませんでした。私が、俳句に夢中になってすぐに法務府を退めて、他の職場に移ったからです。

私は、Tに対する気持を友人に打ち開けました。

「あなたの恋は観念的よ、本当の恋とは、身も心もとろけるような灼熱のはずよ」

と言われて考えたのです。何時の日か花咲かんと待っているTへの私の恋、

一方では、清純なKに、傾いていく自分の心をどうしようもなくなっていた私であったのです。

青りんご心通はぬままかじる

Tへの切ない想いをこめた句でした。背信の身に固く結う单帯。

Tと、Kとへの想いにゆれる私の心でした。

Kからやがて、愛を打ち開けたカードが届いたので。それは、短歌に託されていました。神様も知らぬ自分の心の花園に咲いた、一輪のバラの花、それはあなたなのです。このような意味の歌でした。私は、あっと驚きました。Kの初恋の人は私になっていたのです。悪気はありませんでしたが私は、二人の青年の心を結果としてもてあそんでいたのでしょうか。このまま、ずるずると、続ける事は許されなれないことなのです。

私は、Kに全てを打ち開ける決心で彼の家へ出かけました。おそろしく出会えませんでした。花束を家人に託し

て帰りました。

Tに、全てを打ち開けて、Tへの想いを断ち切るべきかとも考えたりしました。私の恋をはねつけたとは言え、父君に紹介し、私に俳句への道を与えてくれたTなのです。私の事を、見捨てたのではない。長い目で見ようとの暖かい配慮だったのかも知れません。

私は、全て、自分の都合のよいように物事を考えていました。Tが、大学を出て、一人前になるまで、じっと待つ事が最上の途ではなからうか。私は不安でした。すぐに手を伸ばせば確かめられる何か欲しかったのです。Kは、明白に、私に対する恋を歌ってくれたのです。しかし、Kが、病気を克服し、学業に戻り、社会人になるには、長い月日が必要なのです。又、Kがそのような社会人となった時に、私のような名もなく貧しい小娘は、ふさわしくありません。立派な名家の御曹子として、東京大学を出て、エリートコースを歩んでいくのです。私には、

特集投稿

ついで行くことの出来ない社会の人となるでしょう。私には、もつと気さくな庶民的な人の方がふさわしいのです。

冬の日、私は、Kに会いに行きました。始めて会ったKです。清純なりりしい青年でした。私は、自分の心話をせませんでした。雑談でのごして帰りました。

雪の降る日でした。私はTの家の近くまで歩きました。代々木の明治神宮の側のTの家の辺りを歩きました。雪はずんずん積って行きました。この辺りを歩いていけば、Tに会えるかも知れない、すると、雪の中を一人の学生が歩いてきました。

学帽に雪乗せくも憎からず

その人は、Tではありませんでした。その当時、彼は、早稲田へ通っていたのです。

夢となって残る恋

以上は、三十年も前の出来事であります。私は、TともKとも別れました。

俳句への道も挫折したのでした。あんなにもあこがれていた女流俳人の夢は、あの時で、終わりました。

私は、私にふさわしい庶民的な人と結婚しました。名門でもありません、秀才でもありません。お互いに、お互いの重荷になるようなものは何一つありませんでした。背のびしてついて行く事は、長い人生には続かないことでしょう。その人に合わせる努力をしてもしよう。崩れることでしょう。T夫も所詮は、崩れることでしょう。T夫人になるために俳句を勉強をした私でした。動機は単純でした。Kに合わせようと、自分を高めるために努力をしました。本当は、辛かったのです。コップ一杯には、その分量の水しか入られられません。私は、Kに合わせようと必死に、水を濃縮して、二杯分詰めこもうとしたのでした。無理には必ず悲しい結果が待っているのです。そして、傷つけなくてもいい人を傷つける羽目になってしまいます。

私は、現在の結婚生活に満足してい

るわけではありません。しかし、別れる理由もありません。平凡です。これからも、この平凡な生活が続いて行くことでしょう。

私は、夜中に夢を見るのです。Tの夢です。私が、パフスリーブのワンピースを着て、麦わら帽子をかぶり、学生と、楽しく銀座を歩いているのです。とても幸福な時です。二人とも十八歳です。

Kの夢も見ます。二人で本を読んで、お互いに、本の内容について話し合っているのです。さわやかにKは私に話しかけてくれるのです。二人は十八歳と十九歳です。

夢が覚めると、私は、現実の世界に戻ります。隣には、長年連れそった夫が、寝ているのです。一日の疲れをいやすために。妻や子のために働いている夫の隣で妻は、昔の恋人と、夢の中で会っているのです。これは神が与えた贈物なのでしょうか。それとも、罰なのでしょうか。

プロポーズなんかうんざりだ

プロローグ

男たちが私の上に

とてつもない夢を描く

瀬川江里子 (33歳)



十三歳の日、私は「ジュエリン・エア」信者だった。男と女は、あのように魂の深層から魅かれあって結ばれなければならない。そして女性たるもの、ジュエリンのごとく毅然としているべきだと信じていた。そのころ、ちよっとしそのころちよっとした事件があった。近くに住んでいた父の同僚の奥さんが初めての赤ちゃんを産み、その一週間後に亡くなったのである。自分の死を予知したこの奥さんは、赤ん坊のこれからを心配して、「妹が私のあとに後妻に来て、この子の母になってくれればいいのに」といつつ息を引き取った。昭和フタケタ生れの女性にしては大時代な遺言であったが、極限にいる人間は何を思うか分ったものではない。ところがその妹は、両親親類のつるし上げの説得にもかかわらず、姉の後釜になることを承諾しなかった。この話を聞いて、私の母は怒り、「死んでい

特集投稿

った姉さんの頼みをことわるなんてあの妹さんはきつといつか天罰があたりよ」と憤慨している。

母の言葉に、私は天地がひっくり返るほど驚いた。女は、必要の生じたところへ配給される実用品だとも言うのだろうか。死んだ女性の遺言も変てこだし、やもめ亭主のほうもまともじゃない。亡妻の一族あげての妹説得作戦を横目で見ながら、「あのー、それ、ボクの奥さんのことですよ。子供が継母にいじめられるとかわいそうだから叔母を引っぱってこようとしてるんじゃないが、誰と再婚するかは、ボクが決めることとちがうんじゃないか」ともいわず、なりゆきまかせにしていたこの男、ウルトラ級のバカだと思った。

ああこの後添え騒動、わが理想のジョン・エア精神と、なんとへだたりがあったことだろう。このできごとで、私は母の、成熟した女性としての精神年齢を知った。親の決めた相手と結婚した母は、実にいいかげんな結婚観し

か持っていない。私は初めて「あの女」という表現で母のことを考えるようになり、「自分の人生における大切なことは、決してあの女に判断させてはならない」と誓った。

同じ年に兄の友人が私に恋をした。

家へ遊びに来ていたときに、私が兄の部屋へお茶菓子を運んだのがきっかけだった。兄のところに次々に手紙が来て、「水色のカーディガンを着た色白の顔」だの「不思議な精神性を感じさせる少女」だのと書きつらね、どうかつきあえるようにしてほしいと頼んでいた。兄はマジメ学生だから、あんなの子供だよと受け流していたらしい。

私のほうは、あこがれるようなタイプでもないその高校生に対して、ちっともドキドキする気持がわかなかつた。「あの運命的な日、庭には淡紅色の花が咲いていた」などといわれても、こっちがちっとも運命的だと思っていないのだから、こっけいなだけである。その男はハンサムなほうではあったが、

顔つきがイノシシと似ていた。淡紅色の花というのは「木瓜」のことだから、私は心の中で彼を「ボケイノシシ」と呼ぶことにした。

「同志的恋愛」

ベビーブーム世代の受験をくぐり抜け、広いキャンパスの上に来て、やっと自由な空間に来た思いだった。ずっと男女共学の学校にはいたが、自主活動をきびしくとりしめる学校だったから、男子と女子がフランクにつきあう空気というものを私は知らない。

クラス討論もコンパも、キャンプも大学祭も、何もかも楽しかった。

友よ 夜明け前の闇のなかで

友よ たたかしの炎を燃やせ

私は社会科学の本を読み始め、グラムシが昆虫ではないことを知った。自分の価値観が形成されつつあると感じていた。

女子学生が一部に満たぬこの大学は、男性研究にもってこいの場所であった。

需要と供給のアンバランスは、珍現象を引き起こす。

たとえばの話、水書で家を流されたことのある知人は、避難所に届いた握り飯が、一流コックのデザイナーより美味であったと言い張っている。男女関係もこれと同じで、よほど陰気か偏屈でないかぎり、女子学生はもてにもてる。泉ピン子が栗原小巻に見える場所であった。

というわけで、私にだってコーヒーを飲む程度のボーイフレンドくらい自然にできる。そのうち面白いことを発見した。ほんの少し親しくなってくると、男性は女性にいろんな注文をつけるのだ。バッグを肩にひょいと乗せて歩いていたら、「そんな格好はやめたほうがいい」という。この男、私が考えこんで腕を組んだら、また文句をいう。別な男は「その黒セーターはすぐやめて淡い色だけ着るといい」などといった。彼らは私と、帝国主義について、人間の根源的解放とは何かについて論じ

ていたのだ。彼らの主義や信念は、私の立居振舞や服装への注文と、どういう関係にあるのだろうか。私は彼らに対して、「そのニキビ跡を整形して直してこい」とも「出っ歯の人間はアゴをつきだすな」ともいったことはないのだ。

街には「アナタごのみの女になりたいたい」の歌が流れていて、聞かたびに鳥肌が立つ思いがした。男性からの干渉がいやで、私のほのかな恋は、芽ばえたところでしぼんでしまうのだった。

十九歳になって、五つも年上の大学院生と本気で恋をした。ボランティアグループの先輩にあたる男性で、グループの会合にやってきて語る言葉が、何とも人間味あふれていた。同年や一つぐらい上の男と全然違う魅力を感じ、コンパの時に彼の隣に座れるよう画策したりした。

空いている時間をすべて二人で語り合うことに使う。テーブルをはさんで一時間も沈黙して向い合っていることもあった。将来もずーっと一緒にいた

い、と二人とも思っていた。私は彼にめちやくちやに惚れこんでいた。彼は人生案内書のような人物で、私にさまざまなことを教えてくれた。

今にして思えば、私は「恋は盲目」現象にはまりこんでいたのである。恋におちる前の私は「教える男」というのがキライだった。あちこちの大学の学生が入りまじったのキャンパス帰り、わが大学の男子学生は、女子短大生をつかまえて安保だの初期マルクスだのを教えこもうとする。意識の遅れた女性を引き上げてやるうという優越感がミエミエである。短大生は当惑しつづうれしげに聞いている。そばでそれを見ていて、こういう関係はアホみたいだと思っていた。男子学生の話聞いていけば、ああ、あの本の序章だけ読んで右から左へとしゃべってるな、とネタが割れてしまうだけに、あんなのにコロッといく女性じゃなくてよかったです。思ったものだった。

ところが、あこがれの男性が自分の

特集投稿

ほうを向いてくれたので目がくらみ、自分がそこにおちこんだ。——当時の私はそこまで見えず、将来二人は、すばらしい「同志的夫婦」になるだろうと信じていた。

私は商品じゃない

二十歳になったら、両親が私の縁談のために動き出した。母は女学校同級生の仲人マニアに私のことを頼んだらしい。母がそんなふうなのは前からわかっていたが、父が会社につながる縁からの見合話を持ってきたときには、ひどく傷ついた。父は、私の留守に机の引出しからスナップ写真を持ち出して、間に立つ人に渡し、相手からぜひ会いたいという返事までもらっていた。かって自分の蔵書を私の前に開き、存分に読めと言ってくれた父である。その父が「大学院を出て二十六歳」で「従業員が何百人いる社長の息子」とかへ、私を売りつけようとしているのだ。父は稼いでいるのでなければ男と

認めず、つきあっている院生など問題にしていなかった。

父も母も、私がどういう人間になるうとしているのか、結婚相手はどんな人間であるべきかはどうでもよくて、娘を売れ残りにしないのが愛情だと思っている連中なのだ。私は両親に心を閉ざし、帰宅すると階段をかけあがって部屋にこもった。

おしゃれをする気が全くなり、黒っぽい二本のスラックスと二枚のセーターを取り換えるだけになった。年



頃の娘らしからぬ風体で暮すうちに、親は見合写真を撮れとは言わなくなつた。私は、店に並ぶ商品になることを全身で拒否していた。

商品でなければ、どう生きればいいのか。困ったことに、目に入る先輩女性のなかに、モデルを見出し得ないのだった。

たとえば、教師同士で結婚して赤ん坊を育てながら共働きしている女性。価値観を同じくして結婚したはずなのに、家事育児はほとんど彼女の肩にかかっている。夫の方は研究会だ政治活動だと深夜の帰館。彼女は、彼が政治をよくすれば、それは女性の地位向上につながる、だから私は耐えるというふうに分をぐまかすつき、夫婦関係の中で自分らしさを保っているとは思えなかった。

ある女性は人里離れた障害児施設で意欲的に働いていた。ところがそこには独身男性はいない。三十近くなって急に見合し、職を捨てて結婚した。

「若くも美しくもない自分でいいと
いつてくれるなら、よほどひどい男性
でない限り誰でもいい、そうしなけれ
ばもう母親になれない」と友人に語る
ような結婚だったという。

大学を中退して就職した友人は、勤
め先に出入りする四十代の医者に、恋
されてしまった。医者は彼女の前で酒
を飲み、オイオイ泣きながらいうには、
「ワイフは何の魅力もない女だけど、
子供たちにとって母親は絶対だから、
オレは子供のために離婚できないんだ」
友人は「寝たこともない男に泣かれ
ても困るよね」とケラケラ笑っていた
が、私は医者 of 妻のことを考えた。な
るほど、家の中の仕事に専念して魅力
をなくした女は、子どものおかげで食
いっぱぐれずにすむのか。「家庭に入
る」生き方の末路はこれだ。
目につくものすべてを否定し、暗い
顔をしていたこの時期にも、男性が接
近してきた。

歩道を歩いていると、ガラス張りの

喫茶店から男子学生が出てくる。私が
通るまで三時間もねばっていた、など
という。

電車の中で隣の席に男が座り、「食堂
でいつもあなたを見かけていたんです
が、ちょっとお話を」話しかけてくる。

講義が終って立ち上ると、後ろの席
に、日本の端つこの大学から旅してき
た、かのボケイノシシ氏が座っている。
兄の友人としてだけ挨拶して、「今どん

なことをしてらっしゃるんですか」と
儀礼的に聞くと、「君のことを考える以
外はすべて無意味なことです」ときた。

こうなると、もう惚れられることに
不感症になってくる。もてるといつて
もいろんな種類があって、私は決して
気軽な遊び相手や、家庭を築く実用女
性としては求められなかった。孤独な
暮しの中で強烈な自負心を持っている
アクの強い男性が、私のうえにとてつ
もない夢を描く。あの女性を得ること
で、自分の一生にはすばらしい精神的
価値が加わると信じこむのだ。

彼らが描く私の像は、実像とはほど
遠いものだと思えて、私は彼らに同情
できなかった。ステディなボーイフレ
ンドがいることを伝えて、お引き取り
願った。

だがそのステディな関係がゆらいで
いた。彼にとって私はセラー服を脱
いだばかりの女の子に過ぎず、日々流
動している私の内面を把握しようとし
てない男であることを感じ始めていた
のだ。それでも神聖なスケジュールと
して、習慣化したデートを続けていた。
どちらを向いても心が晴れず、やた
らいさましい歌ばかりが口をついて
出る。

暴虐の雲光を被い

敵の嵐は荒れ狂う

怯まず進め我が友よ

敵の鉄鎖を打ち砕け

だが、どこへ進めばいいのだろうか。

追いかけて男が出た！

そこへ竜巻がおそってきた。自主ゼ

特集投稿

ミナールの助言者として来ていた大学院生が、私を生涯の伴侶とすることに決めたのだ。

ある日コーヒを飲みながら、六歳上のその男がいった。

「ボクは、自分と同じ分野を専攻する女性研究者と結婚して、学者夫婦になるうと思ってます」

「へーえ、いいですねえ。シェークスピア研究でも有名なご夫婦がいらいっしやいますね」

「そう、あなたもいいと思いますか。それじゃあなたは、明日からこのリストに従って勉強してください」

「えっ、自主ゼミでこんなややこしいことやるんですかあ」

「何言ってるんですか、これはあなた一人がやるんです。残念ながらボクと学部が違うから、基礎からやんなきゃいけないけれど、あなたなら一年もやれば、学部はすつとばして大学院に合格できますよ」

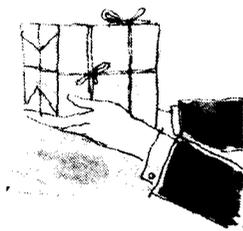
「えーっ、どうして私が」

「さっきあなた学者夫婦はいいですねっていったでしょ」

「私は、えーと、シェークスピアの、なんて名前だったか度忘れした、あの」

「ボクもそうなるべきなんですよ」
「!!」

結婚の意志はないし、学者にもなりたくない私はいった。しかし彼は、私が未熟であるために、自分がどうすべきなのかをつかめないのだといい、それが理解できるよう指導してあげる」と請け合って、私の言葉に耳をかさな



かった。

そのうち私のところへ大きな書籍小包が来て、例のリストの本がそっくり入っていた。間を置かず、彼の四年分の日記帳十数冊が送られてきて、「僕を誰よりも理解できる人間になるために読んでほしい」と書いてある。

私は閉口して、彼を喫茶店に呼び出し、彼の座席の横に二つの包みを置くと、「大切なものですから返します」と一礼して小走りに店を出た。そしたら彼は追ってきた。横断歩道を渡ろうとする私の前に、ゴールキーパーのように立ちほだかり、必死で通すまいとする。通行人が見物しはじめた。やむなく店に戻るとたちまち上機嫌な顔になる。

実をいうと私にも弱みがあった。ゼミ・コンパの夜酔っぱらってフラフラになり、彼と腕を組んで約八十メートル歩いたのである。だからといって結婚の義務が生じるとしたら、身体がいくつあっても足りないではないか。

彼は執拗に私を追いかけてくる。彼が近づいて来るのを見て、タクシーにとび乗り、駅の名を言った。だがすぐ赤信号で止められたところへ彼が追いついた。運転席のガラスをたたいて、「いやぁ遅れてごめんごめん」と恋人のような親しさで乗りこんできて、運転手に繁華街の名を告げる。私が「いえ、△駅です」と叫んだのに、タクシーはUターンして繁華街に向かった。私はこのとき知った。この世は男性と男性との関係だけで成立しているのだ、と。この男が私の恋人ぶってふるまえば、私はこいつの付属物に転落し、どんな抗議も、運転手がそうしたように、痴話げんかとして扱われないのだ。この男は実にウソがうまかった。私の周辺の人々に、婚約したと言いつらしはじめた。

「ほら、〇〇川に近いあの人の家で、ご両親に歓迎されて、風呂に入れてもらい、お父さんとお酒をくみかわしたんだよ」

彼は私の家に来たことはない。私の父は酒を一滴も飲まない。だが〇〇川のとおりというのが事実だから、人々はそれを信じる。私が彼の行動に困っていると言っても、そんなこと「二人」で話しあえば、と言われてしまう。

私の行く先どこにでも彼がついてくる。デパートでトイレに逃げこみ、根くらべだと思つて棒のように立っていると、女店員が、お連れ様が心配なさつてますよ、と連れ出しに来た。薄暗くなつたところ電話ボックスに入ったらそこへ入って身体をすりよせてきた。何をすするんですかと怒ったら、ボクはマルクス主義は禁欲主義と無縁だと思つている、という的はずれな返事。

こんどの自主ゼミの時に決着をつけよう。私との関係でついているウソを皆の前で言つて、手を引かせてやる。そう思つて、会場になつてゐる個人宅の離れへ向つた。

部屋に入ったら、問題の男一人しかいない。ほかの人は、と聞くと、今日

は来ませんよ、と言つた。わかつた。この男、他のメンバーにゼミは中止だと連絡して、私を一人で待つていたのだ。じゃ帰ります、と部屋を出ようとする、いきなり組み伏せられた。この男も今日決着をつける氣だつた。

貧弱な体つきなのに、押しのけることができぬ。力づくで身体との関係をつけようとする男は、呪われた墓石のように重かつた。落ち着こうと思つて身体を力を抜いた。とたんに彼は表情をゆるめ、うれしそうに身もだえしながら、愛撫らしきことにとりかかつた。指が私の口のところにきたとき、その指を私は食いちぎる氣で噛んだ。痛がつて悲鳴を上げたすきに逃げ出した。

この事件で力関係は逆転した。彼はその後私を追つてきたが、事情を理解した友人たちが護衛にまわつてくれ、もはや手を出すことができなかった。ところがこの一件は、私の人生にもうひとつ波紋をもたらすのである。二年間もつきあつた「同志的恋愛」の相

特集投稿

手は、別の大学に行っていて騒動を知らなかったが、私と会ってこの一件を知り、とんでもない反応を示したのだ。私の腕をぐいとつかみ、「そんなことで済まなかったろ。え？ 服を脱がされたんだらう、もっとはつきりいってくれよ」

彼の顔は暗く、卑しかった。私の心がどれだけ傷ついているかをそっちのけにして、身体がどこまで犯されたかをつきとめようとしているのだ。この男もあいつと同類だ。私を支配し、所見しようとしている。

追っかけ男に苦しめられた日々は、男性の支配を見抜く力を私にもたらした。私にとって、長く聖域であったこの男性との関係の貧しさをはつきりと悟り、別れる決心がついたのである。十九歳の恋は、二十一歳の日には極枯にすぎなかった。

年上の二人の男性を片付けて、私は虚脱状態である。日本の女が生涯かけ

ても学べぬことを、私はもう学びつくしたと思い、老女のような気分だった。その一方、心の底から自由の思いが吹きあげてくる。

エピソード

恋って、対等平等の人間関係がなければ、何の意味もないのよね、人間は自分の器に合った恋しかできない——「老女」の私がこんなことを語り合った相手は、あのとときの護衛のひとりである。

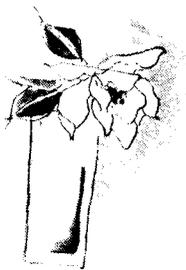
この男、男性の女性とのかかわりの貧しさを批判する力を持っていた。目立つ存在ではなかったが、誰の親分にも子分にもならず生きていけるめずらしい人間だった。

彼の前にいるとき、私は毒舌家でおっちょこちょいのありのままの自分であいられた。彼もそうであった。卒業前には、生涯こうやって話していようという意見が一致していた。

結婚して十年になる。結婚式寸前に

ボケイノシシが突進してきて、式を延期せよと騒いだが、そんなことはもうどうでもいい。結婚により私は二重の自由を得た。彼との関係の中に生きる自由と、不当なプロポーズをされずにすむ自由を。

彼と私は、それぞれ自分の世界を持って暮し、二つを照し合せて、共有の精神世界を築いてきた。もちろん世間の男女関係の歪みから完全に解放されてはいないが、子供を抜きにしても二人で話すことはありあまるほどある。フロンタキを持って追いかける夫婦ゲンカばかりやっても、私は自分がジェーン・エアになれたと思っ



恋愛と人生

●出席者（順不同）

増野 潔 四六歳 結婚歴二〇年
子供は中学三年生が一人

中村彰良 三四歳 結婚歴八年
子供は一歳、四歳の二人

芝岡 豊 二九歳 結婚歴二・五年
子供はなし

大森彦一 五十歳 結婚歴二五年
子供は二三歳、十八歳の娘二人

わいふ編集部
早川裕子
和田好子

●司会 田中喜美子

司会 このたびの特集は、「私の恋愛体験」というんですが、

大森 エッ。恋愛体験語るのか？ おれそうは聞いてなかったぞ！

司会 まあまあ、全部聞いてからにしてください。（笑）

特集のテーマはそうなんです。募集投稿は集まりました。でも当然女の側の体験ばかりなのです。「わいふ」は最近の方針として、男性にいろいろ語ってもらい、男のほんとうの姿を女性読者に知らせたいという試みをはじめております。女は意外に男を知らず、ごく狭い範囲の経験で判断しがちですし、マスコミにいろいろ描かれている男性像も虚像が多いように思いますので、ぜひ実像を知らせていきたいと、こういうことなんです。

さて、恋愛というのは女にとってはたしかに大きな問題かもしれませんが、しかし男にとってはどうなのか。日米の社会学者が日本人の結婚につき、広範な調査をしたことがあります、

男にとっての

それによると、日本の男性は期待と幸福感にあふれて結婚する。(笑)しかし一年たちますと、急速に冷めて無関心になってしまふ。女性のほうは、結婚のさいはむしろ不安で、あまり幸福感が強くないんですけれど、一年以上たつて子供ができたり、生活のつみ重ねができるのだんだん幸福になり、結婚後十年くらいがもっとも幸福感があります。しかし五〇、六〇になると男女ともどんどん下がって、下がればなしになってしまふ。アメリカ人は逆に、はじめは双方が幸福で、五、十年はまたともに幸福度が下がり、晩年に入ると新婚時同様幸福度が上昇するという結果なんです。

今回の特集の意図としては、ただ楽しい、あるいは悲しい、恋愛体験がありましたじゃなくて、人間の人生にとって、恋愛がどれくらいの影響力を持っているか。恋愛は結婚に発展していいよすばらしいものになるのか、またはぜんぜん関係ないのか。そこらを

焦点にしたいと思っておりますので、ぜひ「男にとっての恋愛と人生」を、ホンネで語っていただきたい。

大森 なんだ、ヤッパリプライベートな話じゃないか。

増野 そうですよ、そういう話なんですよ、今日は。

編集部 大森さん、ご説明したはずですが……。

大森 イヤーそうは思わなかったが。こりゃ覚悟をきめなくちゃ……。

編集部 匿名になさいますか。(笑)

司会 まず、みなさん恋愛結婚かどうか(笑)わかりませんが、そうだとすると、恋愛感情あるいは奥さんへの期待度みたいなものが、どういうふうに結婚生活の中で変っていったか。それを最初にかがいたいです。

みなさんどういういきさつで結婚なさいました？(笑) 恋愛からですか？ それをまず……。

中村さんからいかがですか。

「お願いします」と
プロポーズ

中村 初恋の思い出みたいなのは、
どなたもみなさんあるでしょう、ぼく
もその程度のもんです。で、今のカミ
さんとは、はじめて恋愛してはじめて
結婚した、ということですね。恋愛の
胸のときめくような時期というのは、
たしかにありますけど、結婚というの
はぼくは違うと思ってた。じっさいに
メシ作るとか洗濯するとか、そういう
生活の面がありますから、そういう目
で女性を見ていました。

たまたまぼくは病気で入院して、カ
ミさんはそのときの看護婦だった。そ
れからつき合いはじめたんですが、そ
の後二度めの入院をしてしまっ、看
病してくれる人がいなかったのです。
ちょうど父がガンで入院して、母がそ
っちに付添わなければならなかった。
そこで自分の体を預けるといふか、面
倒みてくれる人はいないか、という判

断を迫られて、判断したんです。
「お願いします」と、これが結婚の
約束でした。

編集部 実用的な話ですね。

中村 まったく実用的です。はじめは
やはり好きだ、きらいだという気持、
恋愛ですよ。それがあある時期、いき
なりそれを取らなければならぬとい
う事態になった。メシをうまく作れるか、
というような基準で……少しくらい蹴
とばしてもこわれず、苦しくてもくっ
ついてくる、みたいな、そういう女性
でないと困る。ぼくは結婚のときはそ
ういう女性にしようと思っていました。
大内 丈夫で長持ち、ね。
中村 そう、そんな感じですよ。
司会 それ以前に、実用的でない体験
はなかったんですか。

中村 あった、でしょうねえ。(笑)
ほのかな初恋みたいなものはね。カミ
さんと知り合ったのは二十二ですから
ね、それ以前というところ、中学だか
ら……女性って、むしろイヤでした。

興味はあったけど、近付きようがわか
らない。

司会 男女共学でしょう。

中村 そうです。

編集部 とてもおとなしいというか、
気弱なタイプでいらっしゃるわね。

(笑)

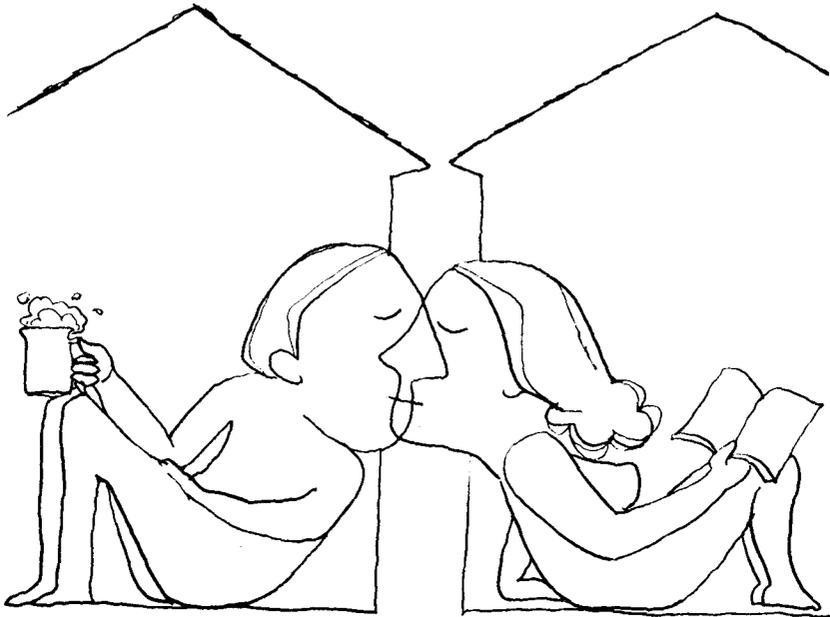
中村 つき合っても、迷惑をかける
ヤバイと思って、飛んで行けないん
ですね。ヤバイ線であるでしょう。(笑)
司会 それを超えるほど、愛してない
ってことネ。

中村 そうです、そうです。今でもぼ
く、仕事していて、ア面白いな、と
いう興味を感じる女性っていますけ
どね、そこからボンと飛び跳ねるかとい
うと、むずかしいですね。ということ
くらいで、まずいかがでしょう。(笑)
司会 では増野さん。

わが理想はサルトル
ボーボワールなりしが

増野 ぼくは中学は男ばかりの学校で

高校から共学でした。共学になったらもう目移りしちゃって（笑）あの子もいいこの子もいい。高校の後半でぼくは一つの恋愛観を持った。サルトルとボーボワールのような、それぞれ独立していて適当につき合う、ああいう関係がいいなと思って、それは大学時代の前半まで続きました。大学に入ってから、高校時代の友達とちよつと深い仲になりましたがそれは結局失敗したわけです。当時ぼくは学生運動に傾斜しはじめており、彼女との話題も運動か政治のことばかりだった。今思うと彼女はもっと別のコミュニケーションを求めていたんでしょね。結局別れたんですが、その経験から、一方通行ではだめだということを感じましたね。大学の後半で今のつれあいと知りあい……セトルメントというサークルで知り合っただんですが、ちょうど六〇年安保のころで、二人とも燃えていました。ぼくが大学を出て就職して一年目、彼女がまだ学生だったとき結婚したの



です。

いわゆる恋愛結婚なんですけれど、そのときの恋愛感情というのはそんなに続かなくて、もしあのまま平穩無事に人生が過ぎていったら、続いていたかどうか分らない。へんな言い方ですけどね。

その後共働きで、ある政党の……社会党ですが、二人とも専従だったんですよ。ですから理想に燃えてやってた運動による結び付き、きずなはあると思います。それも決定的ではない。

そのうち子供ができました。それまで家事は平等にやっていたんですが、子供ができるとせんぜん違うでしょう？ 二人だけなら洗濯ものが山になってもいいが、子供のものはそうはいかない。それで彼女のほうにずっと負担がかかり、しょっちゅう喧嘩でした。それが第一の危機で、彼女は真剣に離婚を考えたというんですよね。ぼくも非常に動揺しました。それを乗り越えたのは子供のためというわけじゃないんで、

運動上の理由から二人とも社会党を離れ、二十四時間運動に身を捧げるという状態から解放されたからだと思う。

ぼくは運転手を、月半分くらいやって稼いで、あとはうちでゆっくりしてるという感じで、精神的にも時間的にもゆとりができた。子供を保育園へ送り迎えるようになる、子供とも彼女とも関係がよくなったんですね。それで危機が乗り越えられたという気がする。

司会 結婚なさる前のおつれあいへの期待とか要求、それは同志的な結びつき、思想的一致ということでしたか？

増野 この人でなければ、という深いつながり……でもない。(笑)彼女に聞かれるとちょっと差しつかえるかもしれないけれど……そんなに思いつめたかという疑問ですね。正直いって(笑)つき合ってる女性の中では一ばん自分とうまくいきそう。さっきの「丈夫で長持ち」というほどではない

けれども、考え方もだいたい一致できるし、気心が知れているというかな。

編集部 友情結婚？

増野 そう、友情結婚ですね。友情と恋愛の中間くらいの関係ですね。

司会 どうして結婚しようとお思いになったの？ 友人でいてもよかったですように。

中村 きびしいな。(笑)

増野 だからね、サルトルとボーボワールみたいな関係でいたいと、はじめ思っていたわけでしょ？ それが一たん失敗して、自分が求めるだけではだめだと分った。両方でたすけ合わない、ばいけくない、と……。そうすると、別居していて会いたいときだけ、というような関係は、男にとっては都合がいいかもしれないけど、必ずしも相手の望んでいることじゃない、というふうに思うようになったんです。

編集部 でも中村さんのように、一しょになれば女に世話してもらえという、ありますでしょうか？ (笑)

増野 ぼくはそういうことはあまり望まなかった。下宿して身の回りのことはみなやってたし、要求も低くて、うまい手料理が食べたいということもなかったんで……。

編集部 子供は欲しいとお思いいなっ
たんですか。

増野 イヤ、はじめはいらな思
いました。結婚後六年ほどして、彼女の
ほうが欲しくなっただんでね。どっち
かといえば彼女主導で作った。

編集部 それで育児をあまり手伝わ
なかったんですか。

増野 最初はね。胸に痛みをおぼえな
がら手伝わず、彼女に負担をかけたの
です。

編集部 勝手に作っただから……？
増野 そういう気持はありましたね。

(笑) でも自分がめんどうみないと子
供がなつかないし、やはりさびしいと
思いました。それが二、三歳になって
子供とつき合うようになったら、なっ
てくるでしょう？ ア、こんな楽し

いものだったか、というので、それか
ら男の子育てということを考えるよう
になったのです。

司会 今日の子育てより恋愛のほうを
(笑) お願いいたします。次の方。

スキダと間接恋愛テクニク

芝岡 最初からぜんぶ言うんですか？

(笑) じゃ……まず女性に対する興味
ということから。よろしいですか？

ぼくは幼稚園のころからありました。
司会 そういう話が出なくちゃあ。

(笑)

芝岡 クリスタル族の彼じゃないけど
幼稚園のときからあった。お医者さん
ごっこなんて、よく問題になりますか
それらしきことも、いささか経験した

ような気がします。記憶はさだかでは
ありませんがネ。まあたいしたことじ
やない。近所の女の子をハダカにし
てちょっとさわったくらいのこと。(笑)

小学生時代には、四、五、六とずっ
と一しょのクラスだった、すばらしい

女の子がいましたね、それはクラス中
の男子が好きだった。すごくかわいい
子、そしてずーっとクラス委員をやっ
てた子です。愛じゃない、崇拜でした。
ぼくはホントのこと、彼女の頭の上に、
キリストや天使についてるような、円
光がかがやいているのを見た気がしま
す。(笑)

中学時代になると、彼女への思慕が
ひじょうにつのりまして、道を歩いて
いてバッテリー会ったら何を話そうかと
か、どこそこで会ったらどう対処しよ
うなどと年中考えていた。(笑)

しかし結局会わなかったのです。会
わないうちに、彼女は亡くなってしま
いました。

高校時代は男子校だから何ごともな
く、大学に入った。そのときぼくは考
えたのです。これまでのようなやり方
では、おれの人生つまらんから、自分
を変えようと。

編集部 つまらないって、まじめ過ぎ
てということですか？

芝岡 まアそうですね。大学には誰も知った奴がいらないから、ガラッと自分を変えようと思い、変えました。つまりワルぶったのです。そういうことはすべて、おれは知ってる、という顔をして、四年間。イヤ疲れました。(笑)

編集部 ほんとは知らないんですよ。

芝岡 知らない。(笑)

編集部 でも人を信じさせるには、知識があるでしょう？ 知識はどこからもってきたの？

芝岡 ホントに知ってる奴とつき合うんです。(笑) 銀座、六本木にどういう店があつて、どんな女の子がいるとかね、そんなことですよ。

ふしぎなことに、ワルぶってるとそれらしき、退廃的な女性に目がいくんです。そういう子がいますね、つき合おうと思ったが……その前に一回ひどい目にあつたんで、慎重になつた。司会 ひどい目にあつた話、ききたいですね。(笑)

芝岡 高三から大学のはじめにかけて

ですが、まア大失恋ですね。無垢の状態のままで痛手を負つたものですから恐怖心があつた。

編集部 なぜそんなことになつたの？

芝岡 なぜって……(笑) たぶん、当然踏むべき段階を踏まずに、ストリートに、パッと行っちゃつたからでしょうね。

編集部 段階を踏まずに、いきなり……何をしたの？ (笑)

芝岡 心、心がですよ。何かしたわけじゃなく、ぼくの心がパッと、スキだということとところへ行つてしまつた。その経験以後、自制することをおぼえましてね、スキだ！じゃなくて、間をおいてス……だ……という感じ。(笑)

編集部 ス……といつて相手の反応を見てから、キ……？

芝岡 そうです、テクニックですね。あんまりいい感じじゃないんだけど、そういうことをおぼえた。

で、その退廃的な女性にも、ス……キ……と手を打ちながら、しかし何か、ぼく

のほんとうに求めてる人ではないと感じてた。でも好きなんですよ。

四年のとき、ぼくは合唱のサークルに入つて、その人もそこにいた人です。旅行中、バスから下りると彼女がさつとぼくのカバンを持ってくれたりしました。それですっかり満足したのです。もう、ぼくになびいた、ということですね。

司会 それで終りなの？

芝岡 終りです。(笑) それだけで満足でした。

司会 抱かなかつたの？

芝岡 抱きません。(笑)

司会 結婚しようとも思わなかつた？

芝岡 思いません。

ぼくは結婚はね、就職してから職場結婚なんです。職場に一人しかいない女性と。

編集部 まわり中から恨まれたわね。

芝岡 ぼくはおばあさん子でしてね、じつをいうと女性に対してひじょうに

依頼心が強いのです。その依頼心を、十分満足させてくれる女性でした。大
学三、四年のときから、イメージがは
っきりしてきたんですが、ぼくの好き
な女性のタイプは、気が強くてやさし
い、ということなんです。それにびつ
たりの人でした。ぼくなんかより指導
力、決断力があって、バリバリ仕事の
できる人で、しかもぼくにはやさしか



った。で、結婚したのです。
中村 やっぱり、ス…キ…と段階を踏
んだんですか。
芝岡 イヤイヤ、もう直接でした。四
年間テクニクを弄して、くたびれ切
っちゃったんで…。(笑)
司会 大学時代の、その退廃的女性に
ついては、どうだったの、どうい
うところが好きだったんですか。

芝岡 えー、その人のどこが好きだっ
たかというと、やはり顔や体ですね。
司会 結婚相手に対しては、そういう
よさは求めない？
芝岡 求めなくはない、程度問題です
が、そんなに重要ではないですね。そ
の退廃的女性を九〇％とすれば、結婚
した彼女は六〇か七〇って感じ。
司会 結婚の動機として、どうなんで

すか、もう就職もしたし、年齢からして身を固めなければ、といったプランがまずあって、適当な人がいたからとこのか、それとも理想の人にめぐりあったので決心なさったのか……。

芝岡 プランはなかったですね。だから決めてから、二人で一年間貯金して結婚資金をつくったくらいで。

司会 なるほど。それでは最後に大森さん、どうぞ。

モテた男見込まれ結婚に陥落

大森 ぼくは恋愛を含めて、対女性関係というところの時期に分れるという気がする。今ふりかえると……。少年期、青年期にはぼくはたいへん女性にモテた。(笑)

ぼくがいたのは東北の田舎だから、県が男女共学になった初代の生徒会長で、東北六県の高水準泳で新記録を三年間持っていて、スポーツマンで弁論部で生徒会長で、といえばこれは田舎では花形スターなんだ。

編集部 キリストの円光がついていた。

(笑)

大森 家庭科で女子が料理つくると、ワーツとぼくんとこへ届く。(笑) 周辺の男生徒たちがラブレター書いてフラれているときにぼくはそんなふうでね。

それから次の時期、大学出て商社会社に就職し、その年の秋に九州へ転勤した。そこで結婚話が出たんだ。ぼくの結婚は恋愛でもなけりゃ見合でもないんで、見込まれ結婚という言葉があるかな？ つまり上場会社のかなり大きいところの重役で、ぼくの頭の上らんような人から、人を介して娘をもらってくれといわれたわけです。家内の父親から見込まれたんだね。それで結婚した。こういう結婚は、悲劇に終るおそれもあったろうが、以来二十五年間銀婚式まで、ぶじにくることができてぼくはほんとうにしあわせだった。いい結婚をしたと思う。

さて第三の時期は、ぼくが商事会社

をやめて、現在の教育関係の新聞に入ってからで、この新聞の性格上PTAのお母さんたちとしょっ中会うことになる。沖縄から北海道までかけまわって、女性を相手にして仕事をしているんで、それまでふつうの夫であり父親であつたぼくの、恋愛観、結婚観、女性観にある変化が起つた。

と、まあ最初はここまでだ。(笑)

司会 見込まれ結婚で、新造語でおもしろいですね。でも、かんじんの相手の女性……今の奥さま……に対してはどういう気持だったんですか。

大森 まあ……ふつうだよねえ……恋愛じゃないのは分かっていたわけだからね。とにかく相手をしあわせにできるかどうかで、それを考えました。ぼく自身はその人と結婚しなきゃ不幸になるとは思っていないんだね。

編集部 見合いはしたんですか。

大森 そりゃしたよ。見合いも交際もありました。

司会 じゃ何で結婚したんですか。見

込まれて感激したわけ？

大森 いや、ぼくはもつと凶太かったよ。もつとあとからいいのが出る可能性もあったし……モテていたから。

(笑)

司会 じゃあ、どうして結婚を？

大森 なんとかなア……適齢期ではあったからね。これで結婚できればそれもいいな、という感じで、ごく自然に……。

司会 やっぱりそれは気に入ったということでしょね。

大森 だろうねえ。——見合いも交際もし、婚約式も東京まで出てきて、ぼくが洗礼受けた教会でやった。

司会 大森さんはクリスチャン？

大森 そうです。新教ですがね。洗礼受けたのは東京へ出てきてからだけど……。だからぼくの対女性というか、男としての性の履歴というのは、三回の転換がありました。最初の転換は宗教……洗礼受けることで結着につき、二番目は現在の職に就くこと、つまり

社会教育へのスタートで結着がついたということですよ。

司会 なんかもつと聞きたいけど……

(笑) モテたときには次々と恋愛関係に入ってたわけ？

大森 どこまでを恋愛というかだけどね、恋愛はありましたね。タレントみたいにならぶレターもらうのは恋愛じゃないが、ぼくは一人一人、前の人とは切れてから次の人とやったからね、あれはやはり恋愛だと思う。

編集部 それは結婚とは結びつきませんでした？

大森 結び付かない。だって高校生だもの。

編集部 モテて追っかけられただけ？

大森 イヤこちらからも追っかけた。どこの学校にもマドンナっているからね、女の生徒会長とかね。当時は高校同士の交流がひじょうに自由であったから、ほうぼうへ押しかけてモーションかけましたよ。汽車通といって、汽車で通っている、そこでいろんなこと

があるわけね。男はやっぱり、より高い山へ登りたいからね。富士山の次はエベレスト。(笑)

編集部 奥さまが一ばん高い山？

大森 イヤそうじゃないねえ。それは恋愛じゃない、結婚の話だからね。

司会 結婚となると、恋愛とはべつの観点から、ごらんになったわけね。

大森 そういうことですね。(笑) ずるいね、男は。ぼくは自分でずるいなあと思うよ。(笑)

編集部 打算のようなものがありました？

大森 イヤ、他に好きな人があって、有利な結婚のためにその人を捨てたというなら、罪悪感があるけれど、ぼくにはそんな人はいなかったからね。こんな話、あまりおもしろくないんじゃない？ 次へいきましよう、次へ。

(笑)

司会 これはこれでおもしろいお話ですよ。では次に、みなさんの女性観といますか、さつき芝岡さんからは幼

幼稚園時代からのお話を伺ったけれど、女性に対してどういう興味を持ち、どういうことを期待していたかを一つ。
中村さんは？

わが女性観を語る

中村 お医者さんごっこですか。(笑)
ぼくにとつて、女性ってやっぱりあこがれでしたね。好きになればなるほど口が利けなかったですよ。むこうから話しかけられれば応答するけれど、こっちは、好きになっただらちよつといえないんだよね。パチッと顔が合っちゃったりすると、急に言葉が出なくなる。何でもない女の子にならパッパッいうけれど、好きな子だとてんでだめ……。(笑) そういうアレでありました。彼女がいつも通る道とか、どいういうバスで通うとか、すっかり調べがついていて、ちゃんと出合うようには行くんだけど、なかなか口は利けない。そういう時期がだいぶありましたよね。中学、高校にかけてですがね。

司会 増野さんいかがですか。

増野 ぼくはちょっとオクテだったと思うんだけど、小学校のときはそんなに強く女性にあこがれるということとはなくて、中学はさっき言ったように男ばかりの学校だから、具体的には何もなく、高校に入ってからだなあ。

それはあこがれるな部分が半分と、性的なものが半分ですね。ヤリタイという感じね。じつさいにそれを果したのには大学へ入ってからですけれどね。そんな程度であまりしゃべることはないですなア。

司会 女性に対する反撥というか、自分と同類でない、イヤな感じなんてありませんか。

中村 イヤな女性はそりゃいます、女性一般に対しては、そんなこと感じませんね。

増野 ぼくがひじょうに印象に残っているのは、五つちがいの姉がいるんですが、ぼくが高校のときに彼女があぐらをかいているのを見た。で、ぼくが

「女があぐらをかいたらおかしいよ」と言ったところ、「そんな男も女も同じだ。あぐらのほうが楽なんだ！」

と言いつ返されて、それまでぼくが持っていた女性観……女は女らしくというようなイメージが、転換する契機になったような気がします。ピシヤッといわれてね、ショックでした。言い返せなかったですよ、それはまったく理屈だからね。それ以来、女らしくということを一方的にいうのはまずい、と分ったんです。

司会 女性とはこういうものだ、という先入観があったわけですね。大内さんはいかがですか、モテたお若いときから今までの女性観。

大森 ぼくの女性観が固まってから今に至るまで、変らないことが一つあるのは、女性というのはいつもこっちが疲れたときには包んでくれ、徹底的に奉仕するものだということ、これは動かないね。(笑) いつでも、疲れたときははいやし、傷ついたら傷口をなお

す。温いものが欲しいときには温いものを持ってくる。(笑) そういうことだなあ。それは精神的に、だよ。

編集部 奥さまはいつもそれにこたえていらしたわけ？

大森 イヤ奥さまというんじゃない、(笑) それはどういう女性が理想かということだから、それを言ったんで、もちろん精神的な意味ですけどね。

編集部 あぐらはいやですか。

大森 そういうことにはあまりこだわらんけど、自分とまったく異質なものを持つてゐるから存在価値がある、という考え方ですね。

司会 異質なものの内容が何かはべつの問題でしょうけどね。増野さんはいかがですか。

女に求め期待するもの

増野 ぼくは大森さんのようなものは求めないですね。やはり、相手が求めているものと同じだと思っんですよ。たとえばいろんな話をしたり、生活感

だとかそういうこといっさいを共有できる。それからセックスを両方で楽しめる。

大森 おしあわせなんだなあ。(笑) ほんとにしあわせなんだと思う。

増野 ただとまどうのはね、大森さんのようにサービスを求める男性とともに、サービスするもんだと思ってる女性もいるでしょう。また逆に、対等でありサービスするもんじゃないと考えている女性もある。たとえばぼくがお茶いれると、男の人にいれさせたら私たちの恥みたいにいわれることがあるし、いけないでいると男ぶっているわね、と悪く言われたりする。相手によってどう対応していいか、困ることありますね。私のつれあいは後者ですが、そういう女性ばかりではないから……。

司会 大森さん、包んでくれる、奉仕してくれるというの、セックスの面も含まれるんですか。

大森 もちろん入りますよ。

司会 芝岡さんは違う？

わいふバックナンバー

- * 150 同居か別居か
 - * 165 夫の貞操
 - * 166 なぜ女ばかりが家事をする
 - 167 主婦の近所づきあい
 - 168 悪妻
 - 169 母親が働きだすとき子育ては？
 - 170 変貌する夫たち
 - 171 ただの女の防衛論議
 - 172 夫の成功は妻次第？
 - 173 女とお金
- 誌代は1冊号まで三五〇円・168号と171号四五〇円。送料は一冊二〇〇円・二冊二五〇円・三冊と五冊三〇〇円・六冊と九まで三五〇円です。*印の残部は僅少です。ご注文は編集部へお電話でどうぞ。(03) 二六〇・四七七

芝岡 イヤ同じですね。

司会 セックスもそういうありかた、奉仕してほしい、と？

大森 イヤ、セックスを奉仕の道具みたいには考えられないわね。

芝岡 ぼくは、抱くというより抱かれるという感じのほうが強いんですね。ぼくは弱い男でね、どうしようもないと思うんだけど、抱かれるというほうが好みなんだよね。ふしぎに。

大森 それはモテるよ。(笑)

増野 抱かれるという感じが強いというの、相手もそれを楽しみ、こっちも楽しいわけでしょう。

大森 そうだろう、そうだろう。相手が被害者意識持ったら、これは抱けませんよ。今日はわいふの読者に、いかにして男を包むか、男性とうまくいか、そのテクニクの裏側をしゃべっているようなもんだよ。抱かれない！というセリフはすさまじい。うんとすさまじい。これは女性をくどく手なんだよ。

芝岡 手じゃないんだよね。本音なんだ。(笑)

男女の仲はけつきよく 食うか食われるか

大森 しかしぼくは違うね。縛っても抱くほうだけど(笑)、攻め型と守り型があるんだよね、男にも。これは恋愛指南みたいになっちゃうが……あまりおかしい話、止めよう。(笑)

司会 イヤいいですよ。
大森 うんと分りやすい話にするとだね、高村光太郎の妻の智恵子っていうのはぼくの町の人だ。造り酒屋の、金持の一人娘です。で、ぼくの町では光太郎うんと評判悪い。なぜなら智恵子に家の財産をつぎこませて、女を食いつぶした。智恵子は全財産つぎこんだ上、発狂しちゃった。あの人の張り絵みれば分る、すばらしい才能を持ちながら、光太郎の妻として、彼を芸術的に伸ばすための激烈な内部的葛藤によって、狂ってしまった。

増野 そうだね。

大森 女を食いつぶしたんだ、光太郎は。ぼくの町じゃ彼はクソミソです。

もう一つの型、抱かれ型の男は川上音次郎だね。妻の貞奴の才能を引き出し、可能性を伸ばしたんだ、すばらしいよね。大別してぼくは男と女の仲に、この食い型と食われ型とあると思う。太宰治は典型的食い型。大杉栄と伊藤野枝はともに燃え上ったんだ、野枝は食われたなんて思っていないよ。しかしぼくは抱かれ型じゃないけどね。

(笑)

増野 だからね、むずかしいと思うのは、疲れたときにいやしてもらいたいとか、縛りつけても抱こうというのと、相手もそういうことを望んでる場合には、いいんだけれどもね、もし望んでないと……どうもそのへんむずかしいよね。
大森 そりゃそうだ。ぼくは抱かれるなんて男の恥だと思ってるが、相手が被害者意識持っちゃあ、こりゃだめだ

ものね。

司会 まあ女の立場からいうと、つねにつねに相手をいやすだけで、満足してる女性はいないと思います。(笑)
増野 そうでしょうね。しかたなくや
ってるんだと思う。

司会 相互的なものだと思うわ。人間の心理はそんなに違うものじゃないから。奉仕したがる女もいるかもしれないけど……。

編集部 いるのよ。でも奉仕してるうちに、しまいにイヤになってくるみたいね。(笑)

司会 自分で奉仕しといていやになるのね。(笑)

編集部 夫を粗大ゴミにしておいて、じゃまにする、あれよ。(笑) 当人べつに悪気じゃない、真心こめて奉仕するんだけど、しまいにヘンなことになる。自縄自縛ってあのことね。

男たち はァー、はァー。



結局男は イヤなのだ家事・育児

司会 男の方は、女も疲れるものだとは、お思いになりませんか。

芝岡 ぼくは思ってます。モロ思ってるけど、出ちゃうナ。自分が一等可愛いんです。ぼくの相手は働いてるでしょう？ それでぼくも働いてて、帰ってきたとき双方疲れている。ぼくはいやして欲しい。相手もいやしてやりたいとは思いますが、なかなかうまく行きません。

司会 そうでしょうね。

芝岡 でも最終的にはぼくの思いどおりになるみたい、ですよ。(笑)

編集部 奥さんも疲れているとわかって、たとえばお茶いれるのはどっちですか。

芝岡 ぼくはお茶いれたことありません。

編集部 食事つくるのは？

芝岡 つくったことありません。

編集部 ふとんくらいたたむ？

芝岡 やったことあります。ヤレといわれてしかたなくやった。(笑)

増野 それで相手も、だいたいにおいて満足してるわけだ。

芝岡 満足はしてないんじゃないですか。してないと思います。

増野 妥協してるのか。(笑)

編集部 まだお子さんがないからじゃないかしら。

中村 それ、あると思います。ぼくは子供二人あって共働きですが、二人だけのときと違い、結婚するときは蹴飛ばしても大丈夫だからと思っただけ。(笑)

芝岡 アア、もうこりやダメだな(笑)という感じになってくる。するとぼく、やります。日常の生活はもう、ファイフティ、ファイフティですよ。

意識的にもね。おむつも干しますし、掃除もします。ただ苦手なものではない、料理はできません。

芝岡 ぼくは体が動かないですね。むしろこのほうが先に気がついて、すぐ動

いてしまう。鈍感な女房持ったら、ぼくも動いたかもしらん。(笑)

中村 ぼくはサービスするの、好きなほうなんだけど、でも女房には、最初めんどろみでもらいたいと思ったように、やっぱりサービスしてほしいという気があるんでしょうね。それが充たされない悩みはあるね。

増野 ファイフティ、ファイフティといっても、やはり奥さんのほうに負担がかかってるんだよ。

司会 でも、芝岡さんもそうはおっしゃるけど、大森さんとは違い、増野さんや中村さんと質的には同じなんじゃないかしら。

編集部 いや、質的には四人ともみな同じだと思っかね。それは、女に保護されたいということ、女に母性を求めているという点で、一致してるんじゃないかしら。

大森 そうだね。

増野 いやぼくは、べつにそんなことはないなあ。ぼくの場合、ごく小さい

ときは別として、戦後は、両親が共働きで小さい商売してましたからね。生きていくためには自分で作って食わなくちゃならないとか、母親のサービスなんか受けないで生きてきたから、あまりサービスしてほしいという気持ちはないんです。男、女にかかわらず。

司会 女房に包んでほしいというけれど、こっちからもこうしてやらなくちゃ、というような気の使い方ね、それはなさらないんですか。大森さん。

大森 それはしますよ。しかしどうも要求が低いんだなァ。たとえば洋服買いに一しよに来てくれ、という。で、ついていって一言助言するととても喜ぶのね。うんときげんがいい。それが良いよといえばすぐ買う。(笑)その程度のことだからねえ。やはり男が甘くみるようになるんじゃないかなあ。

編集部 それ、似合いますの。
大森 長年見てるからねえ。これとこれと、似合うよ、というところを買います。とてもうれしそうな顔をするし

ね。(笑)

司会 さっきおっしゃった三回の転機とか、なんかもう少し具体的なことを話していただきたい気がしますね。

大森 イヤー。(笑)とにかくね、三回転機があったね。結婚十年目くらいが第二の転機、そのときぼくは、版画や木彫やったりして、趣味のほうに行ったネ。よく奥さんたちが造花だのカルチャーセンターだのって、趣味に走るでしょう、あれはたいがい夫婦仲の問題があるんだよ。毎日が充実して、夫婦仲よくて、楽しいなら誰も趣味なんか行きませんよ。ぼくは自分の経験からそう思うね。家内もそれでうんと言いたいだろうね。帰って来て欲しいという意味のことをしきりに言っておったからね。しかしぼくは帰らなかつた。家庭的な夫から、現在の社会活動のほうへ入ってしまった。家内も自分の活動をみつめましたよ。市の委託を受けて、親が事情あってめんどうみられない子どもを預かる仕事をしている。

司会 他の女性と、ということをお考えになったんですか。

大森 離婚したりネ、セカンドの女性を持つのはぼくは絶対いやだ。それは男として、みじめだし不幸だよ。だけどネ、家内のようなおっとりした、ふつうの女じゃなくて、和田さんや田中さんのような社会活動家の女性とね、一しよになるべきだったとは思ったことある。(笑)

増野 でも、そしたらあなたは、家事や育児をやらなきゃならなかつたですよ。

大内 ウーン、そうか……。
(大笑) (イラスト・松本をきえ)

データから恋愛へ

アルトマン・システムで結婚する人々

I Love Data

Writer: TANAKA Kimiko

昭和五十二年、西独で開発された配偶者えらびのシステムをひっさげて、「アルトマンシステム・インタナショナル」なる会社が日本に上陸した。以来四年半、コンピュータで男女の相性をはじき出し、最もふさわしい結婚相手を紹介するというこの新しい結婚紹介業は、急成長を遂げている。

コンピュータでほんとに相手がえらべるものか、えらべるとしたらどんな人たちがそれを利用するのか。恋愛ぬきの結婚は可能なのか——さまざまな疑問を抱いて、新宿西口の野村ビルに本拠をおく、アルトマンシステムをたずねた。

コンピュータ結婚への アレルギー

「これまでもマスコミからずいぶん取材されましたが、いくらコンピュータ結婚ではありません、と説明しても、出来上ってくる記事は、いつも、コンピュータ結婚！、コンピュータで

の配偶者えらび！・とくるんですからねえ」

アルトマンシステム・インタナショナルの広報室参与・長谷部朋香さんは撫然たる面持だ。

「結婚の情報サービス」と銘うって、昭和五十二年、この会社が営業を開始したとき、ことほどさように、結婚紹介にコンピュータを導入するシステムは珍しかった。そして珍しいものの好きのマスコミは、アルトマンシステムとはひたすらコンピュータをたよりに結婚相手をえらばせる情報産業だ、と「コンピュータ」の六文字をやたらと拡大したのである。

この六文字はたしかに、それほど刺激的なのだ。コンピュータと結婚、いや正確にいつて、コンピュータでデータを弾き出し、配偶者をえらぶ結婚というものには、人の心をさかなでにする何かしらがある。

そもそも結婚のために相手に関する情報をあつめ、ああでもない、こうで

もないと考えこんだり、心配したりするそんな作業なら、結婚という大問題に直面したとき、男も女も一人残らずやっていることなのだ。結婚は「愛」である、と断言するロマン派といえども、結婚相手の健康や職業や、家族関係や学歴などにまったく無頓着な人はいないだろう。このこと一つを取っただけでも、結婚は恋愛とは別ものであることがはつきりする。

アルトマンシステムに感じる抵抗感
は実のところ、このシステムが結婚にひそむリアリズムの側面を拡大して私たちにみせつける——というところにあるのだ。結婚は愛情の上に成立するものである、打算の上に成立つべきではない——という美しいタテマエを無視して、結婚で大切なのはデータですよ、現実ですよ、と、私たちが隠しておきたいあざとい潜在意識を目の前につきつける、そこに原因があるのである。アルトマンシステムが必要以上にマスコミにセンセーショナルな扱いを

受けたほんとうの理由は、そのへんにあるのではないだろうか。日本人というのは、しごく現実的なくせに、ホンを直視することをいやがる国民なのである。

データから愛へ 移行できる？

しかしそもそも、結婚とは何なのであろう。何であるべきなのだろう。

アルトマンの長谷部さんは、「現代にはもう見合結婚、恋愛結婚の区別はない」と断言する。昔のように親の定めた相手と見合いをして、当人の意志にかかわらず無理無体に嫁がせられるのならいざしらず、たとえ見合の形式をとっても、相手に対する好悪をぬきに結婚することなどはあり得ない現代では、結婚はすべて恋愛結婚、アルトマンはいわば、結婚相手に関する最も客観的なデータを各人に提供して配偶者選択のお手伝いをするだけ、というのである。

アルトマンシステムを開発したのは西ドイツのキール大学の人類学の教授、ハンス・ユルゲンス、有名な俳優のクルト・ユルゲンスの甥に当る人だ。

結婚の成功のために最も必要な条件とはなにか、という教授の学際的（さまざまな学問の成果を統合すること）

研究の結果を一口に説明すると、①配偶者選択には類似性と補完性の原則がある（趣味や教育程度などの類似が必要である反面、性格的には相補うタイプがうまく行く）。②生涯にわたるよき結婚にもつことも必要な条件は、永続するコミュニケーションである。③健康で強健な子孫繁殖のためには、なるべく血縁的に異グループ間の結婚が望ましい。

などであった。

何だ、わかり切った話ばかりだ、と感じる人があるかもしれない。しかし教授はいかにもドイツ的に、こうした結論が出た以上は、結婚するとき感情からスタートして、その後理性のほう

に移行するのはアヤマリで、適切な配偶者選択のためにはまず理性にはじまり、類似性の法則などを考慮に入れて相手をふるい分けした後、次第に「愛情」のほうに移って行くべきだ、と主張したのである。

こうした割り切りかたは、日本人の肌合わない。ドイツと日本はやはり違うなァ、と私などは感じ入ってしまったのだが、とにもかくにもこうして、アルトマンシステムは誕生した。今や西ドイツばかりでなく、他にもこのシステムを取入れる国が増え、チェコスロバキアでは人口のほとんどのデータが政府のコンピュータに入っており、結婚希望者はいつでもそれを利用することができるといふ。

データカードの オリジナリティ

それではアルトマンが実際に、会員のデータをコンピュータにインプットするものになるデータカードの質問項

目を見てみよう。

カードは四頁から成る。まず一頁めには、住所氏名、本籍地から始まって、職種、年収、学歴、信仰、子供の有無、健康状態、容姿、喫煙、飲酒、結婚歴、家族の状況等々。ごく常識的な欄である。

三頁目には結婚相手に対する希望。丸顔がいいか、面長がいいか、年齢の差、身長、年収など、これも常識的。ただしコンピュータにかけやすいよう、希望の程度を四段階に分れてチェックするようになっている。

このデータカードのユニークなところは、何といっても、四頁めに記載されているカラー心理テストであろう。

これは、赤、緑、黄など、八つの色に、好きな順から番号をつけてもらい、それによって性格のパターン分析を行い、一六八〇通りに分類、適合性診断の一つの材料にするのである。色彩心理学の世界的な権威であるマックス・ルツシャー博士の研究に基づくこのシステ

ムは、どの程度の信頼性があるのだろうか。

データあれこれ

アルトマンシステムで結婚したカップルは異口同音に、

「カラーテストは当たります」という。

ほんとうだろうか。自分自身のことならいちばんよくわかる(？)だろうと、アルトマン広報部のワイヤー夫人の好意に甘えて、カラーテストを受けてみて驚いた。

当たる。たしかに当たっている。

ただしその当たりかたは、一般の占いや、性格判断などとちがって、現在のその人の心のありかたを、かなりの程度適確に描き出す、といったものであった。

私の現在の最大の関心事は、いかにして女性誌「わいふ」を一人前の雑誌に育て上げるかということにある。こ

の願望がどれほど強烈なものであるか、アルトマンの心理テストはいやになるほどそれをはっきりあらわしていた。

このことは逆にいえば、ある願望が達成されれば必然的に心の持ちかたも変わり、カラーテストの診断結果も違ってくる、ということである。ワイヤーさんは、

「たしかにそうなんです、でも楽天的な性格か悲観的な性格か、というような、非常に基本的な部分は変わらせないよ」という。

しかしカラーテストが、データ全体に占める重要性は比較的小さく、最も重視されるのはなんといっても結婚相手に対する「希望の程度」の欄である。

相手の顔形の欄の「丸顔」について絶対に希望しない、のところに印をつければ、マイナス一点。マイナス点が十〜二十などという人は、要するにあまり気難しくない人で、相手がえらびやすい。NHKのインタビュアーとしてアルトマンを訪れた佐藤愛子さんの

データをコンピュータに入れてみたら、条件が難しすぎて一人も相手が見つからず。コンピュータをだましましたし、やっとのことで弾き出された相手は、なんとお坊さん(！)とお医者さんの二人だけだった。愛子さん、すっかり不機嫌になってしまったとか。

さて二頁目に、「興味の分野」と「生活上のモットー」の項目がある。(表1)。この二項目が大きく食いちがっている場合に、共同生活はむづかしくなってくる。この項目は、類似性が重視されるのだ。

「このへんをごらんになればお分りのように、アルトマンは徹底した男女平等、どんなかたでもありのままの自分の考えで配偶者選びのできるシステムなんですよ」

と長谷部さんは自信满满である。

こうして提出されたデータカードに基づいて、結婚に必要な七百五十五の要因が分類され、そのデータに最も適合する条件の相手がコンピュータでえ

らび出され、週に一度、「パートナー紹介書」となって会員に送られてくる。契約期間は二年間だからぜんぶで百四

週二十七万五千円なりという入会金を払いこむと百四人のパートナーを紹介してもらうことができる。

表 1	希望の程度			
	希望なし	希望あり	希望あり	希望あり
相手の年齢	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
私より年上				
11歳以上				
6-10歳				
4-5歳				
1-3歳				
同年齢				
私より年下				
1-3歳				
4-5歳				
6-10歳				
11歳以上				
相手の身長	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
私より高い				
21cm以上				
16-20cm				
11-15cm				
6-10cm				
1-5cm				
同身長				
私より低い				
1-5cm				
6-10cm				
11-15cm				
16-20cm				
21cm以上				
相手の職種	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
一般給所所得者・事務系				
同上・技術系				
同上・職売・サービス系				
同上・管理職				
公務員・教職員・団体職員等				
農工サービス業・農林業				
企業経営者・会社団休役員				
自由業(作家・医師・コック・俳優)				
専門職(弁護士・会計士)				
無職(学生)				
相手の年収(税込)	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
0-100万円未満				
100万円-150万円				
150万円-200万円				
200万円-250万円				
250万円-300万円				
300万円-350万円				
350万円-400万円				
400万円-500万円				
500万円以上				
相手の学歴	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
中学程度				
高校程度				
短大/高等程度				
大学程度				
大学院程度				
相手の結婚歴	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
未婚				
離婚				
死別				
相手の子供の有無	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
無し				
1人				
2人				
3人				
相手の健康状態	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
非常に健康				
普通				
多少弱い				
相手の体型	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
やせ型				
普通				
太りまみ				
相手の顔形	1	2	3	4
この項目では、特に希望なし				
丸顔				
面長				
顔形				
角形				
この項目では、特に希望なし				
めがねをいつもかけている人				
この項目では、特に希望なし				
煙草を喫う人				
この項目では、特に希望なし				
お酒をよく飲む人				
この項目では、特に希望なし				
軽い身体障害のある人				

実際にデータをうちこんだパートナー紹介書の無味乾燥な仮名タイプの文字を見ると、何やら興奮めな感じがしてくるのだが、現実はこの紹介書をたよりに相手を見つめる人々は、そんなことは気にはならないのだろうか。それとも彼らはデータ万能的、しんそこだライナ人々なのだろうか。

ドライさが受ける

「だって面白いじゃありませんか。結婚をビジネスとしてとらえているところが」

と笑う府中市に住む星野道子さんは新婚半年、といっても年齢は四十六歳、二人の子を連れての再婚である。結婚十一年目に大病をしたのをきっかけに、念願の離婚を果たしたひとだ。最初の夫とは人生観から生きざま、どうしても肌が合わずに苦しみぬいた揚句、自分かひどい病気をしたその時期こそ、相手に負い目を感じずに別られる、

と二人の子を連れ、仕事用のミシンを三台持っただけで離婚にふみきった。自治体の福祉資金を百万円借りて、

ファッションベルトの製造販売をはじめ、今では小さな会社の代表取締役。「もちろんハンデもある。離婚している上に二人も子どもがいる。これとい

う資産もない。ただ、食べるだけの仕事はしてまず、誰の厄介にもならない、とこれだけのことですからね。鏡を見てもキリョウも大したことはない。あんまりいとこないけれど、そ

れでも自分がどの程度世の中から認められるのか、自分自身をためしみたいという気持で、思い切って行ってみたんですよ」

と道子さんは豪快に笑う。

「行ってみたら実に私にぴったりの会でしたね。生れとか身分とか育ちじゃなくて、人間どういふふうに生きているかということを前面に打ち出して相手がえらべる、そこが非常に魅力だったですよ。ゴシャゴシャした義理人情

がからまない、後くされがない、っていうのかしら」

道子さんだけでなく、アルトマンに入会する人々の中、男性の三十一%、女性の四十八%が、「義理人情のからまない近代的合理性」が気に入って入会した、と答えている。反対に、「コンピュータを利用する近代的システム」を挙げている人は男二十八%、女二十七%と比較的少いのであった。

千葉県の流山に住む結婚二年目の荻谷和子さんも、アルトマンのシステムは、ドライで煩わしさがなくてよい、と断言する。どちらかという古い気風の家に育ち、「結婚してしまえばそのうち情がわく」などといって結婚をすすめる肉親に抵抗してアルトマンに入会したという荻谷さんは、自分の周囲が古ければ古いほど、このシステムの持つドライな明るさに惹かれたのではないだろうか。

コンピュータによるデータ分析というと一見非人間的にきこえるのだが、

実はどんなデータの持主でも、主観を交えずにそれをありのままに受け入れてもらえる、というところが、むしろある解放感を会員に与えているようだ。

生後半年の可愛い赤ちゃんに囲まれて、幸せいっぱいに見える荻谷夫妻だが、妻の和子さんは入会後半年間、ちっともよい相手にめぐり会えなくて、脱会を考えたことさえあった。コンタクトレターが送られてきた相手の中から、よさそうな人と何人か会ってみたのだが、どの人ともうまく行かなかったのである。

アルトマンが一人一人の会員に、相談相手としてつけるアドバイザーが役に立つのはこんなときだ。和子さんの場合もこのアドバイザーが、「年齢」の希望の欄を変えてみたら、と助言した。それまでは六歳―十歳年長の人、という希望にしていたのを一歳―三歳と、ぐっと引き下げたのである。

そのデータで相手を探し、第一回のパートナーとして現れたのが現在のお

つれあいだ。

こんなふうには、データは永久不変というわけではなく、いくらかでも調整がきくのである。

「アドバイザーがそれは親身に相談のつてくれましてね。結婚して脱会してしまっただとでも、何かと連絡を取っています。今でも私は感謝していますよ」

と、星野さんの夫の仁さんという。

データをコンピュータで処理し、相手をコンピュータで弾き出す、というところが売りもの？のアルトマンでも肝心かなめのところには、ちゃんと人間が控えている。さまざま迷い、望み、疑いを持った人間相手のしごとには、人間の存在が必要ではないはずがない。

カナタイプ的背后に見つめる人間像

ここでアルトマンシステムを一応説明しておく。

まず雑誌の折込み広告になっている

簡単なデータカードを送ることが第一

ステップだ。面白半分で送る人もいるから、アルトマンではこれをふりわけ、本気で結婚を望んでいると思われる人だけに案内書を送る。何しろ収入が一文もなかったり、男で学生だったりすれば、結婚の相手が見つかるはずはないのだから、そういうのはハガキの段階でふるい分けてしまおうのである。

(写真)

案内書を見て申込んできた人には、カウンセラと呼ばれるベテランのスタッフがアルトマンシステムをよく説明し、相手の人柄も観察しながら、入会かどうかを決める。何しろ二十七万五千円の入会金は高いから、会の内容についてよく説明せねばならず、入会希望者の中にも、よからぬ下心の人物がいけないと言いつれないので、この時点では双方とも真剣である。

双方納得がいったところで、入会の申込みとなる。カウンセラがつきまきり、本格的なカラーテストを行い、

データカードや履歴書の記入など、必要な手続きをすませ、第二次審査を行って、入会が決定する。

会費の払込みを終り、会員証を受取ると、専属のアドバイザーが決定してパートナーの紹介がはじまるのである。

データをもとに、全会員の中から、もっとも適性の合う相手がコンピュータから打ち出され、「パートナー紹介書」となって送られてくる。この紹介書の片面には、自分のデータを打込んだ「コンタクト・レター」がついていて、相手のデータが気に入ったときは、この「コンタクト・レター」を相手に送るのだ。(表2)

かたや自分のデータも、「パートナー紹介書」となって、ふさわしい相手の下に送られているわけだから、未知の相手から「コンタクト・レター」が舞いこむ可能性もある。

最初の段階では双方の姓はふせられないから、レターの交換はすべてアル



トマン経由である。手紙での感触がよいと、写真や履歴書の交換となる。

もっともこの段階をすっとばす人もあって、それは本人の自由。星野道子さんは、十年前の写真を送ろうとして子どもに笑われてやめ、手紙を出そうとしたがこれも思いとどまった。写真うつりはよい、手紙も筆蹟はみごとときては、相手がおそらく実際以上のイメージを描く、ともかくありのままの自分と、自分の生活を見てもらうほかはないと、相手に直接自分の家に来てもらうことにしたのである。

道子さんにとって仁さんは、アルトマン入会後コンタクト・レターを受けて、会ってみた最初の一人。仁さんのほうは、三十人ぐらいのパートナー紹介書を受け取って、そのうち九人に会っている。

「いくら仮名タイプの文字だって、そりゃァ読むほうはもう、ほんとに真剣ですよ。一人一人のデータの背後に、その人の人物を想像して、何度も何度

も読みますからね。一時間以上かかり
ますよ」

それでも会ってみれば、道子さんに
めぐりあうまで、ピタリとくる人はい
なかった。十人目の道子さんと、二人
の運命は決まったのである。

「おとうさん（道子さんは仁さんをご
う呼ぶ）は十人も会ったからいいだろ
うけど、私は最初の一人できめちゃっ
たんだから、二十七万五千円、高い高
い」

と笑わせる道子さんには、コンピユ
ータ結婚などという言葉につきまとう、
受身のイメージは影もなく、チャンスを
フルに駆使して自分の人生を築き上
げて行く人に特有の、すばらしい存在
感が溢れている。

人間はしたたかだ

道子さんだけではない。おつれあいの
仁さんも、そして荻谷さん夫妻にも、
アルトマンで得た情報は、出会いのほ

んの手がかりで、相手をえらんだのは
何よりも自分の好み、自分の判断であ
ることが痛いほど感じられた。広報室
の長谷部さんのいう通り、現代には恋
愛結婚しかない、といってもいいの
も知れないのだ。

ただし星野さん夫妻のように自らを
語ることをためらわない人たちは、ア
ルトマンの会員の中でもとりわけ主体
性にすぐれた人々ともいえるだろう。

パートナー紹介書のデータにばかりこ
だわって、コンピュータにふりまわさ
れている人々もなきはないだろう。し
かしそういう人たちは、二昔前だった
らおそらく、仲人の言葉や、両親のす
すめや、世間体にはかりこだわって配
偶者をえらぶ人々だったのではないだ
ろうか。自分の生きかた、自分の好み
に忠実に相手をえらぶ姿勢のない人は
いつの世にも自分自身でなく、他人に
依って生きるのである。ある時はそれ
が仲人であり、親たちであり、他の時
はそれがコンピュータであるにすぎな

い。

さてアルトマンを利用する人々は、
もちろん全体としてドライな、合理的
なものの考えかたを好む人々ではあるが、
広報室のワイヤーさんによると、星野
さん夫妻のように、はっきり結婚の目
的をめざして入会するというより、異
性に会おうとチャンスを求めて入会する
人のほうが多いという。

「とくに、いい相手がいなければ結婚
しなくてもかまわない、とおっしゃる
のは女性のほうに多いんですよ。男性
はやはり、生活上不便だとか、世間的
に信用がつかないとか、実地的な目的
で結婚を考えている方が多いですね」
とワイヤーさん。

男女共学で、自由な交際が許されて
いる現代なのに、中学・高校では勉強
に忙しく、大学でも何となく女の子に
縁がなく、職場に入れば入ったで仕事
に追われ、結婚相手のみつからぬまま
にアルトマンに入会する男性がずいぶ
いる。そのせいかどうか、アルトマ

ンには男性会員のほうが多い。

女性では〇しが約半数、最近では保母、教員、秘書、スチュワデスなど、専門職の女性がふえてきた。

「パートナー紹介書を受けとつても、女性は自分の方からコンタクト・レターを出さず、レターがまいこむのを待ってらっしゃる方が多いみたいですね」とワイヤーさん。働く女性でも、女性はやはり消極的なのだろうか。

データカードの「生活上のモットー」の部分には、「仕事は（男性にとつて）非常に大切なので時には仕事優先の生活になつてもやむを得ないと思います」の一項目があるが、驚くなかれ、この項目を肯定する人は、男二十九%、女四十二%と、女のほうが多いのである。

モレーツサラリーマンの弊害、父親不在の家庭砂漠が語られるなかで、この数字は何をあらわしているのだろうか。「よく若い女性の口から、私は自分を引張っていつてくれる男性がいいんです。ということばをききますでしょう。

つまり、やさしい男性は魅力的なんだけど、やさしいだけじゃいやだ、と。結婚しなくてもいい、なんて強いことおっしゃる反面、自分を引張っていつてくれる男性を望んでいる、という心理があるんですね。夫のモレーツサラリーマン型生活を肯定なさる方たちは、結局そういう男性を求めている、っていうことじゃないでしょうか。

それでいて、例えばそういう方たちに、亭主関白についてどう思いますかと質問したとするなら、ほとんどの女性があまり受入れないと思うんです。仕事はバリバリやって、全体としては自分をリードしてもらいたい。しかし結婚形態は亭主関白でなく、腕組んで歩くような友だち夫婦でありたい。

大分矛盾がありますよねえ。現代の若い女性は、片足新しい世界にふみこんでいらっしゃるけれど、片足は古い世界に残っている、と思うんですよ」

自分自身働く妻であるワイヤーさん（おつれあいはドイツ人）の分析は的

確だ。

男性のほうにももちろん問題はある。「仕事を持つている女性と結婚したいという方はあるんです。離婚者でことも一人ぐらいいる女性を望む、という方もありました。ちょっとみると自立した女性を求めていらっしゃるように見えるんですけど、よくよくうかがってみると違うんですよね。

つまり、自分はモレーツに忙しくて家庭のことなんか構ってられない。そんな生活をしているから、初婚で、家の中にいて自分の帰りを待っている女房なんかとてもやっていけないだろう。子ども一人ぐらいいる離婚者なら十分ついてこられるだろう、ということとだったんですね。現在この方はほんとに離婚の経験のある方と結婚して、とてもお幸せだとききましたけれど」

何のことはない、女の経済自立が、男のモレーツな働きぶりを助長するために喜ばれているのである。働く妻を求む、という男のホンネがどのへんに

にあるのか、眉にツバをつける必要がありそうだ。

その証拠に男の望む平均的な女性像をアルトマンのデータの中から探ってみれば、「四―五歳年下で自分よりも六―十センチ身長の高い、高校卒もしくは短大卒、メガネをかけないタバコを吸わない女性」

女の側では男のタバコもメガネもこだわらないのに、男は女のメガネとタバコになぜこだわるのか。

「タバコを吸う女についてどんなイメージを描いていらっしゃるのかにもよりますけれど、仕事はできるけれど理屈っぽくて自己主張の強い、そんな女はどうも……という男性のホンネがこのへんに表われているのではないでしようか」

ワイヤーさんの分析はますます訝えわたるのだ。

しかし明るいデータもないではない。パートナー紹介書の中で、「最も重要だと思われる情報はどの項目ですか」

というアンケートに対する、最新の調査結果をみてみたい。

一九七九年、八〇年と二年にわたって、男も女も「年齢」が第一にあるのに、八一年には男女双方とも、「興味の分野」がトップにおどり出ている。

年の差などということよりも、共通のものの考え方、感じ方をする人と結婚したい、これこそ真の意味で結婚の幸福に作る、正しいものの考え方ではないだろうか。このデータの中に、未来の明るさをかいま見るのである。

都会砂漠の中で

ワイヤーさんは、最後にこんなエピソードを伝えてくれた。

「アルトマンで知り合って、デートをなさった方たちの話なんですけれどね、それまではアルトマン経由でレターのやりとりをしていますから、お互いどこへ住んでいるか分からない。会ってみて住まいの話になったら、なんと同

じ団地の、隣りの棟に住んでいて、お互いの窓が向かい合っていたというんですね」

配偶者を求める若い男女が、それほど近くに住んでいて、互いの存在も知らず、アルトマン経由で初めて知り合う、これは都会の砂漠である。

近代工業化社会に伴って出現した大都会の孤独な人々の群れ。家族はあっても、交際範囲は驚くほどせまく、知人の数は限られている。

人と人とを結びつけていた地域社会の絆は切れた。都市に住む日本人は、ヨソモノに対して極端に警戒心のつよかったこれまで伝統をひきずって、アメリカ人のように容易に初対面の人と打ちとけることはない。

閉ざされた家庭に育ち、閉ざされた会社人間になり果てた人たちは、どこに配偶者を見つけたらよいのか。

孤独な現代人を結びつけるために登場した情報産業。

一見どれほど人間的な外観でも、産

業であるからには、人間の結びつきも最終的には金銭の問題に還元されてしまう。

アルトマンの入会資格のうち、いちばんひっかかることの一つに、男女の年齢上限の不平等がある。

入会資格、男は五十五歳、女は三十九歳（一）。

もうひとつの不平等。男性は一五五センチ以下、女性は一七〇センチ以上の人は入会できない。

三十九歳以上の女は、結婚の対象にならないというのか。一五五センチ以下の男は、人間でないというのか。

私の疑問に対して、まことに明快な答が返ってきた。

二年にわたって一〇四人の異性を紹介する義務がある以上、例えば三十九歳以上の女性を求めている男性が、十分な数だけ存在しないときは、入会していただけでも無意味になる。それ故三十九歳という制限は、何もアルトマンが主観的にひいたボーダーラインで

はなく、パートナー希望のデータからはじき出した目安にすぎない。三十九歳以上をのぞむパートナーが十分な人数だけふえたら、この制限は撤廃できる。というのである。

需要と供給の原則が、ここには厳然と存在している。需要のないところ、供給側は、どれほどそれを望んでも、市場に登場することさえできないのだ。

例えば三十九歳以上の女性を望む人が、百四人といわず、三十人いた場合にはどうなるのか。三十人を紹介してくればよい、と女性側が言ったとしても、その場合二十七万五千円の会費は据置きなのか、どうか。

そうしたあれこれの煩雑さを考えれば、三十人しかパートナーの見つからない年代層の人々を切り捨てる論理が容易に優先することはわかる。こうして例外的条件を負わされた少数者は、ここでも落ちこぼれて行く。

利潤追求を最終目的とする企業活動に、少数者を考慮に入れる活動を期待

することはおそらく不可能なことなのであろう。いかに効率よく、いかに最大の利潤をあげるかということが最終的目的となる組織にとって、同じだけ労力がかかり、より少ない利益しかあがらない活動は無価値なものであろうから。

おそらく、アルトマンだけでなく、すべての結婚紹介所に足を運ぶことに感ずる私たちのためらいの理由の一つは、金銭を払って人間の結びつきを確保することに對する抵抗感にあるのではないだろうか。

しかし都会の砂漠の中で、現在ただ今他にどんな有効な方法があるだろうか。人間を孤立化させる工業化社会で人間のつながりを恢復するために、どんなことができるのだろうか。

アルトマン・システムは、この重い疑問を私たちに突きつけている。

あなたはチャンスをつかみますか？

へわいふで就職のお世話をします



四月からグループわいふでは、毎月一、二回の予定で、主婦のための再就職セミナーをはじめました。

(五月は二十七日。たいてい月末に開きますので、おいでになりたい方はお問い合わせ下さい。場所は東京都内、三多摩、近県をそのつど移動します。内容はだいたい同じです)

かなりの盛況で熱心な質問や体験発表もありましたが、なんとその場へ求人に来た会社があるので。またマスコミが取材に来たりしたので企業の関心を引いたとみえ、その後人材をせわして欲しいという申し入れがありました。へわいふでは女性の社会進出をすすめる立場から、

ぜひご紹介をしたいと思います、今後に備えて求職のお申出を受け付けることにしました。

ご希望の方は次の事項をご記入の上、お送り下さい。(ハガキでも封書でも)

●氏名・年齢・住所

●お子さんの数と年齢

●学歴・職歴・特技・資格

●職業に対する希望(職種、給料、勤務地、勤務時間など)

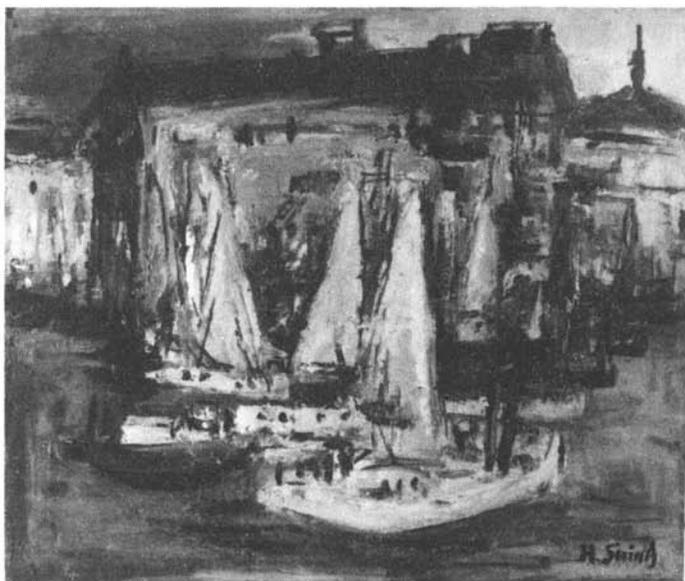
●その他必要な事項があればどうぞ

お寄せいただいたものを求職票としてファイルし、企業から求人があればご紹介したいと思います。

求人はただ今のところも数件あり、

あちこちお電話して打診しましたが決まりません。条件の相違ということならば止むを得ないのですが、たいてい(家庭が整理できない)(フルタイムではいくら待遇がよくてもむりだ)(夫を説得できそうもない)(やはり子供が心配)(そんなに責任が持てそうもない)などの、せつかくのチャンスなのにもう一步思い切れない、という感じのお断わりであったのが残念でした。

職業生活というのは主婦生活とちがいが、ある程度のきびしさはみなあります。就職を希望なさるならばいまま少しの勇氣と、決意を持って、前髪しかないというチャンスの神様を捕まえていただきたいものです。



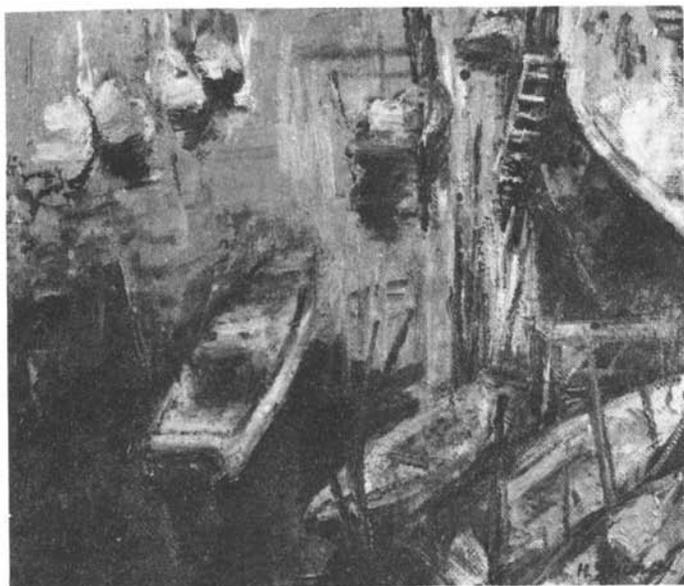
私のえらぶ画家 7 個 堅 輔

島中はつ江

島中さんは、異色画家である。中年になって描きはじめて絵が、本業のようになるとは夢にも思わなかったという。

「図画の時間が一番嫌いだ。わたしが、まいにちキャンヴァスにむかっているなんて不思議な気がします。老年の楽しみにと軽い気持ではじめた油絵に、これほど、のめり込むようになるうとは……」と島中さん。

島中さんが絵筆をとりはじめたのは、P・T・Aの絵画教室だった。校長先生が、ある美術団体の会員であるところから、先生をかこむグループができ、そこで絵を学んだ。



島中さんが好んで描くモティーフは舟である。ベニスのゴンドラ、港のヨット、海辺の小さな舟、あるいは大きな貨物船であったりする。子供が汽車や舟などの乗物に、さまざまな思いをたくして、異常なまでに夢をふくらませるように、島中さんの天真爛漫な人柄が、おのずとこうしたモティーフにむかわせているのかもしれない。

白いヨットが、乱立しているかのようには、伸びやかな線と荒々しいタッチで描かれた風景。あるいは、画面を二分する赤と緑との強烈なコントラストの夕暮の海面で、形がほとんど崩れてゆくようにみえる小舟の風景。フォーヴ的な技法には、対象にたいする熱い情感があふれ、タブローのなかに、いきいきとした生のリズムがある。オーソドックスな画家には、とうてい描かれない個性的な絵の世界。

島中さんは、読売テレビ放送賞、女流ノミネイト作家展の奨励賞などを受賞。彼女に寄せられる期待は大きい。



夫も乗気になりました。



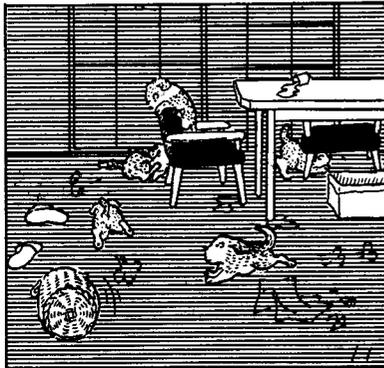
? 十万円かの期待に胸をふくらませて
タネ付け入院をさせることにしました。



睡眠不足でフラフラになりつつ世話をした甲斐あって、子犬は足が立ちましたが



カーペットはオシッコとウンチだらけ



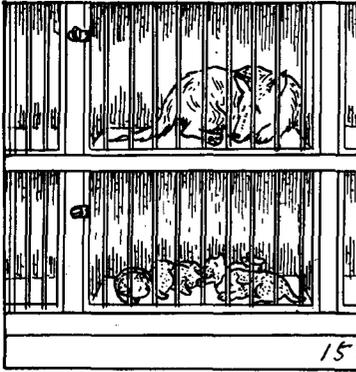
夜中に彼らは運動会をするのです



しまいに障子を破って寝室にちん入
夫の顔をなめ



疲れたのは人間ばかりでなく母犬もで、高熱を
出して入院。子犬も感染して入院。



カーペットには新聞紙をしきつめ、障子ぎわに
バリケード。入れないと知ったら夜中じゅう
キャンキャン



サテ収支決算。子犬はみな
売れましたが。



その翌日



はじめて降りたヤップ島

飛行機の窓からヤップ島を見下ろしたとき大平洋の真中に浮かんだケン粒のように見えた。それが近づいて見ると一面ジャングルで、細い道が走り、ところどころに何かの葉でできた屋根が見える。

やや緊張しながら私は生後三カ月の娘を抱いて空港に降り立った。空港というより飛行場、いや広場である。その飛行場らしき片すみにはテーブルと椅子が置いてある。入国手続きはそこで行われるのだ。

飛行場の別の片すみには、飛び立って戦わなかったままアメリカの飛行機

私の暮らした地上の楽園

●ヤップ島滞在記●

に破壊されたゼロ戦数機と、いまだに南の空を睨みつづける高射砲が放置されていて、今にも軍歌や足並をそろえた兵隊の足音が聞こえてきそうな錯覚

におちいる。ちょうど自分と同じ年代の日本の若者が戦いで散っていったかと思うとふと寂しい気持ちがあった。

飛行場の回りには、人食い人種のよ

うな真赤な口をしてフンドシひとつの人相の良くない男達が、タラップから降りてくる人間を見ている。どうも人を待っているのではないらしい。

ひとまず迎えの車に乗って新しいねぐらに向ったが、道すがらまるで戦争中のような錯覚をおぼえた。車のマフラーのけたたましい音のせいか、いま



にもジャングルの中から戦車が出てき
そうな感じである。「南十字星の星の
下で……」などとロマンチックな手紙
で呼びよせた亭主をうらめしく思いな
がら車に揺られていた。

車の窓から見た空は青く澄みわたり、
大きな入道雲がゆったりとまるで両手
を広げるかのようにぐんぐんのびてく
る。

町に入るとそれこそ植民地そのまま
のような状態で、南北戦争前のアメリ
カのメキシコに近い地方の映画のセッ
トのようだ。建物といってもトタン屋
根で、たまに鉄筋コンクリートかと思
われるものは、アメリカ政府の建物か、



そこで働くアメリカ人の住居である。
現地人の約半分と、年寄はみな、フン
ドンかコシミノ姿で口の中を真赤にし
ている。そしてときどき地面に赤いツ
バを吐き出す。

女も男も草で編んだ鳥追い笠のよう
なものを持っている。どうもハンドバ
ッグらしい。そしてのんびりと歩いて
いる。

「ねえ、どうしてみんな赤い口をし
ているの？」

「あれはビンロージュという実に、
石灰をふりかけて口の中でしがんでい
るとあなるんや、煙草や大麻とおん
なじで幻覚症状をおこすらしい」

「害はないの？」

「さあ知らんなあ、俺もやってみた
けど、あんまりうまいもんじゃないなあ」

常夏の島、ハイビスカスの花、南十
字星、やしの実、甘いオレンジ、そび
えるバナナの木、そんなことしか頭の
中になかった私は、これから驚いたり、
不安になっていくことがたくさんある

のではないかと思った。

一年中が夏のヤツプ暮らし

さて生活がスタートしたが、最初は
男のひとり暮らしのあと始末、手抜き家
事で汚れ放題の家の整理に追われて、
数日過ぎた。子供は一日に数回お湯を
使わせないと体中にアセモができてし
まう。家は四方に窓があつて砂ぼこり
がひどく、掃除は一日に数回しなくて
はならない。しかもエネルギーに
動くには気温が高すぎる。亭主の便り
に「南洋の人間はなまけ者」とあつた
が、当り前だと思つた。日本だつて一
年中ずつと夏だつたら高度成長もなか
つただろう。

我々に与えられた住居は家具、乾燥
機、エアコン付きの快適なもので、し
かも家賃、光熱費、水道代は無料であ
る。原住民はというとう、芭蕉の葉の屋
根の電気もない小屋で、七、八人の家
族が板の上で横になるのだ。家の中は
うす暗く、そのせいかみんな目がギョ

ロギョロしている。少し年を取るとみんな遠視になる。亭主は「日本に帰ることがあったら、メガネを買ってきて欲しい」と頼まれていた。彼等はメガネに目を合わせるつもりでいるのだ。

ヤップ島は現在国連が統治している島である。医師、役人、教師などはアメリカ本土から派遣される。コンチネンタル航空が週に三回フライトし、新聞や手紙、肉、野菜等の食料品をおろしていく。船の便もあるが、テレビもなければ新聞もない。ラジオ放送は八割が音楽で、一割が原地語、一割が英語である。

町には映画館が一軒あって、回りの壁はブロック作りで屋根がなく、中には手作りの長椅子が半分こわれてゴロゴロ置いてある。離れてみるとまるでインカの廃墟のようである。

島で一番大きなマーケットは、ヤップコーポレイティブアソシエーションとって共同組合のようなもので、トイレットペーパーから、車まで販売し

ている。その他には小さなよろず屋が各村に一軒づつぐらいある。これらはほとんど村の金持ちや有力者の経営である。その人達はかつての酋長で、中でも一番権力のあるのが大酋長だ。ときどき日本のマスコミから声がかかり、テレビに出演したりするスターである。酋長の子弟はグアムやハワイで教育を受け、医師や弁護士や警察官になるのだ。

酋長には子分がたくさんいる。子分

何となく日が暮れるのを待っている人々――

亭主の便りを信じてやってきた楽天家の私は、ホームシックにも、ノイローゼにもならず、水がかわったのにお腹もこわさずに結構島の生活に馴染み、次第におもしろい事を発見することができたのである。

島民は閉鎖的な性格なのか、外人には余り近づいてこないで、主婦の私は彼らと余り交流できなかった。しかし、亭主は彼らを使って仕事をしてい

は毎日酋長のために家の回りを掃除してみたり、子守りをしたりする。そして酒を飲ませてもらったり食べさせてもらって満足しているのである。酋長のためなら命を捨てる、とのことだが本当かどうかはさだかではない。

酋長には、本妻以外に二、三人の妻がいて、彼は一番お気に入りの方と暮らしてみたり、恐ろしい本妻と暮らしたくさん子供をもうけているのだ。

たので色々な人と親しくできた。知ってみるとみんなおらかで優しく、いい人ばかりだ。魚を釣った、果物が採れたといっちは届けてくれたが、やっぱり遠慮がちで、決して居間には入ろうとしない。さっと帰ってしまうのである。

魚はエサをつけなくても簡単に捕れる。しかし私はこの魚を食べるのにいささかためらいがあった。というの

は島民のトイレが海に突き出ており、便器の下は海である。人間の排泄物を魚が競って食べる。そしてその近くで人が魚を釣っているのである。新鮮(?)なウンチを食べたばかりの魚をまたすぐ胃の中に入れる気にはなれないのだ。

島民の主食はタロイモで、魚、果物なども食べている。土壌が悪く野菜は余り育たない。現地産の胡瓜は日本の瓜みたいに太くて水っぽかった。彼らが熱心に栽培しようとして改良すればなんとかなるのかもしれないが、何ごとにも熱心に取りくまない人種なので無理な話である。何となく日が暮れていくのを待っている人達なのだ。変わった物を食べたい、車が欲しい、着物が欲しいなどと物欲の強い人でなければお金がなくてもなんとか暮らしていけるのだから……。

私がヤップ島で食べた不思議なものは、新鮮なウンチを食べて太った魚、瓜のような種ばかりの胡瓜、ぞうりの底のように固いアメリカの肉、皮が緑

色のまま甘いオレンジ、フットボールの玉のような西瓜、日本産の缶詰の豆腐、青いバナナ、殺したての温かい豚肉……。

この温い豚肉も魚と同じように胃の中に入れる気にはなれなかった。なぜなら、「今日は豚を殺すから、後でおすそわけをします」ということだったの



で楽しみにして家で待っていたところ、我が家に「キーキー」と殺される豚の叫び声が先に届いたのである。

日本ではスーパーマーケットに、きれいにスライスされた豚肉が冷蔵されて並んでいる。「肉は冷たいもの」だと先入感がある。だがやがて手もとに届けられた肉は温かいのである。今さっ

きまで生きていましたと言わんばかりである。そしてあの豚の叫び声が耳に残っているのでとても食べる気にはならないのは当然だと思う。

私生児・犯罪・監獄 も、あるのだけれど

ヤップ島では暑いせいかみんな早熟で、十五、六歳になると女は子供を産める。どうも戸籍がないらしく、正しい年齢は本人にもわからないらしいが、子供は暇にまかせてたくさんもうける。しかし栄養状態が悪く、衛生管理も行き届いていないので育ちにくい。でも五、六人の子持ちはザラ、その上他人の子供を平気でもらい受ける。

ある時、我が家のたった一人の娘を欲しがった男がいた。彼にはすでに五人の子供がいるのに！もちろん私達はお断りしたが、理由は、うちの娘が愛嬌がよく美人(?)で日本人の子だから頭がいいだろうということだけだった。

彼らは日本人を非常に賢い人種だと思っている。戦前の日本人を知っているから礼儀正しくて正直者で働き者だと思っている。たしかに戦争中の日本人の兵隊と原地の女との間にできたといわれている人は、他の者と比べて気がきいて働き者なのである。

またこの島には、ロバート・レッドフォードやエリザベス・テイラーがいる。彼らは映画スターの名前を平気で自分につけるのだ。人相は全然似ても似つかないので思わず吹き出しそうになる。

フリーセックスという言葉で片づけてしまえるほど快楽的な雰囲気ではないが、セックスに関しても自由で解放的である。外国人に対しては閉鎖的だが男が積極的に近づけば娘達はあっさり身をまかせる。アメリカ人の銀行員の子供を身ごもった女性と、少し親しくしたが、結婚をしてアメリカに行き行こうなどと考えてはいないし、彼のアパートで暮そうともしない、愛し

ているという感じでもない。色々詮索したくなる私の方が、少しおかしいような気がした。日本からのツーリストや単身赴任の男性諸君も、かなり自由恋愛を楽しんでいた。

ここにはコールガールはいない。娘達が妊娠すると私生児が誕生する。私生児という言葉はないのかもしれないが、とにかく中絶は禁止されている。

生まれてきた子供は、健康でさえあれば何となく育つのである。亭主も単身赴任の期間が長かった。私としては、やや気にかかる。しかし彼は笑って言った。「たとえどんなにチャーミングでも、生まれてから十五、六年一度もシャワーや風呂を使わなかった女なんか、抱く気にはならんよ」。淡泊で潔癖性の彼の言葉をひとまず信用することにしたが、数年後「私の父を捜して下さい」と名乗り出て来られないかという不安は少し残っている。

日本の男性諸君のいい話はたくさんあるが、日本女性にもすごい人がいた。

世界各国をひとり旅しているというその人は、酒場で島の男と結構仲良くなり、ホテルの部屋に招き入れ、一戦を交え、次の日には彼を警察に突き出し、しこたま慰謝料をせしめて旅費の足にしたのだ。気の毒なのは島の男で、何が何だかわからないうちに、お金を取られ、犯罪者になってしまった。キツネにつままれたような話というか、悪夢である。私は日本女性としてとても責任を感じた。

暑いうえに余り水が良くないせいかわ島の人間はほとんど、昼間からビールを飲む。いつも飲酒運転である。酔ってハンドル操作を誤り、海に飛び込む人間も少なくない。夜が更けるとさらに酔いがまわり酒場ではケンカがはじまる。まるで小学校の体育館のようなその酒場では、スコッチウイスキーが、歯みがきに使うような、プラスチックのコップに入って出てくる。ひとりビールを何ケースも飲んでいる人間もいる。私も幸か不幸か、島で暮してい

るうちに酒量が増え、かなりいけるようになったまま現在に至っている。

酔っぱらいのケンカが始まると、これまた酔った警官が、何のためらいもなくすぐに、ピストルを発射する。しかしよく見ると空中にむけて発射しているケガ人は出ない。そして犯罪者は町の中心にある刑務所に留置される。

ところがこの刑務所は鍵がかかっておらず、彼らは庭に出たり、民芸品を作っていたり、ちょっと家に帰ったり、友達と会ったり、買物に出かけたりして非常に自由である。誰も脱走する気はない。小さな島だから逃げてみすぐに見つかってしまうだろうし、何ぶん世間知らずの人達なので、舟や飛行機で知らない土地や、他の島に渡るほうがもっと恐ろしいことなのだ。

今も通用する石の貨幣

島には今でも石や貝の貨幣がある。そしてもちろん通用する。ストーンマネーバンクというのが実際にあって、

建物の前に大きな石の貨幣が立てかけて並べてある。この島の山からは岩とか石とかが産出されないのです、石が貴重品として貨幣の役割を果たすようになったらしい。約二百キロメートル先にパラオ島というのがあり、ここから石を切り出し、加工して持ち帰ったということである。なにぶん文明も発達し



ていない昔のこと、満足な舟もない。そこで竹で組んだ縦四メートル、巾二メートル五十センチ位の筏と丸木舟で、太平洋の荒波を乗り越えて運ばれたのである。当然往復での行程で色々なアクシデントがあり、帰れなかった人も大勢あったに違いない。そしてそれによって悲しい恋物語もあったのでは

ないだろうか。

貨幣の価値は石の大小、持ち帰る時の困難さの度合いによって決められたらしい。銀行の前に立てかけてある貨幣は数多くある。ちゃんと持ち主が覚えていられるか疑問である。何しろ南洋の人達はのんきだし、忘れっぽいので、マーカーで使えないはずなのに、何に使うのだろうか、それも不思議なことである。

海岸は丁度五百メートル位のところに、リーフがある。リーフの内側は鏡のような静かな水面で、そこまではほとんど歩いていける。外側には太平洋の荒波が押し寄せ、それはまさに壮観という感じである。また澄みきった水の中には、ネイビーブルーの小さな熱帯魚が群をなして遊んでいる。リーフのはずれには、昔に座礁してそのまま放置された船が、悲惨な感じというよりロマンチックな感じで浮かんでいる。水平線には、日本の二倍も三倍もある入道雲が休むまもなく姿を変えて、終

わりのないドラマを繰り広げているか
のような。

二月からドライシーズンに入り八月
頃まで続く。その間は水道が時間給水
になることもある。そのせいか、島に
は風呂がなく、どの家庭というわけ
もないが、シャワーがある。島の人達
にはそのシャワーもほとんどなく、海
が風呂の役目をしてくれるし、スコ
ールがシャワーである。雨が降ると「シ
ャワー、シャワー」と喜んでゐる。雨
がなくなると山の緑が全く消えて、一
面砂漠みたいになるといふことだが、
幸いにも私が暮した年は適当に雨に恵
まれた。

夏の盛りにクリスマス

五月十二日のヤップデイには島中の
村からそれぞれ踊る人が町の広場にや
ってくる。そして一日中単調な踊りが
繰り返される。踊りそのものは単調で
退屈するが、男女を問わず身体を飾り
たてた原色の色紋様が、青空に映えて

幻想の世界にひきこまれてしまう。

ヤップ島という島は丁度台形のように
なっている。島の一番高いところに行
くと映画に出てくるテキサスの大平
原のまんまに立ったようだ。西の空
に太陽が沈む頃、入道雲が夕陽に染ま
るのを見た。日本では見られない美し
い夕焼けだ。

ホームシックやカルチャーショッ
クに縁遠かった私は、食べ物を考える
時だけ日本が恋しかった。秋になると、
秋刀魚と大根おろし、松茸ごはん、お
でん、ほうれん草のおひたし……四季
折々の食べ物時々夢枕に出てきて私
を悩ませるのだ、とにかく十月も十一
月もずっと夏なのである。いささか私
の神経も変化しつつあった。

クリスマスが近づくとつれて、私の
頭の中に一つの疑問がわいてきた。「ヤ
ップのサンタクロースはどんなコスチ
ュームで登場するのだろうか？」
「カラフルなフンドシ姿かな？」

それともショートパンツにランニン

グ姿で、汗を拭き拭きやって来るのだ
ろうか？ 暖炉はない煙突もない、ど
こから入ってくるのだろうか？ 真赤な
お鼻のトナカイさんもないし、大き
な蜥蜴とくげが数匹で、そりを引っぱって
るのかしら？」

そこで友人に尋ねてみた。「サンタ
クロースは世界中どこでも、あのコス
チュームで、トナカイに乗ってやって
きます」という答えだ。暑くて、アセ
モがいっぱいできるけれど、この星が
いっぱい南の空を飛んでくるのは壮
快だろう、そう考えながら、クリスマ
スをむかえた。「ホワイトクリスマス」
の歌詞を思い出すのだった。

ある日、マーケットで美しい白人の
女性に声をかけられた。私が聞きとり
やすいように、歯切れよく、ゆっくり
とした英語で話してくれる。とっても
優しい人だ。私は嬉しくなって、つい
ついで話がはずんだ。しかしそのうち雲
ゆきがあやしくなってきた。彼女はあ
る新興宗教に入信するように誘うので

ある。島の人間を誘っても相手にされないらしく、私に矛先をむけたのだ。

布教に南の島を選んだのはどうも失敗だったらしい。島の人はみんな自分はクリスチャンだと言っているが教会に行く程熱心な人は少ない。教会の牧師もやる気のなさそうな感じである。

大晦日には町の酒場でニューイヤーパーティがあった。豪華な料理や果物や飲み物がたくさんテーブルの上に並べられ、花が飾られ、音楽が流れる。踊る人もいる。夜中の十二時少し前になると、場内が暗くなり、音楽もやみ、静かになる。そして時計の針が十二時をさすと、みんな「ハッピーニューイヤー」と叫ぶのである。そしてあっちこちで乾杯する、プラスチックのコップの音が聞こえる。このパーティには島の人も外国人もそしてツーリストも参加できる。

このパーティで私はツーリストの日本人の若い男に声をかけられた。下手くそな英語である。私を島の娘と間違

えたらしい。ずっと暮しているうちに、きれいに日に焼け、そしてムーミーを着て、回りの人達と親しく話していたからだろうか、その上私の人も南洋風に変わっていたからだろうか、ちょっとハンサムでステキな人だった。独身でないことが悔まれた。

あれは天国だったのかも――

ヤップ島での一年間はとても貴重で懐かしい。毎日都会の雑踏の中で、人間関係や、日々のさまざまな事件に神経をすり減らしている今の生活、私にとってあの一年間は、タイムトンネルですつとずつと昔に逆もどりましたよう

な、天国をかいま見たような日々であった。もう一度島を訪れて、友人達に会いたいと思いつつ十年が過ぎた。私が暮した頃より今はずっと都会的になっっているに違いない、ちょっと残念な気がする。このまま思い出だけで終わったほうがいいのかもしれないと思うこともある。

自然は美しい。しかしその自然の中でヤップの人達は文明に憧れ日々に進歩していこうとするのだろう。私達は自然を失ってしまった生活の中で、自然にもどりたいと願っているというのに。



わいふ家庭科

男女共修

●簡素で健康的な食生活を求めて●

あなたの食卓診断

診断・ダイエットクリエーター

竹内 富貴子

3

聞き手・わいふ編集部

和田 好子

子離れ後の夫婦の生活

男の子は思春期になるととても憎たらしくなります。母親をオパン、あるいはパパア、もっとひどいのはクソパパアなどとよび、父親に対してはムツツリ無言。何のために育ててきたのかとたいていの母親は泣いてしまう。父親はもう少し冷静で、あいつも一人前になりかけてやがるな、くらいの理解はできるが、一しよに公園で野球をしたころを思えば、よそよそしい他人が同居している感じで、やっぱりつまらない。

この時期の憎たらしさの一つに、大喰らいという現象があるのです。メシ、メシ、食うもんくれ、腹減った、などと叫び、底が抜けてんじゃないかと思うほど食べる。三人思春期の男の子をもったある母親は、

「家計を食い倒される感じ、どうなってしまうのかしら」と言っていました。

こういう人間を一人飼っていると、献立はどうしても彼中心ポリシームのあるものになり、大人向きじゃれた料理は出番がありません。しかし恐るべき時期はさいわいに長くは続かず、息子はどっかへ出て行ってくれます。大学で下宿すれば早いほう、遅い場合でも就職で出ていく。最悪、二十五、六の勤め人になってまでゴロゴロしていてもタバコや深酒をおぼえて以前のようには食べなくなります。

食卓の非常事態はかくして去るのです。

さて、今回のTさんのお宅は、一人息子が地方の大学へ去り、にわかにはさびしくなったところで、久方ぶりの夫婦さしむかい、どんなたのしい献立でしょうか。

体重は夫妻ともに標準を下まわり、前回のお宅とは反対に、ドーナツの二つや三つ食べてもこわくないというところ。

さっそく竹内先生のコメントを…。

▼この方の場合、乳製品がぜんぜん足りませんね。

——朝、入っておりませんか。

▼朝は牛乳が八〇CC……奥さまがミルクテイでめし上ってますが、それっきり……他には何も食べてないのかな……トリストをゆきれ、バター、ジャム少々。

——ダンナさんのほうなミルクぬきのブラック・コーヒーと、玉子を二つ食べている。

▼一おう診断は奥さまについてでよろしいですね。ご夫妻で食べるものがお違いになるから。

——そうですね。前回のは、昼食はともかくとして、朝夕は夫妻同じものを食べてましたがこれは朝からべつべつで……。このご家庭は私よく知っていますのですが、奥さまは低血圧で朝起きられないのです。ダンナが一人で起きて朝食をつくり、食べてご出勤。それから一、二時間後に奥さんが起きるの

彼女は専業主婦ではなく、自宅かなり忙しい仕事をしています。

▼じつにわずかしか、朝はめし上ってませんねえ。全体で二点のうち第一群（乳・卵）は〇、六。しかもミルクだけで、卵はぜんぜんないんですから。

——夫は毎朝二箇食べるそうです。

▼奥さまは三日間ゼロ。最後の日に、ミルクコアを間食に飲んでいらっしやるので、この日だけ乳製品はちょうどとれています。

第二群（魚・肉）は、冷凍ものなどお使いになったりして、わりとカロリーが高く、とれすぎるぐらにとれているんですね。

——二群はとりやすいですからね。この家は電子レンジがあり、冷凍ものをよく食べているようです。

▼ふしぎなのは四月二日の夕食に、チャーハンとごはんを両方めし上ってる。これはどういうこと？

——この家で冷凍のチャーハンというのを見たことがあります、あれか

しら？

▼チャーハンの冷凍があるんですか？

——あります。たしかに見ました。シイタケやグリーンピースや、にんじんなんが入って。

▼それは私、知りませんでした。

料理の専門家にはチャーハンの冷凍なんて想像もつかなかったようです。

リストではそのチャーハンに、豚肉が一人前百グラムも入っていることになっていて、市販品ならこれもおかしいということになり、とどのつまりTさんに電話をして、説明を求めました。

T アアラ、冷凍のチャーハン、あるわよ。料理の専門家がそんなこと知らないの。

——私だってお宅で見るまで知らなかったわよ。で、これは冷凍？

T ちがうわよ。おひやが余ってたからチャーハンつくって、それでは足りないからごはんも炊いたんだわ。亭主はチャーハン食べてからごはんを食べ、

私はチャーハンだけだった。

——豚肉が二人前で二百グラムも入ってるがどうしてこんなに入れたのか？

T 冷蔵庫から忘れてた肉が出てきて、食べちゃわなくちゃ危いから、みな入れちゃったのよ。

——ミートボールは冷凍？

T 出来合いのをうちで冷凍したんだわ。



問答の結果、Tさんの献立は栄養的

配慮より、何が冷蔵庫にあるかで決ま

る傾向だということがわかりました。

冷めしをチャーハンに、足りないからごはんも炊く。ふだんどこの家庭でもやりがちなこと、われわれの家庭料理の素顔は、たいていこんなものですよ。しかしそれを栄養的にみた場合、

必ずしもけっこうではないようです。

▼余った肉があるからと、二群をとりすぎていらっしやるんですね。それくらい一つふしぎなのは、三十一日に旦那さまがインスタント・ラーメンにごはんを入れて食べていらっしやることで……

——それが好きなんだそうです。

Tさんは、ダンナがそれをやったときに、「イヤダ！ 献立つけてるのにそんなことして……みっともない」と怒ったけれども、食べてしまったので仕方なく記録したと言っていました。竹内先生によれば、

▼ラーメンもごはんも第四群で、チャーハンとごはんというとり合せとともに、同じものが重なる結果、一〜三群がとりにくくなります。おそらくお汁も飲んでしまっているでしょうから、塩のとりすぎ（五グラムから六グラム入っている）も心配ですね。

夫54歳 170cm 55kg・妻52歳 160cm 43kg				3月31日(水)				No
				合計点数				
料理名	材料名	概量	重量	1	2	3	4	作り方
朝 ミルクテイ トースト	ミルク		80cc	0.6				夫はブラック コーヒーと半熟卵 ↓ 2コ 小1/2 6枚切りで 小1
	パン バター ジャム	1/2切 少量 少量					1.0 0.2 0.2	
				0.6			1.4	T 2.0
昼 ごはん レタスのサラダ 炒め肉 みそ汁	レタス	1 少1/2ケ				0.1	2.0	夫はインスタント ラーメンにごはん を入れたものだけ 大1で 小1で
	マヨネーズ 豚・トリ肉 油		50g位		2.0		1.2	
	大根 みそ	少量				0.1	0.4	
				2.3	0.2	3.6	T 6.1	
夜 ごはん みそ汁 野菜・肉炒め中華風 サラダ つけもの	みそ	2			0.3		4.0	5%で ドレッシング 量不明
	えのき・長ねぎ					+		
	長ねぎ	1/2本				0.1		
	たけのこ	5cm				0.1		
	玉ねぎ	1/2ケ				0.2		
ピーマン	2ケ				0.1			
トリ肉	100g			2.5			1.4	
油								
きゅうり・しそ	1切れ			1.5			0.1	0.7
きゅうり・しそ・人参	3/8本	しそ5枚					+	
キャベツ								
				4.3	0.6	6.1	T 9.5	
			TOTAL	0.6	6.6	0.8	11.4	19.1

とのこと。(あとで聞いたら汁は残す
そうでした。
関西方面ではうどんをおかずにごはん
を食べることが行われているといいま
すが、こうした食習慣は伝統だからと
いって尊重すべきものとは思われませ
ん。

▼しかも奥さまはサラダとか炒め肉と
かあがっているのに、旦那さまはラ
メンとごはんそれだけなんですわね。

——夫は朝、卵を二つ食べていますが、
ニコというのはいかがでしょう。

▼コレステロールの多い方なら、あが
らないほうがいいですし、そうでなく
てもニコで十分ですね。ニコ奥さまに
あげたらいいんですよ。(笑) 男の方は
外食もなさると思いますが、卵とい
うのはよくいろんなものに入っています。
ハンバーグにも天ぷらにも、カツやフ
ライにも入っているんで、朝のニコが
ニコではすまなくなるおそれがありま
すから。

					4月1日(木)				No
					合計点数				
料理名	材料名	概量	重量	1	2	3	4	作り方	
朝 ミルクティー トースト	ミルク	1/2切	80	0.6			1.0		
	パン								
	バター						0.2		
	イチゴジャム						0.2		
				0.6			1.4	T 2.0	
昼 ハンサンドイッチ	パン	2枚	50g		1.3	+	2.0	サンドイッチ用	
	ハム	少量						0.3	小1
	レタス								
	バター								
					1.3		2.3	T 3.6	
おやつ	アラレ	少量					1.0		
	クラッカー								
							1.0	T 1.0	
夜 みそ汁 ハンバーグステーキ 粉ふきいも おひたし ひじきの煮物 つけもの	えのきだけ	1ヶ 1/3ワ	100g				0.3		
	みそ								
	長ねぎ								
	冷凍レストラン風								
	じゃがいも								
	ほうれんそう								
かつおぶし	50g	0.6	+	0.1	さとう5% 大豆ゆで30gで				
ひじき									
大豆・人参	少々								
キャベツ・人参									
きゅうり・しそ									
			TOTAL	0.6	5.5	1.3	5.2	T 6.2	
								12.8	

「夕食一点豪華主義」
で、よいのでしょうか

▼二群だけは多いんですね。それにとりとかブタとか、わりとカロリーの高いものをお使いになっている上、料理法がまたいためものが多く、油が入ってくるので全体のカロリーがあがってくるということですね。ごはんの量が書いてありませんけど…。

——とくに大きなお茶碗で、ということはないです。だいたいこの家の食事は量が少いように思います。奥さんは胃がよわく、あまり食欲のない人ですから。

▼胃腸のよわい方でしたら、多量に油をお使いになるのも考えもので、すね。こうしてみると、どうも消化のわるい調理法が多いようですよ。油の量も書いてありませんが、ふつうこの調理法に使う量だとしますと、多いですねえ。それから、野菜(第三群)も少い。一回粉ふきイモを作っていたらっしゃるが、

				4月2日(金)				No
				合計点数				
料理名	材料名	概量	重量	1	2	3	4	作り方
朝	ミルクティー	ミルク トースト バター ジャム		0.6			1.0 0.2 0.2	
				0.6			1.4	T 2.0
昼	ごはん		2				4.0	
	みそ汁	インスタント	1		0.3			
	納豆	納豆 ねぎ	1包		2.0	+		
	つけもの	からし たくあん	3切			0.1		
				2.3	0.1	4.0		T 6.4
夜	チャーハン	ごはん	2				4.0	
	ごはん	豚肉 ピーマン 玉ねぎ 油	100 g 1ケ 1/8ケ		4.0	0.1 0.1	2.1	油5%で
	ミートボールの 煮つけ	トリ肉のボール グリーンピース	6ケ		1.8	+		
	わかめのサラダ	白滝 わかめ きゅうり 玉ねぎ ピーマン	1/2束 1/2本 1/8ケ 1ケ			+	0.1	さとう小1で
	つけもの	フレンチドレッシング たくあん	4切			0.2		
						0.1	0.7	大1で
					5.8	2.3	6.9	T 15.0
	パウンドケーキ ミルクココア	ミルク ココア	1切 少量	150	1.1		2.6	1切れ50gで
					1.1		0.2	
							2.8	T 3.9
			TOTAL	1.7	8.1	2.4	15.1	T 27.3

イモ類、不足がちですね。果物をま
ったく食べていらっしやらないのも、
ふしぎというか、ちかごろでは珍らし
いんじゃないですか。

この家はわりともらい物が多いみ
たいでときどきたくさん果物がありま
す。それで日常は買わないんじゃない
かしら。

▼野菜自体(一日三百グラム)はそう
足りなくはないんですね。しかしお
イモと果物が少いから、三群全体とし
ては点数が減ってしまうのです。調理
が早いためか、野菜は炒めもの、また
はサラダで、おひたしは一回出てきて
いるが、煮物や和えものはありません
ね。ご夫妻の年齢からして出てきても
いいはずだと思うのですが…。これ
は胃のよわい方には負担がかかる、不
消化な調理法だと思います。

そのせいか、奥さまがごはん(主食)
をあがってない日がありますね。(四月
一日の夕食)

胃の調子がわるくてもたれることが

あるというような方でしたら、もう少し消化のよいものを、しかも三回にきちんと分けてめし上ることですね。一回にたくさん食べるのはどうしてもたれます。このお宅は朝と昼が軽すぎため、夕食に重点がかかりすぎ、夕食をたくさん食べるから、朝食べられないという悪循環になっているんだと思いますね。

もう少し一日三食のバランスを変えれば、だいぶ体調もちがいがいい、さっきのお話の低血圧症状もよくなるでしょうし、お肥りにもなれるんじゃないかしら。

「豆製品はわりときちんととっていらっしゃるが、それも納豆を一人で一ペんにワンパック食べちゃったりして、(笑)まあお二人きりだからということとはありましようが。そういうことをするために、単調になって他の栄養がとりにくくなってしまふんですね。朝昼の食品の数が少な過ぎますねえ。」

——二人きりの食事というのは、どう

しても単調になりやすいでしょうね。

▼でも繰り返しのかたじやないですか。保存の利かないものは少量買うとして、多少利くものでしたらよけい買って置き、何回かに分ければよろしいのですよ。納豆でしたら全部食べちゃわないで半分とっておき、夕食のみそ汁に入れるとか納豆和えを作るとか、ちよっとした工夫なんですよ。

それから、し好の問題ですから何とも言えませんけれど、わりと味が重なりがちな献立ですね。おしょう油味が重なったり、チャーハンとミートボールとサラダというように、油っこいのが重なったり。サラダにきゅうりで、また漬けものもきゅうり。(笑)

おそらくこれも、夜に何も彼も全部めし上ろうとなさるせいではないかしら。

——きゅうり三本一袋買ったとして、あすの夕食まで食べるチャンスがないからと、一ぺんに。(笑)

▼そんな感じですねえ。もう少し朝昼

とくに朝、めし上るといいのですが。サラダだって前の晩作っておいてもよろしいのですから。一ぺんには変れないでしょうけれど、とにかく朝、果物と夕食の野菜の残りをあがるとか、めんどろでないやり方で少しずつ改めていらっしやったらいかがでしょうか。

たとえば三十一日の夕食をみますと、中華炒めで肉と野菜があり、さらに鯛の粕漬がありサラダがありますね。このサラダを翌朝に回したほうがいいし、魚があればさらにとり肉は要らないから、これも翌日の朝、昼に回してみてもいいか？

ごはんのみそ汁、鯛の粕漬、何か酢の物一品、おひたし、漬物。こんなふうになされば、献立としてもすっきりします。

——この人の場合、手抜きのかたとして、朝、昼徹底して手を抜いて、夜だけでやろうという考えなんですね。

▼それはもう、むりですね。ふつうこういう食事のパターンですと、肥って

しまうものなんです。胃がお弱いか
ら消化できずお肥りになれないのでし
ょうね。

——フランスなどはやはり一食重点主
義で、朝、夜が軽く昼だけフルコース
だといいますが。

▼それはよろしいんですよ。昼なら動
いていますからね。これだと食べて寝
ちやうことになるでしょう？夜軽いの
はあまり問題がないのです。こういう
パターンの食生活してらっしゃる方は、
やせていても血液検査なんかしてみま
すと、成人病の初期の段階みたいなの
のが、出てくる場合が多いですね。

この奥さまは低血圧だということだ
すが、運動不足があるんじゃないです
か。

——運動はしない人です。車に乗って
歩いているし。

▼低血圧で起きられないといって起き
ず、動く胸がドキドキするなんてい
って、じっとするとますます悪くな
ります。低血圧は体質ですけど、少し

運動をなさって……。運動とまで行かな
くても、車に乗らずお歩きになるとい
う程度でもいいですから、動くように
して、食習慣をお変えになるとずっと
体調がよくなると思いますよ。

愚問・珍問ふたたび

——ところで、このTさんが先生にう
かがってほしいという質問があります。
しろうとの私にも珍問という感じなん
ですが、彼女は何かの新聞で読んだと
いうのです。

まず、このごろの牛乳は高温殺菌を
しているから、カルシウムが失われてい
るそうだ。というんですが？

▼熱でカルシウムが？ それはないで
すね。焼いても骨は残るでしょ？まし
て牛乳の場合、殺菌は百三十度くらい
のものですから、こわれませんね。カ

ルシウムというのは安定したものです。
——次に、卵のコレストロールは、固
ゆでの場合多く、半熟なら少なくなって
安全だといいますが？

▼そんなこと、ないですねえ。半熟に
すれば消化がいいというだけです。コ
レストロールは調理法によっては変り
ませんよ。

——このごろのしいたけは、人工的に
火で乾かしているんで、天日乾燥とち
がいがビタミンDがない。だからもう一
度日に干してから食べたほうがいい、
というんですが？

▼ビタミンDは、太陽にあたれば人間
の中でもできます。

——しいたけ食べなきゃ、というもの
ではない？(笑)

▼しいたけもたしかに天日にあてなけ
ればDはできませんけど、でも人間は
たいいてい日にあたっていますからね。
しいたけを天日に干すほどのこともな
いでしょう。(笑)

■ 1日20点(1,600¹⁰⁰₂₇)の食品のとり方

食品群	群別食品	点数	とり方の一例	点数
第1群 ♠	乳・乳製品	2	牛乳 ¹⁰⁰ (140g)	1
			チーズ1切れ(23g)	1
	卵	1	鶏卵1個(50g)	1
第2群 ♥	魚介・肉類	2	カツオ(65g)	1
			牛もも肉(55g)	1
	豆・豆制品	1	豆腐 ¹⁰⁰ 1塊(120g)	1
第3群 ♣	野菜	1	緑黄色野菜(約100g)	1
			淡色野菜(約200g)	
	芋	1	じゃが芋小1個(100g)	1
	くだもの	1	くだもの(約200g)	1
第4群 ◆	穀物	8	ご飯茶わん軽く3杯(330g)	6
			食パン小2枚(60g)	2
	砂糖	1	砂糖大さじ2杯(21g)	1
	油脂	2	植物油やバター(約20g)	2

必ずとりたい9点

増減可能な11点

重量は正味

というわけで、その雑誌がインテキだったのか、Tさんの読み方がまちがっていたのかわかりませんが、うっかり「半熟だから安全だ」なんて、卵を三つも四つも食べ続けたらどうでしょう。

う。栄養情報にも注意が必要なようです。健康問題は人びとの切実な関心の的であるだけに、弱味につけてむわいのわからない、健康食品も出回る世の中ですから。

(和田 好子)

健康
ことわざ事典
志賀 貢著 新書判 定価680円

病気になる
ことわざ事典
志賀 貢著 新書判 定価680円

食品80キロカロリー
成分表
香川 綾編 A5判 定価500円

食品80キロカロリー
ガイドブック
香川 綾編 A5判 定価850円

毎日の食事の
カロリー・糖分・塩分
ガイドブック
家庭料理
市販食品 外食編
香川 芳子 監修 A5判 定価880円

◎栄大のベストセラー

〒170 東京都豊島区駒込3-24-3 女子栄養大学出版部 ☎03(918)5411 振替・東京6-8467

サークル だより



●横浜サークル だより

四月十七日、横浜市婦人会館にて一七五号合評会が行われる。当日の出席者は大人七名、子供五名である。

まず全員に好評だったのは「にわとりを食べた」。Aさんからは「たまごの会」よ入り手した一匹の豚(骨ぬきの状態)を解体した時の話を聞く。その時子供達は、事実をありのままに受け止め、冷静であったこと、むしろAさんの方が食べる事には感情的に抵抗があったことなど。「これ、その時の豚の皮で作ったの」と言っておAさんが取り出した薄茶のサイフは、とても素敵で輝いて見えた。

学校教育については、子供達が勉強、持物、服装、家庭への生活指導など、すべてに管理され、画一化されている状況が次々と話された。

学力もなし、体力もない子はいじめられ、落ちこぼれるしかないのか、精神的に子供を強くするしか道はないのでは、などなど。話題は尽きず、改めて「教育って何だろう」と考える時、疑問と不安とで胸は塞がれる思いだ。

「あと始末人間の申す」では、「今回の出席者の視点はしっかりしている」「生活に密着した仕事をこれからも取り上げて欲しい」「ゴミ収集の仕事へのべっ視感に共感」さらに「同じ北条氏が、女子高でお化粧とゴミの出し方講習会を行って……嫁入り道具にポリ容器を……と述べている点は問題」と指摘があり、改めて性差別の根は深いと感じる。

四月からボーポアル「第二の性」を読破する予定です。例会の時は、自己活動報告や講演会、映画等の情報交換、本の貸借も頻繁です。

四月に三人目を出産予定のBさん、三月まで子連れで出席し、「半年たったら、また来ます」の言葉を残して産休に入られました。この心意気是非学びたいものです。子連れでしんどい思いをしながらも、自分らしく生きる為に頑張っている仲間が沢山います。あなたも参加してみませんか。横浜市金沢区六浦町一三五二ノ六

里 憲子

●東急沿線サークル

発足して早や一年、月一回の例会、サークルだより発行、ノートの回覧など活動は何とか続いています。先日は、会員宅を拝借して不用品交換会を開きました。出品者は七名、品物は百余点あり、売り上げ額は一万八千円也。こんな「世帯じみた」ことをして、と思われる方もあるかも知れませんが、何事も経験第一。家の中もかたづけ、サークルの資金も少々うるおって？反省すべき点も多々ありましたが、まずまずの出来でした。

サークル活動も、ようやく軌道に乗ったように感ぜられますが、残念なことに、出席者の顔ぶれが決まっています。それぞれ事情もありましょうが、一人でも多くの参加をお願いします。

品川区上大崎一ノ二二ノ八ノ三〇二

藤井 雅子

●柏サークル 家庭料理教室

三月二十五日、柏サークルでは、新松戸ダイエー内「サロン・ド・クック」で料理教室を兼ねた例会を持った。なぜ「料理教室」なのかという理由は①参加費一人五百円以上支払えば会場（料理教室）が利用できる②参加費の半額は講師謝礼としてバックされるので二百五十円で、会場が使える、すべての調味料が無料で使用できる③お弁当を作る手間が省け、初対面の人とも和気あいあいと話ができる④参加者が十名を超えるとダイエー側から三千円程度のボーナスが出る——という点です。

教室を開くには「サロン・ド・クック」

の会員（入会金千円、年会費千二百円）になり、さらにアソシエイトのメンバーになり月一回の例会に出席し、栄養士又は調理士の資格を有していることが条件です。アソシエイトは自分でするだけでなく他から講師を招くこともできるので、「わいふ」の中で、腕に自信のある方は、大いにその「ノウ、ハウ」を公開して頂きたい。

今回、会員の負担を軽くするため、材料費は百五十円と、実費の半額以下にし、講師謝礼分を流用しましたが、次回から実費の七割くらい頂き、謝礼分を残したいと思っています。口コミで宣伝し、参加者を十名以上集めてダイエーからボーナスをもらえば四千円くらいの謝礼は出る予定なので、希望者は松下まで御連絡下さい。

松戸市新松戸三一二九六

サンライトパストラル壺番街C一一一

松下 桂子

●渋谷サークル 子連れの日

「わいふ」渋谷サークル例会が四月二日

松涛の田中耐子さんのお宅で開かれた。一例によって、耐子さんお手製タルトのごちそうを恐縮しながら、しかし三ツも食べ、会は始まったのだ。我がサークルは田中耐子、木村道子、恒川美代、高野貴子の四人の小さなサークルだが、子供はかなりの多く十名。

男五名女四名。春休み中の今回は九名の子連れ。さぞやにぎやかな会であろうと思っていたが、今回に限りいるかないか分らないほど静かな子供に変身してしまった。なぜか?! そのひみつは田中家の全十巻の「アラレちゃん」の漫画にある。

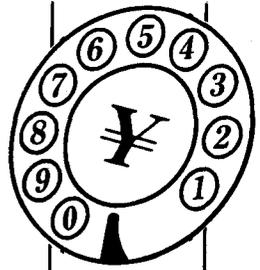
字の読める上六人はソファに座ったきり身動きもせず次から次へと読みふけり、その五時間をすごしたのだ。

だが下三人は例のごとく、お水遊びなんぞやってくれて洋服全とり替えのすさまじさ。

親の方はといえば「再就職、いかにするか」で話はずんだのだが……。

渋谷サークルに入会希望の方は

(七一) 四六七四 高野
(七一三) 八五四六 木村 まで



電話料は安すぎる？

北詰 由貴子

電電公社の意外な頼み

不意に電電公社から、電話について何か意見を述べて欲しい、と求められたら皆さま方は何を思いつかれますか？ 主人を通しての話ではあったが、「何でもいいから二十分ばかりしゃべるように」といわれても、急には何も思いつかない。台所の片隅の黒のダイヤル電話をじっと眺めてみても、二十数年間何の変りばえもなく、歓迎すべき人からの呼び出しも、そうではない人からのものも、まったく同じ音色で、リンリンと取り次ぐだけである。そうだが、これが嫌な電話だったら憂うつな

音、好きな人からだったら明るい音にはならないものでしょうか、とでもいおうかな、などと、すぐには実現不可能なことを考えているうちに、日が経った。

まず、私にそういう話が舞いこんだということから、ちょっと説明しなくてはならない。

昨年のちょうど今頃、私も家族は夫の帰任と共に日本に帰ってきた。帰ってみれば、テレビは相変らず、八時だよ、全員集合、をやっているし、コップの中でのさまざまな浮沈はあるとしても、国外の雲行きの険しさとは別に、この国はまるで共同浴場にどっぷりつかっているような生温かさだ。

で、それはそれで結構、住むには気楽なところとばかり、早速、元通りに暮らし始めたのだったが、アメリカから帰ったばかりというので、二、三の雑誌社から「アメリカと比べて、日本はどうですか」と、明治以来まったく同じ方式の質問を受けることとなった。で、そんなもののどれかが、電電公社のどなたかの目に留まったのだろう。

「アメリカの電話と比べて、日本の電話はどうですか」

という質問を受けることとなったのである。

「アメリカと比べて日本の夫婦の在り方はどうか」とか、「アメリカの主婦の節約ぶりに学ぶところはないか」とか、そんな質問の類なら、どんなに好

い加減の返事をしてても実害はない。しかし、電電公社のお偉い方から「電話を比較してどうか」とおっしゃられれば、これは緊張せざるを得ない。

いったいどういふことなのだろう。

倉本聰

会いたれど

あれこれ、くどくどと述べる前に、結論から先方の意図を明確にしておきたいと思う。

まず、打診的に電電公社からいただいた電話によると、

1. 現在、電電公社では従来の積み上げの電話体制を全面的に見直そうと、五回に亘る勉強会を持っていること。
2. そのために各方面から識者を選んできて（!!）いること。
3. で、その中には専門家ばかりでなく、一般の主婦という人種も必要であるから、私に声を掛けてみたということ。
4. それに、当日、私といっしょに

出席される相棒は倉本聰であるということであった。

であった。

へえ、うん、倉本聰にじきじきに会えるということであれば、他のことはどうでもよろしい。あとのことは全部あとで考えるところとして、何はともあれOKしてしまおう。

あれっ！あれ、あれ、先方の意図を明確にするといいながら、変なところへ落着いてしまった。いや、そうではない。意図の方はこれから明確になります。

先方にしたところで、私のような素人に出てこられて、何でもいいたって、何をしゃべられるか判らないから心配だったのだろう。手ほどきをして下さることになった。つまり紐付きスピーチである。

もう、「アメリカでは、こうだったわよ」と威張って通る時代ではない。まさか、器械を比較するわけではないだ

ろうし、システムといっても電電公社の方で調べ抜いていることであろうし、かなり前から問題になっている料金の明細書の発行についても、知らん顔をしているわけではないだろうと、雲を撫む思いで、所定の場所へ出向いて行く。

まず、「私のように電話というのは受話器を取ってかけるだけ、一か月に一度、請求書を見て、その高いのにびっくりするだけの人間に何がお話できましか判りませんが……」と切り出すと、先方が、「高いですか？ やっぱ高いでしょうか」と、首をかしげている。

「は、料金の支払いに、誰も安いなどとは思いませんわ」ということになって、何のことはない、比較するべき部分がたちどころに明確になった。料金なのである。

ワシントンに在る間、その近郊メリイランドとヴァージニアを含めて、一応市内通話の範囲に納まる区間は、十五

セントであった。円換算すれば三十円。だから、日本へ帰っての金銭感覚からすれば、十円の市内通話料金は、さぞかし安いと感じられたことでしょう、というのである。

そんなことは感じなかった。そんなことはぜーんぜん感じなかった。この冬は、公共料金の高さをひしひしと感じていて、ガス、水道、電気とガバッと取られたあとの給料をみて泣きそうになっていたので、もう支払いは済んだと思っているころ、電話代がくれば、ああ、電話代よ、お前もか、という気分になる。何ということだろう。市内通話は安過ぎるということをするために、私が引張り出されるわけだったのか。

それに、もう一人伏兵がある。倉本聰だ。彼は遠距離は高過ぎるということとをいうために引張り出されたので、これは良い役割りだ。彼は御存知のように北海道に住んでいる。北海道の富良野から東京へかける電話料金はさぞ

かし高いことであろう。わが家の電話料金とは桁違いであるだろう。彼は当然遠距離を安くするよう主張するであろうし、諸外国と比較しても日本の遠距離は高いのであって、電電公社が主張するのもそのことなので、だから電電公社が、遠距離、近距離の料金格差を縮めようとは正に努力を惜しまないのは大変に結構なことなので：

さあ、困った。僕はいったい、どうしたら……ではない。これだから思案のしどころというところである。

実際に諸外国との比較において、日本の近距離は安く、遠距離は高い。綿密な資料を買ったから、文句のいいようはない。

ただはたして比較というものが、こういう場合、どう有効に作用するものなのだろうか。

もう一つある。私は話しをするところは電電公社かと思っていたら、自民党本部の政調会ということであった。

いざ出陣、男ばかりの 中へ乗りこむ

前置きが半分長くなった。

当日は四月一日、エイプリルフルである。永田町というところは大体地下鉄を出るところからして、敷居の高低とこである。地の底からやっとなりに這い上がると、陽の光は暖かく、今年の冷たい春の中では初めての花見日和であった。

こういう日にこんな建物の中へ入ってゆくとは——しかし、いかめしいわりには、中の人間はそそくさとしていて、あたふたとしていて男ばかり。こんな課題さえ抱えていなければ面白そうなところだ。閑散としていた会議室の中へは、時間がくると人が集まってきた、お弁当が運びこまれ、一汁とお茶が配られて、入ってきた議員たちは、「いただきます」でも何でもなくて勝手にお昼をはくつきながら、他人の話の聞こえという算段。余計なことだ

が、このお弁当、自民党弁当と呼ばれていて、四角い折り箱の中央に小さな卵焼きがちゃんと坐り、周辺にぐるりと、わらび、蒟、荀の煮付け、でんぶに佃煮、紅しょうがなどが並んでいて、見るからに田舎風。

正面に座らされて、こんなものをさあ食べろといわれても、すんなりと食べられるものではない。横を見ると、倉本聰が、やっぱり男だ、悪びれもせず大きな弁当箱にかぶりついて、お茶をすすりながらきれいに平らげている。

倉本聰ってどんな人？とお訊きになりたい方もおありかも知れないから、また余計なことだけれど、彼の外見を述べておく。そもそも彼という餌に釣られてここへきてしまったのだ。その結果電話料金が改正され、市内通話が値上がりしたって私のせいじゃないんだから……

背はあんまり高くない。がっしりした体格はどこかの大工の徒弟（棟梁で

はない）のよう。まあいい顔。やんちゃ坊主のような童顔であるが、これは只事ではないぞと思わせられる油断のならない三重の大きな眼が据わっている。彼の友人たちは彼を面白い奴、だといふのだが、私はこの人は誰にも気を許すことのない人だな、と思った。

それはさておいて、電電公社が検討

している問題については、主観を交えては、あまり正確な意見を述べる必要があり、以下の通話料金体系の検討課題に於いて、懸念された資料の前半を掲載させていただきます。

通話料金体系については、全体としての料金水準に影響を及ぼさない範囲で、次の事項について検討を進める必要があると考えられる。

① 通話料の遠近格差の是正

通話料の遠近格差は、昨年八月に一对七二から一对六〇と縮小したところであるが、諸外国の例および最近における伝送技術の進歩等と勘案

した場合大きすぎるといふ問題があり、これについて遠距離料金を引下げ、これに見合う近距離料金の引上げを行なうことにより是正することを検討する。

② 区域内通話料と隣接区域内通話料等の格差の縮小

道路一つ隔てた場所相互間の通話でも単位料金区域が異なる場合には、区域内通話料との間に格差を生ずるといふ問題があり、これについてイギリスで採用されているグループ料金制を参考にしつつ、区域内通話料を引上げ、隣接区域内通話料等を引下げることにより、わが国に適した近距離通話制度を検討する。

なお、以上のような通話料金体系の是正については、財務の諸数字との整合性を考えながら小刻みに実施せざるをえない。

というのである。今まで触れなかった②の問題については、たとえば荻窪

に住んでいる人が三鷹の親類と話をした場合、距離的には近いのに、市外通話料金を払うということは不都合であろうというわけで、料金の範囲をグループごとに決めようという考えで、これなどはイギリスの真似とはいえず、悪いことではない。ただ、やはりこの場合も、「区域内通話料を引上げ隣接区域内通話料等を引下げることにより」となって、市内通話の引上げはつきまとうのである。

さて、これらをいったいどう切り崩すかだ。

つまり遠距離が下がることは結構なことと思うが、賛成賛成などといったるうちに市内通話が上がってしまつては元も子もないので、必死で十円通話防衛論をひねり出す。

電電公社に何かご要望を、とかご意見を、とかいわれて、随分開けているなと思つたが、何のことはない。何がご要望だ！

単純比較論にひそむ インテキ性

まず、十円通話が安いとは思わないかという比較論について――

これは、いくらアメリカ帰りだからといったって、絶対に安いとは思われない。どんなに比較表を見せられても、そうは思わない。まず生活感覚からいえば十五セントは十五円というような気分なので、まあ、日本よりいくらか高いかなあと、そっちの方を感じるくらいだ。事実買物をする場合、いちいち円換算などして買ってはいない。その国の中で給料を割り振りながら、その国の金銭感覚に従つて生活するので、それを旅行者が来てすぐ円換算なんかしては安いと騒ぐから、ワシントンの中だつて魚は値上がりする。日本食料品店は高いと定評がある。日本人といえは物価を釣り上げる人種と思われているくらい。で、一般的には一カ月市内通話だけなら二十ドル程度

で済んだ。

国際電話は市外通話といつしよに、明細書とともに請求されるので、もしも比較し参考にされようというのなら、こちの方を取り入れて貰いたいと思う。各家庭の市内通話だけの一カ月の平均料金と、諸外国の平均とを比較してみないと、一通話だけの料金で云々する軽はずみを逃れることはできない。ついでにいえば、それが、家計の中のどの程度の支出の割り合いかもみて欲しい。もっといえば、日本語というのとはかなりスローな言語であつて、英語と比較すれば一通話というものをもっと引き延ばす必要があるのではないかと思う。その人が意味を伝達するのに必要な所要時間を各言語によって比較した上で、通話料金を決めなければほんとうの比較とはいえない。と、そこまでいいかたつたけれど、実は全部はいえなかつた。とにかく十五セントで片付く用事が日本語で三十円かかるといふのなら、この一通話十円という料

にして、倉本氏の意見に移りたいと思
う。

女・子どもの電話は くだらない

彼は短刀直入、いかに日本が中央集
権国家であるか、北海道に移り住んで
ひしひしと感じている旨を述べ、これ
は彼のドラマでもしばしば登場する。台
風の予報を例に上げ、遠距離がいかに
疎外されているかを話した。それから
自分の電話代が、月に十万円を越すこ
と、一晩に七十枚の原稿をテレビ局に
送るためにファクシミリを使用すると
一体いくらになるか、莫大な費用にな
るがご想像に任せるといった。そんな
に東京と交信を必要とする人は北海道
にそう幾人もいないと思うが、こうい
う人が高い高いと騒いでいるうちに北
海道は恩恵を蒙るかも知れない。

つづけて彼は、近距離の、つまり会
おうと思えば会える人たちの長電話は
けしからんと決めつけ、特に主婦とか

子どもたちのくだらない話にはペナル
ティを付けるべきだと主張した。で一
案として、たとえば近距離の場合は、
一通話は現行の料金でよろしい、二通
話、三通話と長くなる毎に通話料金が
上がっていく仕組みにし、遠距離の場
合は逆に通話料金が下がっていく仕組
みにして、どこかで両方の均衡が取れ
るようにならしていったらどうかと提
案した。

繰り返すけれど、今日の彼の役割は
とても良い役割だ。電電公社の意図し
ていることを明確に簡潔に述べ、さら
に電電公社がいえないこともいった。
つまり、女、子供の長電話を上得意と
歓迎している公社からは、ペナルティ
を付けようなどはとてもいい出せな
くて、それをこうもはっきりと断言し
てくれるなんて、こんなにありがたい
話はない。

彼が話し終わると、会場は明らかに
賛意ととれるざわめきに満ち、ハイハ
イと沢山の手が上がって、沖縄県が立

ち上がり、まさに北海道と同じ状況だ
としゃべり始めた。

「いや、じつにユニークな発想です
な。今までこんな提案をした人はいな
かった。もう、まったく同感です。い
や、もうまったく」

すると、右手に一列、電電公社関係
の人たちが座っていたが、重々しく倉
本氏に向かい、

「果たして、その電話がくだらない
か、くだらなくないかということ、
客観的には判断の下せないことであり
ます」

そんな当たり前のことを何で改めて
いうのかなと、顔を見ると、その面長
の顔は電電公社総裁と教えられた人の
ものであった。

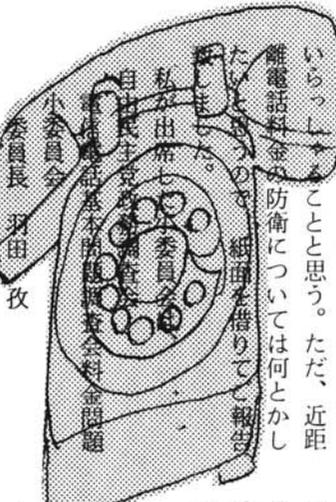
いや、もう、まったく……今まで何
を思案して、こんなところへ出て来た
のか判らなくなった。公共料金の高さ
を訴え、十円の通話料金が安くはない
だというために、あれこれと理屈をこ
ね、無い知恵をしばってきたのに――

どっちみち、私がこんなところへ座ったからといって真面目に受け取ってくれるはずなんかないのだ。倉本氏が過疎だ、過疎だ、と騒ぐんなら、女は都会のど真中にいたって過疎地帯にいるんだから、と急にひがみっぽく悲しくなつて、いっそ、男料金と女料金の格差を付けるべく提案すればよかったと思つた。が、気を取り直し、どうせ駄目でも最後に一言――

「電電公社は、いろいろなサービスをこなしていらつしゃいます。その中に、命の電話々というのがあって、ボランティアとしての実績を上げておられますが、そういう看板的な善行も結構だけれども、女、子どもの長電話といわれるものの中に、こういう要素は瀬戸際までいく以前の段階で、かなり分解され昇華され、解決されていっていいと思うので、今一度、そのあたりに留意していただきたいものです」とはいつたけれど、仕事の話でなければ重要ではないと思つている男性諸氏の間

でどのくらい納得して貰えたかどうか

さて、以上はまったく私個人の意見であつて、主婦の立場を代表しているというわけでもない。地方に実家のおありの方、仕事を持っていらつしゃる方、私とは異なる意見をお持ちの方もいらつしゃることと思う。ただ、近距離電話料金の防衛については何とかしたいと思つたので、紙面を借りてご報告しました。



自由民主党
議員 小委員会
委員長 羽田 孜

御意見をお持ちの方は、お便りなさつて下さいませんか。住所は御存知永田町一丁目一番地。お断りしておきますが、委員長は倉本氏ほど女、子どもに対する偏見に満ちてはいらつしゃらないとお見かけ致しました。何といつても、男が生産し、女が買

つている世の中。女に買う力がなくなつたら、男はおしまいなのです。

外へ出ると、やつとなつかしい空気に触れた思いで、急いで地下鉄の方へ向かおうとすると、引き留められ、黒い車に乗せられた。いかめしい男性方の見送りに、何やらこつけない思ひさへ感じて、地下鉄なら百二十円、二十分で着く池袋へ、わざわざ高速にのり、四十分くらいかかって着いたのだが、お堀端の桜は白く咲き、北の丸公園には人々が群れ、私はとにかく、これと終わった、とエイプリルフルにふさわしい、不思議な一日を黒い車とともに後にしたのであつた。

★情報コーナー

「早池峰の賦」を 見ませんか

「わいふ」の会員の羽田澄子さんが、岩手県早池峰山のふもとに、千年の昔から伝承されている山伏神楽の記録映画を作りました。人口八千五百の過疎の村が、製作費三千万円を三年かかって集めたという自主製作です。

この土地の神楽は、観光化した見世物でなく、いまだに

信仰の対象として、人々の心の中に、暮しの中に息づいているのです。

そのすばらしさに魅せられた羽田さんの作った「早池峰の賦」、三時間があつという間に経ってしまうほど、臨場感に溢れた迫力。都市生活のちりにまみれた心を洗ってくれる手作り映画です。

上映はこれもわいふ会員の高野悦子さんが主宰する岩波ホール。女たちが力を出しあつて世に出した映画といえるでしょう。五月二十九日から六月二十五日までの特別賞券(一、二〇〇円)が編集部にありますのでぜひお申込みください。送料こちらもちでお送り致します。

サークルを 作りましょう!

国立市から小金井市に引越

してきました。小金井市にはわいふの会員の方が多いご様子、ぜひサークルをつくりませんか。ご連絡をお待ちしています。

①184 小金井市 緑町

五ノ三ノ二六

電話 ○四二三一八四

九五九六

藤野 淑子

どなたか アドバイスを

去年、私も三十歳になり、何をするにも体が丈夫でなくてはと早朝ランニングを始めています。この三月には十キロコースに挑戦して成功、今までにない満足感にひたりました。

子供は三人ですが子供も一人の人間、私も一人の人間、親子とも自立するには親自身

自立しておかなくては。今は精神的な自立、ようやくわかってきたような気がする。

そして経済的な自立、そのためにはやはり何か資格をとっておくほうが有利になってきます。そのためにも、前から保母の資格をと思っていました。何年かかるか分らないけれど、どなたか保母の資格をとられた方、ぜひアドバイスをお願い致します。

TEL○四八九一九五

八二〇九

埼玉県八潮市伊草三七七

伊草団地一五一〇五

石原信子 30歳

声なき叫び 上映会のお知らせ

カナダの女性監督アンヌ・Cボワリエが強 を告発した映画「声なき叫び」は七月九

・十・十一日に日仏会館ホールで封切上映します。二児の母である監督が、この上映会の為に来日し、挨拶、講演を予定しています。

●七月九日(金) 六時開場
六時二十分開演

●七月十日(土) 十時半・一時四十分・四時半・六時五十分上映・三時三十分話・落合恵子

●七月十一日(日)(「ウーマンズデー」午後一時以後の入場は女性に限ります。十時半・一時十五・五時五十分上映。三時五十分話・監督。三時四十分スライド「ボルノグラフィ」は女への暴力だ」上映。四時四十分話・小西

●会場 日仏会館ホール(国電お茶の水下車。丸(二九一)一一四三

●料金 当日一、四〇〇円
前売一、〇〇〇円

●問い合せ先 「声なき叫び」上映グループ 丸〇三三七〇一六〇〇七(前売券は新宿MY・CIITYで発売中)
月一水の七時―九時土の二時―六時にはあります。五月二十九(土)は六時以後(中野)

東電婦人セミナーの 小冊子を プレゼントします

昭和五十六年度の東電婦人セミナーの中、四講話をえらんで編集した小冊子を差上げます。文庫本版一三四頁、内容は

●主婦業に未来はあるか

〔わいふ〕 田中喜美子

●子供たちにいま何を

早乙女勝元

●人の心を結ぶ言葉

青木 一雄

●聞き上手に話し上手

●聞き上手に話し上手

原 加賀子
前半の二人と後半の二人の話は内容も傾向も対照的に違うので、比較して読んでみるとたいへん面白いです。
郵送手数料三百円を切手で同封してお申込み下さい。
編集部

電話料金の 値上げ問題に 取組みませんか

今号掲載の北詰由貴子さんのレポート「電話料は安すぎる?」でもわかるように、電電公社はいま着々と電話料金値上げやむなしの世論づくりにはげんでいます。

電話料金は独占事業ですから消費者はいつも泣き寝入り、日本人はとくにこんな場合、まったく羊のように大人しい

のです。いつまでもこれでよいのでしょうか。

一通話十円は安い、安いというけれど、三分毎に十円追加などというガメツイシステムのはうは頼かぶり。

遠からず消費者を襲うにちがいない値上げ攻勢に備えて、電話料金が諸外国と比べて高いか安いか、くわしく検討するプロジェクトチームを作りませんか? 八わいふV経済問題チーム、とても銘打ちたいところです。

調査の結果はわいふ誌上に発表して、強力な問題提起にしたいと思えますので、奮ってご参加くださるよう、お待ちしております。

チームに参加ご希望の方、ぜひお電話下さい。(電話はこんな時のためにあるノダ)

編集部 田中喜美子



女性・その性の神話

青木やよ著

ウーマン・リブの歴史を語り、性差は本来にあるのか、と性差にからまる社会の複雑な網の目をときほぐし、外国の女性事情も併せて紹介しているこの本は、著者の最近十年間にわたる女性論の総括ともいえよう。

女の側の人口論や「甘えの構造」批判まで明快な切り口で展開する著者の論理の底には一貫して、自然を収奪してきた西欧型近代文明は、「産む性」として自然を内在した女性を抑圧してきた。感性や暮しにもづく女性文化を欠落させたところに、今日の人間疎外や環境破壊が出現したのだ。女性解放運動とは、やさしさや暮しの感覚を含めた感性の復権要求である、という主張が、太く強く流れている。

巻末に収録された藤竹曉氏との対談は、こうした女の側からの問題提起を、世の男性識者がどう受けとめ、切り返しているかを生の

声で伝えており、なかなか興味深い。

確かに、現在の男たちのようになることが私たちの目標ではないし、欧米文化一辺倒の態度は問い直されるべきだろうが、だからといって近代文明や西欧文化をすべて否定し去り、アジアの国や未開社会にのみ学ぶべき文化があるとするのはどんなものだろうか。私たちはいろんな国の人たちと教え合い、学び合って今後進むべきではないのだろうか。こんなことを考えさせられた一冊であった。オリジン出版センター千六百円（早川裕子）

ザ・ファーム

ベジタリアン・クックブック

鶴田静編著

今から十一年前、アメリカのテネシー州にザ・ファーム（農場）とよばれる共同体ができた。この本の第一部は、ザ・ファームを訪ねた著者の見聞記であり、第二部は、そこから出版された料理の本の翻訳である。

ザ・ファームの人々は肉も魚も、牛乳や卵のように動物からもたらされる食物をもとら

ない完全なベジタリアンである。主食は「いちのお豆さま」すなわち大豆と、その加工品やパン、野菜であるが、すべて食物は自分の畑で育て、加工し、自給自足の生活をしている。あらゆる品物を共有にし、愛と平和を願って、貧しくとも真実を語ろうとして生きている彼らの生活のあり方は、我々に一陣の清風にも似た感銘を与える。

著者も「わたしたちが共同体として彼らの生き方を即座に取り入れることは不可能だし、その通りに生きることが、個人の全的人生を通して幸福につながるかということは、すぐに答えを出せない」と述べているが、しかし、彼らの生き方は環境汚染や危険な食品の問題に悩まされている現在の我々にとって別の世界をみせてくれることは確かである。共同体の生い立ちと特性を知らせた上で、そこでの料理の数々のうち日本向きものが紹介されている。すべて著者自身も試作してみたという。身近にもある材料を使った料理法が、イラストをふんだんに折り込んで、わかりやすく具体的に書かれている。

野草社 千四百円（加藤歌子）

悪女とよばれた女たち

小池眞理子著

著者は「杓子定規な世間のきまりごとからどう頑張ってもこぼれおち、同時に汚名としての悪女の刻印を押された女たちの中に、私自身が見えた気がしたこともあった。「悪」とは、そうしたもののだどつくづく思う。あなたはこの女たちの中にあなた自身を見るだろうか」と冒頭で語っている。

最近、従順でひかえめで、健康で働きものの物質的には満ち足りた平和な生活をしている主婦の中に、アルコール中毒が増え、夫や子供を捨てて他の男と逃げる妻が多くなった。無責任といってしまうばそれまでだが、彼女たちは自分が、社会あるいは誰かに必要とされ求められているという自覚がなくてさびしくて生きていけないのではないかと思う。自分の気持ちの動きを静かに見つめさえすればコントロールできるのにパニックが起きてしまう。この本の中の女たちも、人をひたむきに

愛したい、理想と信念に燃えて社会に身を投じてみたいという当り前の女たちである。しかしその望みが余りに烈しいがゆえに罪を犯してしまつたといえる。妥協と偽装で生きるには息苦しかったのか、どうしようもない女の性^{せい}なのか、もがき苦しんだ女たち。

ともすれば空しく生きていながらも自分を正当化するために「悪」を憎みがちな私たちが、しかしぞつとするような行為の中にはいつもそれを避けられなかった理由や弱点があるはずなのだ。それは私たちの奥にもひそんではいないだろうか。

主婦と生活社 八百八十円(日下恵子)

母子関係の心理学

依田明著

はじめて自分の赤ん坊を抱くとき、何も考えずに左の胸に抱いたものだった。それは、赤ん坊が心臓のこ動を求め、母親が本能的にそれを与えるのだそう。アメリカの医師ソークは、新生児室にこ動の音を流しておくだけで体重の増加が著しくなることを発見した。この本は母子関係をめぐるさまざまな研究を、平明な文章で理解させてくれる。子ザルに針金製と毛布製の「代理母親」を与えたハ

ーロウの実験はよく聞かされる話だが、毛布の「母親」にしがみつくと子ザルの姿の精密なイラストが実に面白い。

著者は、今の幼児の育ちかたを危惧している。言葉の貧しさ、手先の不器用さ、子ども集団の消滅、父親不在。デジタル時間の安易な普及が、子どもに時間の長さを感じとれなくしている指摘など、ギクッとさせられるところがある。

ただ、だから母親はどうしたらよいかという部分では首をかしげるところが散見される。たとえば「三才までは母の手元で」を強調し、ゼロ才児保育は子捨てのようなものだとしている。家庭にいる子より、三才未満で集団保育を経験した子のほうが、言葉が豊かで発育のパラメータがとれているという報告も出る現実をどう見るのだろうか。

テレビが子ども達の発達をうながすという視点も、テレビのスイッチを切るよう努力している母親からは疑問が出そう。

学問と日常生活との間は、もっと接近したほうがいい。男性学者の手による育児書に、現場の声を反映させたい、と感じた一冊であった。

大日本図書 六百八十円(鈴木由美子)

キッチンと鉄格子のはざままで

木下律子

部下の一言

——あの子のお母さんは気違いなんだそうよ。

——あそこの奥さん、頭がおかしいんですって。

夫の転勤に従って、九州へ東北へと動き回っていけば、周囲のこの偏見から逃れることができるだろう。家が火事で焼けた高校時代に始まり、赤ん坊の育児に



疲れたときも、夫の病気に思い悩んだときも、精神病院に入院させられてきた半生だった。この女性、大塚千代子さんは、自分の過去がきれいに洗い流されることを願っていた。

自分のような妻を持ったために、夫の昇進がまたげられるのではないだろうか。彼女のこの心配は無用だったらしく、夫は同期入社組のトップを切って出世していた。

キッチンと鉄格子のはざまで

昇進して新しい社宅へ引越し、迎えたお正月には、朝から続々と三十人余りの年始客がやってきた。千代子さんにとって晴れがましい日である。お屠蘇一杯で帰る客、長居を決めこむ客のひとりひとりに気を配ってもてなし、台所を戦場にして彼女は八面六臂の活躍をした。

やがて夜も更け、夫の部下二、三人が残るだけになって、彼女は心の中でホッとしていた。あの人達が帰ったら山ほどの片付けものにとりくめる。

若い人の無遠慮さか、朝から食べ放題飲み放題で居すわっていた一人が、突然夫に向かってこう言った。

「しかし次長、次長っていうのは実に愛妻家なんですね」

酔ってトロロンとしていた夫と、そばに控えていた千代子さんが、何のことかと目を上げると、彼は続けた。

「僕たちは、何でも知ってるんですよ」

彼の目は言っていた。この奥さん、気違いなんですよ。そんなことみんな知ってますよ。そういう世間体の悪い女房、僕なら当然お払い箱にしますね。次長は変ってますなあ。

あまりのことに千代子さんの身体はふるえた。引越せば何もかも消し去ってしまうかと思っていた自分は、何と甘かったことか。全国組織の大会社では、情報は

千里を駆ける。会社中が、大塚夫人は気違いだと見ていて、その目から逃れることはできないのであった。

若い部下は、上司に対して失礼なことを言ったと気付かない。自分なら捨てる品を捨てないから立派だと上司をはめたつもりなのだ。その「品」がどう思うかという発想を持ち合わせてはいなかった。

彼らを送り出したあと、夫は、肩を落としている千代子さんにこう言った。

「酔うと人間の本当の姿が出るものだな。あいつがああいう男だとわかってよかった。もう気にしないことだよ」

夫のこの姿勢で、いつも彼女は救われてきたのだ。もしもこんなとき、お前のせいで俺が会社でいやな思いをしているのだと責めるような男性だったら、彼女の人生は悲惨なものになっていたはずだ。

精神科の門をくぐった既婚女性の多くは、一方的に離婚届を出されて子供から引き離され、親兄弟からは厄病神のようにののしられる。そして症状がどうであろうと、病院の格子の中に放置されてしまうのだ。例外的と言っているほど、彼女は夫にめぐまれている。だが、気にするなとなくさめてもらっても、このできごとには彼女の心に深い傷を残した。年月を経ても、話すたびに涙がこみあげそうになってくる。

「一日中、私の手料理をさんさん食べておいて、あんなこと言うんだから」とくり返して、憤慨せずにいられない。

私の料理を食べておきながら——反芻するこの言葉は、彼女の屈辱の核心である。あの男性は、彼女が加減よくお爛した酒を飲み、彼女の手が整えた料理を食べて、終日自分の胃袋を楽しませておきながら、彼女を捨てるべき品として扱ったのだ。

男性は、女性の働きによって自分の生理を支えられていても、支えている女性の人格を視野に入れずに生きることが出来る。彼女が感じた屈辱は、妻であれ娼婦であれ、女と生まれたものすべてが受けているそれと、共通するものだったのだろう。

よみがえる記憶

その後しばらくは平穩な日々が流れた。そのまま、料理上手でにこやかな奥さんとして落着いていれば、偏見の目も少しづつ薄らいでいったことだろう。

ところが、とんでもない方向から、彼女の心を揺るがすものが襲ってきた。

遠く離れた町で、大火事があったのだ。新聞もテレビも、連日トップでこのニュースを流した。千戸以上

が焼け、四千人近くが焼け出されたという。

少女期に自分の家が全焼し、着のみ着のままで親類の家に預けられたときの思いが、なまなましくよみがえる。あのとときの自分のように、子供たちが泣きじゃくっているのではないだろうか。親しんだ住まいと大切な品々を失くした人々は、どんなに悲しんでいることか。何百キロも隔てた土地の被災者の苦渋を、彼女は自分の苦しみとして背負いこんだ。

不眠状態が続き、切端つまった気持になったある日、彼女は行動を始めた。お金を集めて、あの人達に送ろう。焼け出された人がもとの暮しに戻るように、自分は助けになることをしなければ。

決然と町に出て、一軒一軒ベルを押し歩いて歩く。

「大火事にあつた人々に、お金を送りたいのです。ご協力をお願いします」

しかし何十軒回っても、募金してくれる家はない。ものにつかれたような顔をして、手ぶらでとびこんできた中年女性に、世間の人々は百円玉一個すら渡そうとしなかった。

募金活動で信用を得ようとするなら、著名な個人や団体名を並べた趣意書をつくり、集めたお金の送り先を明記するくらいの準備がある。心につきああげる思いのまま、何の用意もなく始めた活動は、受け入れられ

キッチンと鉄格子のはざまで

そうもない。

激情にかられて町なかを走りまわっているとき、中年の男性が「人間は自分のことだけ考えてりゃいいんだ」と彼女を嘲笑した。怒った彼女は、この男と激しい口論をした。馬鹿な女に何がわかるという口調に對抗しようとして、大変な失策をした。私は精神病院に入っていたこともあるのだ、と口走ってしまったのだ。そうしたら気違い女が騒いでいると一一〇番されて、あれよあれよという間にパトカーに乗せられて警察に保護され、また入院させられることになっていった。

あれほど消そうとしていた過去を、どうして自分の口から語ってしまったのだろうか。例の不眠によって、心身ともに極限的な状態に彼女はいた。「心配で夜も眠れない」などと表現する人は、実際にはある程度睡眠をとっているものだが、彼女は本当に眠っていない。若いころからそうだったように、心の動揺があるから眠れず、眠れないから自分で制御できぬほど感情がたかぶってくるこの循環は、彼女を日常的な心くぼりから遠い世界へ運んでしまう。

こみあげる思いで火の柱のようになっているときに、その思いを頭からバカにされて、自分は何かひとかどのものだと主張したくなった。地位を持たぬ人間は、しばしば極限的な体験を自己の存在証明にしようとす

る。下積みのまま年老いていく男性が、戦場で死体の山を踏みこえてきたと語りたがるように、彼女も衝動的に体験を振りかざした。そうして相手に威圧感を与えようとしたのだが、何という大きな錯覚だったことだろう。

しまったと思ったときは、もう取り返しのつかないことになっていった。

忍耐強い夫が、ぼつりと言った。

「その募金、社宅の中でしてくれなくて助かったよ」被災者を助けたい情熱が吹き荒れていたときも、社宅の中でだけは、募金を求めようとしなかった。無意識のうち、ここだけはタブーだという抑制が働いていたらしい。

夫は、これまでもそうしてきたように、千代子さんに言い聞かせる。

「お前がそんなことしなくてもいいんだよ。ちゃんとお役所というものがあって、災害を受けた人達を助けてくれるしくみになっているんだから」

原点のゆくえ

千代子さんがした募金活動の話聞いて、私は考えこんでしまった。これがどうして「病氣」として扱わ

れてしまったのだろう。

たしかに彼女は未熟であった。社会人としての習練がないままに短絡的な行動に走ってしまった。だが短絡的な社会行動といえは、大学生あたりには日常茶飯事ではなかったか。

何かに抗議して派手なタテ看板を立て、その前でハンストを始めておいて、お腹が空いてきたのですぐやめた連中がいた。美術学生が、既成観念をぶちこわすと称して、繁華街の交差点を腹ばいして渡ったこともあった。彼らは、千代子さんよりはるかに奇矯な行動をしても、試行錯誤こそ若者の特権だという扱いを受け、決して病院送りにはならなかった。

四十歳近くになった主婦が、それをしてはいけないのだろうか。家庭のただけで歳月を過ごしてきた女性は、社会の入口あたりにいる点では、二十歳の学生と同じだ。

しかし彼女には、大企業中堅幹部の妻という立場がある。一個人としての彼女の成長のすじみちよりも、大塚次長の奥さんとしての役割に照らして、異常だと判断されたのだった。

そしてまた、少女期に受けた傷が、この行動の原因になっていることを思った。

ケストナーの『飛ぶ教室』の中に、少年たちが住む

寮の舎監ベク先生が、自分の少年期を語る場面がある。

少年時代の彼は、母親がひどい病気になったのに、寮の上級生や舎監がきびしくて、見舞に出かけることができなかった。脱走して母のもとへかけつけた彼は、「心から信頼できる先生がいなかったばかりに苦しんだので、大きくなったら同じ学校で舎監になろうと決心した。少年たちが心のなやみとすることをなんでもいえるような人になってやるために。」

子供のときの苦しみは、しばしばその後の自己形成のよりどころになる。同じ苦しみを味わう人々のために、何かできる人間になろうという火種を心の奥に持ち続ける。

もしも千代子さんが職業人としての人生を歩んでいたら、たとえば、ゆれ動く子供の心を受止めることのできる教師になっていたかも知れない。地域に根をおろしてボランティア活動を続けていたら、苦しんでいる人の身になって奉仕できただろう。

彼女の人生はそのどれでもなかった。職場にも地域にも根のない、転勤族サラリーマンの妻である。社会人としてのいとなみのなかに徐々に燃焼されていくべき原点は、はけ口を持たぬまま原始的な形で、彼女のうちに保存されていた。

心身が追いつめられ常識のたががゆるんだとき、そ

ロールするすべを身につけた。心の動揺と不眠との悪循環を起こさぬよう、少量のアルコールを上手にたしなむのである。首をもたげてきた不眠症を追い払い、眠りさえ確保すれば、感情の洪水におぼれて奇行に走ることもない。これだけのことで、精神科と縁が切れ、この数年間はおだやかに暮している。

身辺が落着いてきたこともよかつたのだろう。夫は本社の重いポストにつき、もう地方転勤になることはなさそうだ。郊外の高級住宅街に庭つきの家を構えて、社宅住まいの息苦しさは過去のものとなった。

今彼女は、夫と肩を並べて避暑地の林のなかを散策し、妹と海外旅行に出かけていく。南の島のあざやかな緑の植物の前で、涼しげな水玉模様のドレスを着てはほえむ彼女の写真から、精神病院で家畜のように扱われた過去を想像するのはむずかしい。

彼女の長い苦しみをやわらげたものがもうひとつある。「ルポ精神病棟」(大熊一夫著朝日新聞社刊)という本を見つけたことだ。アルコール中毒をよそおって精神病院に潜入した新聞記者が、病院内での患者の非人間的な扱いかたを、あますところなく描いた本である。千代子さんがいくつもの精神病院で受けてきた苦しみが、そのまま活字になっているように思えた。

暗く不潔な保護室のこと。薬漬けで副作用に苦しめ

られること。看護者による暴力のこと。一人ひとりの症状に応じた治療などほとんどなく、病院の収益のために長期間入院させられること。

精神科の受付の前に立ったとたん、その人間の人生は滅ぼされるといってもいい実態が、有名な新聞社の手で公開されたことは、大きな救いであった。

千代子さんの家族も、精神科医との長いつきあいによって、疑問を感じていたところだった。彼女の妹は、薬の副作用でもだえ苦しんでいる姉を退院させようと医師に交渉したとき、さんざん反対された。むりやり許可をもらって退院手続をとり、これからもよろしくと頭を下げたら、「医者というのを聞かないような人のことなど知りませんよ」と捨てぜりふを投げつけられた。退院した姉が、薬を飲まなくなったせいでたちまち元気になったのを見て、何のための病院なのかと思つたものだ。全国的に有名な医師一家が経営する病院でさえこういうありさまである。

また、千代子さんの兄は、はるばる面会に行つたときに「重症の精神分裂であればまわって手がつけれません」と医師に追い返されたことがある。患者に水分を与えないひどい病院のことだ。素人向きの解説書でもかじってみれば、彼女の症状が分裂症でないことくらいわかる。

キッチンと鉄格子のはさまで

そこへこの本を読んで、千代子さんはむしろ精神医療の被害者だったという認識が、家族のなかに生まれできた。

大きくなった娘が言う。

「お母さんのせいで、私たちが苦労させられたと思っただけ、お母さんも病院でひどい目に会ったのね」

この言葉を聞いただけで、著者に感謝しなくなる。そして千代子さんの母親は、彼女に謝罪した。十代のころ最初に出会った精神科医の言葉を信じて、異常な人間は一般社会から隔離せねばと、ことあるごとに入院させてきたことが、娘の人生をつらいものにしてしまったのだとわかったのだ。幾つになっても手を焼かせる娘ではあったが、もっと根気よくつきあうべきだったと母親は後悔している。

もう忘れなさいと言われても

精神病院を退院した女性が交流しあう会があって、病院のなかで生まれた友情が続いている。時々集まっては、社会から偏見を受けるもの同士、情報を交換し、はげまし合うのである。

保護室という独房の格子窓から叫んでいる姿も見ら

れている仲だから、気取りもなく自分を語ることができる。街で男性と口論してパトカーがやってきたてんまつを語るとみんな大笑いし、「まるでフーテンの寅さんみたいな騒ぎだったのよ」と彼女は屈託なく言っているのだ。

早く退院しようと策を練った思い出話や、ひどい医師と看護婦の榷卸しもする。入院生活は、親にも夫にも頼らず、自分の才覚でいくつもの苦難を切り抜けていかねばならない日々であった。そこで助け合った人々とは、強い連帯感で結ばれている。

過去を一緒にふりかえって、独断的な思いこみを訂正してくれる友人がいるからか、千代子さんは過不足のない話し方をする。「何もしないのにひどい目にあった」と言いつのるのではなく、自分の「奇行」はそのまま卒直に話す。病院の中に、良い医師や看護婦が少数いたことも認めたくなくて、営利目的の飼殺しが精神医療の基調であることを、説得力のある口調で語る。一人きりでないことが、彼女の精神の支えになっているのだらう。

友人の大切さといえは、こんなことがあった。ある日炊事中に、患者仲間の親友から電話がかかってきた。家事を中断するのが苦痛な性分だから、適当に相手をしてそそくさと受話器を置く。そうしたら中学生の息

子が出てきて、たしなめるように言った。

「お母さん、もっとていねいにしなきゃダメだよ。うちに出入りしてお母さんをチャホヤしてる人たちは、昔のことを知ったらそっぽを向いてしまう連中だよ。あの人は何があっても友達でいてくれる人じゃないか」

息子は偏見にさらされて育っただけに、年の割に人間の裏と表がわかる子に成長している。学校の成績がどうあろうと、こんなに思いやりのある子に育てば充分だと彼女は思った。

患者仲間と語り合っていると、まだ病院の中にいる人々のことが気にかかり、何とかしなければと思う。

『ルポ精神病棟』の著者に電話をかけて、自分の経験を話した。それから手記を書いて婦人雑誌に送ってみた。ポツにされてしまったけれど、編集部員の一人が親切な手紙をくれたので、むだではなかったと思った。

しかし夫は、彼女のこんな動きにいい顔をしない。

「もう済んだことじゃないか。忘れて楽しく暮そうよ」

世慣れていない妻が、医療告発などを始めたら、適齢期になった娘の縁談にも差しつかえる。大企業の〇しになった娘は、やがて世間体を気にするエリートサラリーマンと結婚することだろう。娘もそれを予期して、母親に、もう何もしないでと言う。

精神医療の被害者のことなど忘れてしまえば、彼女は良い主婦になれる。

「もう忘れるつもりです。主人も子供たちも、私のことをわかってくれたから、もういいんです」

だけど、そうするのはむずかしい。

オリの中のクマのように扱われた病院は、今も健在で繁昌しているという。十何年も前に出会った人々は、今もそこで苦しんでいるかも知れない。もう忘れずと言って五分もたないうちに、彼女はこう言った。

「木下さん、ものを書く人だったら、精神病院のことを書いてくださいよ」

幸福な主婦としてのコースを歩みながら、その役割と摩擦を起こせばかりいた女性。不思議なのは、彼女が人生のなかでつかんだ真実なもの——わが子への虚栄のない愛情、かけがえのない友人、社会とかかわりを持つとうとする視野の広がり——これらのすべてが精神病院で苦しんだ体験からもたらされたように見えることだ。

鉄格子のついた部屋であっても、固有名詞を書いた名札をかかえて、自分の力で生きていたからである。か。当初の予定通り、ふつうの奥さんとして暮らしていたら、今より深い幸福を得ていたかどうか、それはわからない。(完)

交通安全教育の
問題点

また春の交通安全週間がやってきました。ピッカピカの一年生に婦人警官が安全指導をしている光景をよく見かけます。最近増えているのが幼児の自転車事故。柏市に住むわいふ読者のSさんの子供が通う幼稚園では、定期的に横断歩道の渡り方などの指導をしています。が、「自転車の乗

り方についても指導してほしい」と母の会で要望を出したところ、園長いわく「実は就学前の子供がひとりでも自転車で乗るのは法律違反。従って幼稚園で自転車の正しい乗り方を教えるのは、中学高校で正しいタバコの吸い方を教えるのと同様できません」役員一同「ウッソー、ホント？」と言ったとか。

「わいふ」一六二号でも、自転車の前後に子供を乗せて走るのは違反であるということが取り上げられていましたが、交通法規というのとは全く現状とかみ合っていないことが多いようです。ある損保会社の調査によれば、五歳から十五歳の子供三千人のうち、

三分の二が就学前に補助輪なしの自転車に乗れるようになっており、幼稚園に入る前から乗っていた子も二割以上とか。(日本経済新聞昭和五十六年六月一日)

車社会の先達であるヨーロッパでは、自分の身を守るのには自分しかないという認識のもとに、幼児時代から厳しい交通安全教育がほどこされているようですが、日本の安全指導はまだまだ過保護で、子供の周囲の状況判断能力が劣り、その結果交通事故のうち子供の事故がしめる割合も、西欧に比べて高いそうです。(毎日新聞昭和五十六年四月十九日)

ため、子供の交通安全教育を考え直そうという動きが最近出てきています。地域の母親サークルなどでこの問題にとりくんでみたい方、次のような資料があります。

◎ソノシート付き交通安全教本「いのちをまもる」(申込先は九段自転車会館内の(財)全日本交通安全協会 (二六四)二六四一)

◎幼児交通安全調査(母親、幼稚園、有識者、教育、心理学者、交通工学者、マスコミなど)の三者を対象とした意識調査)トヨタ自販(八一七)五二九二広報部

◎十六ミリ映画「ヨーロッパの交通安全教育」同じくトヨタ自販製作。フィルム貸

出し有り（企画課に問合せ）

家と

幸福感



住宅不況が言われていますが今年になってから、プレハブメーカーの販売契約数やマンションの月間販売率に伸びがみられ、明るいきざしが見えているそうです（毎日三月七日）。また、国民生活センターによる第十二回国民生活動向調査によれば、生活全般に対する主婦の満足度は前回に比べやや高くなっているが、その主な原因は、住生活に対する滞り度の増加を反映しているとのこと。（毎日新聞三月五日）

ところで三月二五日の主要紙に掲載された木下工務店の広告を見て神経を逆なでされ

たアパート・マンション族も多かったのではないでしょう。近頃流行の記事広告で、評論家高原須美子さんと木下工務店社長との家をテーマにした対談なのですが、「子育てはやはり一戸建て——庭のある家に住んでこそ、家庭と大見出し。一戸建住宅の子供と高層住宅の子供を比較した日本女子大の調査などをひき合いに出し、社会性や自立心のある子供を育てるのは一戸建てでなけりや、父親よ子供のために通勤時間を片道三十分ずつ我慢せよ、などとぶち上げられては、「出来るものならとっくにしてるわよ」と反発の方が大きいのではないかと気になりました。

それはともかく確実に言えることは、骨身をけずって貯めた頭金と一生ローンの金縛りとを代償に得たウサギ小屋住

民の「このささやかな我が家の幸福、どんなことがあつたって傷ひとつつけさせないからね!!」というキツ!!とした生活タイドにはまことに鬼気せまるものがあるということです。

千葉県でも我孫子市に建設予定の救急精神病院について、まだ候補地も決まっていないうちから新興住宅地の自治会で反対運動が始まっているそうです（毎日三月七日）。住民エゴには違いないのですが、行政側もできるだけ住宅地に先立って施設を作る、誠意をもって丁寧に説明にあたるなどして、このようなトラブルを防いでほしいものです。

ジョブ

シエアリング

主婦のパートタイムは日本

中に定着していますが、フルタイムの仕事を二人で分け合い、各自の労働時間に応じて報酬を分け合うというジョブ・シエアリングは耳新しいものです。主婦の社会参加に一日の長のあるアメリカやイギリスでも、主婦のパートは低賃金、不安定な雇用など日本と同じ問題を抱えているようです。ジョブ・シエアリングは、末端の単純労働ばかりでなく、専門職にもパートタイムの要素をとり入れて、技能を持ちながら育児などのためパートしかできない主婦に職への道を開き、また男性にもより多様性のある生活を可能にするシステムとして考え出され、一九七十年代中頃より欧米各地に広がったものです。



フリータイムコーナー

らうらんどてーぶる



随筆



双生児

大阪府豊中市 高宮 みか

私は双子をみると、可愛くて、いつも見ほれてしまう。

特に一卵性双生児らしい双子を連れなお母さんをみると、羨ましくてたまらない。

ちょこちょこついて歩いているのが、まだ二つ三つの可愛い盛りはいうまでもなく、五つ六つのわんぱく盛りでも、あまり会ったことはないけれど、高校生くらいだったりしたら、どんなにそのお母さんはほこらしく、得意だろう。

双子がなぜそんなに可愛くて好きかと云うとももちろんその似ているところである。不思議なことに、すごい美人の双子ちゃんとか、偉いハンサムな双子君たちには、あまりお目にかからない。

こんないい方をしたら誤解されそうなので言いなおします。すごい美人の双子ちゃんが同じ愛らしいお洋服を着て並んでいても、それはお人形のように可愛らしいなと思うだけで、忘れてしまいそうなのです。でも遊園地でドロンコ遊びをしている双子君たちは、みるとちょっと鼻が上向きだったり、目尻が下がりがりすぎでいたりして、それが二人いるのでついこちらもほほえんでしまう。

私には一年と一カ月しか年齢の違わない妹がいる。せっかくこんなに生れた年が近いのに、幼い頃の遊びは男の子みたいで、ちっとも私と一緒に遊んでくれなかった。

もし双子だったら、きっと一緒に着せ替えごっこもしてくれただろうと、まだわずかに恨みがましい気持が残っている。

中学に続いて高校、の六年間、一組の双子さんたちとずっと一緒だった。六年の間に、組替えが何度あったか忘れたが、私はいつも妹さんの方と一緒にだった。

そうすると、せっかく身近かに友だちとし

ていてくれる一卵性双生児なのに、私にとつては、はっきり識別可能な普通の同級生と同じに見えてしまい、うれしくなくなる。

先日、梅田を一人で歩いていて、ふと一軒の古本屋に入った。つき当りの番台に、明らかに双子とみえるおじさんが二人座って、ストーブに手をかざし、何やらしゃべっている。同じ上っぱりを着、同じようにおでこが広がっている。

もしかしたら未熟児で生れたのかもしれない。二人とも小柄で顔はそっくり。

うれしくなって、本を探すふりをしながら、二人をちらちらとみた。

とてもちらちらみるだけでは我まんできなくなつて、目だけ「ごめんなさい」と笑つてよくみくらべさせてもらった。

やはり思った通りだ。人は美男美女がよいのではないのです。普通の顔の方が平凡だから良いのです。その証拠に、同じものを二つ並べてみればすぐわかります。

確かに味が出るのである。

いざ仮住いへ

東京都目黒区 木村 道子

老朽化した住居を、思い切って新しく建て直す事になった。乏しい貯えと借金で、これから何とか切りぬけて行かなければならない。われわれ夫婦が、しみじみとお茶を飲みながら「いろいろの事があつた……」などという姿が似合わないうちに、誰のためでもない

自分達の生活を快適にするために、苦しいのを覚悟で決意した。少しでも長くわれわれ自身の手で建てた家に根づいていたいからである。進学を控えた娘と、まだ幼児一年生の息子がいるのに今でなくてもと思うし、忠告もさ

よかった！ 欲しい本もみつかった。美術全書のバラ売り。一冊三キロはありそうだ。とても一度に何冊も持てません。二冊分払って、一冊はとっておいてもらう。

五冊ほど買ううちに、この双子の本屋さんたちと友だちになれそうである。

れるが、木材は値上りするばかりだし、貨幣価値は下がるばかりの現実、われわれ安サラリーマン家庭は年年追いつけなくなるばかりだから仕方がない。この現実には仕方がない事なのだろうか。

どこかの誰かさんのように黙って座っている

ても、ダンボールに入った札束がドサッと運ばれ、後は世間がいくら騒ぎ立てようと、「記憶にございません」と頑張り通し「そんな事はヨッシャヨッシャ」とにんまり笑う方々とは大違いである。まあ今ここで怒ってみても仕方ないこと、せつせと借金を背負って頑張るしかない。

そんなこんなで家の中を少しずつ整理し始めると、その量たるやすさまじい。捨てる物も多いけれど捨てられない物の多さに早速嫌気がさして来た。二代三代前の祖父の頃の遺品がダンボールに詰めても詰めてもまた、出て来る。当事者にしてみれば精神的価値大なる品であろうが、今の生活からは、はみ出す物ばかりである。

「花ちゃん」

今から二十数年前、つまりムスメ時代、勤めのかたわら、夜間の美術学校に三年間通ったことがある。

庭の一角に一時収納の堀立小屋を作るとして、我々の物を入れるとパンクしそうだ。といって予算はないし、狭くても短期間だから安い家賃の所をと、探し回るが中々ない。我々人間はどこでも住めるが、このお荷物様達は、どうすれば良いのか毎日思案にくれてやる。転勤で二三年毎に、いとも軽々と引越されるお宅が本場に神様の様に思えて来る。

親の物は子供にとって、思い出深い、なつかしい物であろうが、孫以降は余程の収納場所がない限り、そして価値ある年代物でない限り、保存するのは不可能に近い。

だから私が年老いたら、頃合を見計って子供達に言っておこうと思う。「良いものは無いし、残せるはずもない、不用になつたら

捨てなさい」と。そうすれば利用価値のある物以外は、心おきなく捨てられるだろうから。今こんな事を考える暇はないのだけれど、頭の中だけがいろいろ忙しく動き回るのみで、手は一向に進まない。

何よりも早く仮住居を見つければならない。決まりかけた所は「子供が居ると多分うるさいからダメ」と後になって断られてしまった。倉庫つきで良かったのに残念。子供ばかりか犬まで付いているのだから仕方がない。

イザ出陣！となってもカブトの緒もしめられぬ有様に、もう参った参ったと言いながら今日もなにしないで終ってしまった。

東京都新宿区 早乙女光子

文部省の統轄下に入ることを嫌って、自ら学ぶことを理想とし、与謝野鉄幹、晶子夫妻の協力を得て、西村伊作という人が創設し

たという歴史だけは立派な学校だった。でもその方針が、今の産業社会の需要に適合した人間を作らないらしくて、(いいかえれ

ば、その理想を本当の意味で昇華させ得る生徒が少なかった？）今やあまりパツとしない学校である。

其処の研究科に、何年前から通っているのか、年齢不詳の女生徒がいて、誰いとうとなく「花ちゃん」で通っていた。一説には、当時講師主任だった山口薫先生が名付け親だとも聞いている。

その花ちゃんの風采は、一言でいえば新宿地下道に寝ているオジサマ方をほんの少し上等にした程度。ザンバラ髪はいつ洗ったのか、顔もいつ洗ったのか時には頬に絵具がついていたりした。当時ダンディでならしていた某画家などは、花ちゃんに近寄ろうともしなかった。少し異臭を放ったのである。

ところが花ちゃんは、絵具だけは、ルフランなど惜しげもなくふんだんに使う。単純化した線を太い筆でズバリと描く。

ある日、アルコールの多量に入った山口先生は、いつになく多弁であった。

「模倣ではない、自分の絵を描いて欲しい。きれいごとの絵ではなく、実体を提えて欲しい。」

一語一語、絞り出すような語り口である。

「その点、花ちゃんの台湾（彼女の絵は男でも女でも頭髮を描かなかった）の絵は自分のものをつかんでいる」

此処での三年間で私の知る限りにおいては、山口先生から賞められたのは彼女一人であったと記憶する。

ある日のこと、その日はモデル替りする日であったが、定刻になっても、モデルがこない。皆少しざわつき出した時、花ちゃんが現われて、更衣用のカーテンの中に入った。そしてモデル台に上ったのは、裸の花ちゃんであった。一瞬、教室中は呼吸が停止したかのようであった。衣服をまとっていた時とは打って変って、色白の美しい体であった。そのいさぎよさもさることながら、男子生徒に比べて花ちゃんの体の美しさは、強烈な印象でもあったようだ。休憩時間がくると、ガウンなどない花ちゃんは、これまたユニークに窓からカーテンをはずして体に巻きつけた。

どうしてモデルを？ と恐る恐る尋ねたら「授業料滞納してるからネ」と照れ笑いをして、「アンタ、画家志望？」とズバリ聞く。「そんな……」私はあわてたが、「でもちゃんとした団体展に入選してみたい望みはあるけ

ど、女は結婚もあるし」

当時の二十一歳のOLとしては、夢と現実のバランスをわきまえて答えたつもりだったが、花ちゃんの勤にさわったらしい。とたんに目が冷ややかになった。

「そう。だったら絵なんかやめるんだネ。

絵具買う金で、化粧品でも買った方が、いいダンナつかまるよ」

吐き捨てるような厳しい口調だった。自分の甘さ加減が何とも恥ずかしく、私は返す言葉を失っていた。

卒業して以来、花ちゃんの話は誰からも聞いていない。私はといえば、花ちゃんほど厳しい生き方に耐えて行けそうもなく、絵から逃げ出して、月並な女の生き方を選んでしまった。子育てが一段落して、再び絵筆を持つようにはなったが、絵に対峙する時、花ちゃんに指摘された、おのれの甘さ、卑しさが近ごろあらためて、見えてくるようになった。食住を保障されて、ヌクヌクと暖まって描く絵に、人の心に訴えるものが出来ようはずがない。花ちゃんの声が今も聞えてくる。

私の視点



障害児 T 君のこと

東京都杉並区 根本由果里

昨年九月、新居に移転して以来というものは明けても暮れても、御近所に住む T 君の事で、自分自身との戦いを強いられる様になりました。T 君は軽度の知能障害を持った、小学校一年生の子供です。一見それとは分かりませんが、その精彩のないひとみ、間のびした話し方等、利発と言うイメージに程遠く、障害児と分かる以前、既に私はこの子供に対して、ある種の嫌悪感を持っていたことを、白状せねばなりません。T 君への嫌悪感が決定的となってしまったのは、その奇行に悩まされるようになってからでした。我家には、三

歳と五歳の息子がいるのですが、同じくらいの子供から仲間はずれにされていた T 君は、引越したばかりでまだ友達のない彼らと、遊びたい一心でよくやって来ました。最近は T 君なりに進歩して、そんなこともまれになりましたが、その頃は、カギの開いているドアや窓から黙ってちん入してくるといったことが、家族の気づかぬうちにトイレに入っていて、泥棒と間違えられそうになったこともありました。また、早朝や夜更けに遊びに来て、断わると空気孔からのぞいているとか、寒い雨の朝、カサも持たずパジャマのまま、我

家の庭先を走っているということもあって、そんな時には、知恵遅れというより、狂った人のイメージを鮮明に持ってしまったものです。そうこうするうち、T 君は特に、我家のちやうど三歳を迎えたばかりの次男と親しくなり、まだ訳の分からぬ彼と一緒に遊びに出たまま、面識もない他家の物を無断で持ち出すというトラブルがあつて、T 君が遊びに来ると目が離せなくなりました。ここに至って、五歳、三歳の息子の他、生後間もない長女を抱えて奮戦していた私は、遂に忍耐の緒が切

れ、理性と感情の板ばさみになりつつ、T君に抜き差しならぬ嫌悪感を持つようになってしまったのです。

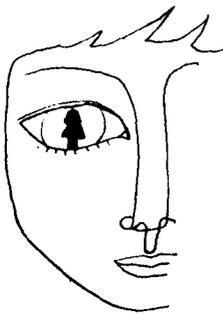
思えば昨年は、国際障害者年ということで、障害者と健常者の交流及び相互理解が広く叫ばれました。私も今、T君に対してやさしさを持たない最大の理由が、T君と接することによって忙しさが倍加するためばかりではなく、今まで知能障害を持つ者と身近に接したことがないので、その立場に立てない、周辺の人々の苦しみを身をもって実感することができない、という事に尽きると思っています。

T君が社会のルールを守れないことについて過酷な制裁を加える一方、何とかルールを守らせて、一緒に遊びたいという自然な働きかけを持っています。それに比べて私たち大人は、様々な思惑の中で、意志伝達するために互いに傷つけ合うのを避け、暗黙のうちに事を済ませがちです。

T君の場合も、T君、及びその周辺の人々のありのままを見聞きしてゆく事が、T君を愛せる一歩だと知りつつ、私はその御両親とまだ卒直な話し合いを持ったことは一度もありません。障害児を持つというだけで、他の点においてはまさに一般の人々と何ら変るこ

とのない御両親が、どのような人格を持ち、T君に対してどのような考えを持たれているか、まだ引越して日の浅い私には判断のしようもなく、やはり無用のトラブルを自ら起こす可能性は、これからの長い近所付き合いを考えると、避けざるを得ないからです。

こうした我身の体験からしても、子供達にとっては、まだ素直な幼い心のうちに、障害児を身近な存在にすることが、どれほど豊かな人間性を育くむかと思いつつ、それと矛盾した自身の嫌悪感をいまだ克服する事ができず、日々思い悩んでいるのです。



私の再就職



試行錯誤で二二二まで来て

埼玉県所沢市 松谷多美子

母親業に徹してはや六年、オムツパタパタ掃除、洗濯と追いかけられるような忙しさはない。

少しは自分の時間が作れるようになり、子連れでいろんなところに出掛けては、社会の刺激を求めて来たが、何か満たされない毎日だった。

ちょうどその頃僕萌子の「女35歳からの出発」という講演を聞きに行き、久しぶりに、さわやかな気分を味わう事ができた。これから日本は急速に高齢化社会が進み、子育てを終えた主婦も、何か社会の一員として自立してゆかなくてはいけない。

まず経済的な自立を目ざして、再就職のため障害を一つ一つと除いてゆくことにし

た。子育ては母親の絶対的義務ではなく、家族の協力によってなすべきことだと思いが、主人は時間に管理され、残業、日曜出勤と、

ゆっくり家族とともに過ごすこともないくらい会社人間。共働きの家事分担など、全く望まず、すべて、私自身が解決しなければいけない問題ばかりだった。

まず下の子(四歳)の保育所入所のためにとりあえず、内職を始めることにした。背広の裏地まつり、一枚やって五百円。肩はこらし、目はチカチカ、内職の率の悪さは言うまでもない。でも頑張って、この安い内職で実績を作り、市の保育所に入園措置の通知を受け取った時は、「ヤッター、さあこれからだ」

と喜んだ。

こういうわけで、職探しを始めたが、思いがけない現実の厳しさに驚いた。私が十年ほど前、就職を捜していたのとは違い、

日本経済も長期不況が続く、三十歳過ぎの Copp 付き女性の再就職口は、スーパーマーケット、化粧品や生命保険のセールスなど、職種が固定化され選ぶ権利がない。通勤時間が近い、ある大手スーパーの面接を受け

る。ほとんど35歳〜40歳代の主婦が占める。人事課長に「日祭日は、子供と共に過ごしたいので出勤できません」で見事お断りの通知。

次は、知人の紹介で生命保険のセールス。お弁当と日当付きで、手厚いもてなしを受ける。営業所で実績グラフを見て、説得力

に欠ける私には向いていないと感じお断りする。

次は職安で紹介された、広告代理店。二日後の返事で、またも失敗。自分の能力不足と、子持ちの主婦には冷たい現実をひしひしと感じた。保母と幼稚園教員の資格と経験があるが、資格を生かせる職場は少ない。

次に望んだのは、不動産での一般事務。社長以下7名と小さな会社だが、やっと採用まできつづけることができた。子持ちであるこ

とにも本音で面接に望み「一応やっごらん」と社長の温かい言葉に感謝して、安い時給のパートタイムで働き始めたが、やっと仕事に

も慣れた頃、長男が肺炎で入院という、思いもかけない事態になり、私が先を急いだことが、結果として家族への精神や健康管理を怠ってしまったのではないかと悩んだ。

会社を長期に休み、即解雇を覚悟の上で職場に行くこと、意外に温かく「子供の病気は治ると終るんだから、貴女さえ健康でやる気が

あれば、続けてもらっても構わないよ」と思いまけない経営者の言葉に甘えて、今も働いています。

余り丈夫ではない子供をかかえ、常に医者通いをしながら、職場を休むことが多く、とても責任のある仕事は望めそうもないが……。

電話番号、代筆、雑用と仕事に慣れてくると、いまひとつ、張り合いのある仕事をやってみたいと思う近頃である。

働く主婦のパスポート

東京都世田谷区 桜井 淳子

私は、わいふの愛読者の一人、一七四号にアルバイト放浪記を載せて頂きました。確かに

にそれは読んで面白く、楽しいものです。友人たちからも「あなたが書くこと、世の中全て楽しくバラ色に見える」と言われたりします。

ぐちをこぼすという事は、自分自身もみじめであるし聞かされる立場も辛い、と考える

なかつたりしました。今風に言えば突張っているというのでしょうか。昨年三月からケンブリッジ・リサーチ研究所でアルバイトをし、一年間働き続けました。その間、社員以上によく働きました。仕事も面白く、やり甲斐のある仕事でした。会社の女性社員たちとも仲良く楽しい職場でした。ただ一つの欠点を除いては……。

それは上司の常識はずれの専制君主ぶりで断われました。外国からの手紙の整理や複雑な手続きで、

一寸したミスタイプや手違いでもすぐに怒る上司に、私も心身症の一步手前までになり、何の保証もないアルバイトの身分に不安を感じました。友人たちにも相談して、義母を病気にして、辞める事にしました。三月末の事です。

四月、家に居て、これからの仕事の事を考えておりました。日本物理学会の友人や、タイムライフ社の友人に相談すれば、すぐにも次のアルバイトを探してくれたでしょう。

四月二十一日(水曜日)夜十時、その日は夫の帰りが遅くなるとわかっていたので、私はソファーに寝ころんでテレビを見ておりました。我家のテレビは夫の趣味で特別なアンテナがつけてあり、そのためにTVK(テレビかながわ)が映るのです。

「主婦が働く時」というタイトルが画面に流れました。そして「わいふ」を持った編集部 鈴木由美子さんが、さっそうと画面にあらわれたのです。おやおやと思ひ、私は寝ころんでいた身をきちんと座り直しました。きびきびした動作と、さわやかなインタビューぶりに、さすがと感心しました。なるほどなるほどとうなずく事ばかりでした。

パートタイマーの三つの条件
一、七十九万円以内で押えること。

二、家事をきちんとすること。

三、夫の会社名を出さないこと。

などや、パートタイマーの欠点として、自分の都合ですぐに辞めてしまう事、全て胸にこたえることばかりでした。

そして最後に、「あなた名義の保険証をお持ちですか？」と健康保険証を前に差し出された時、私はショックを受けました。「目からうろこが落ちる」とはこの事でしょう。迷っていた心はこれで決まりました。保険証を手に入れよう、自分名義の保険証を、

それまでは「奥さんあんまりかせぐなよ」と夫に言われていた私でした。夫の扶養家族として、自分の小遣いを稼いでいた私です。

翌日、都庁に勤めている友人に相談しました。私の職歴や技能そして年齢を考慮して、年齢も性差別もなく、社会保証のある所を紹介してくれました。

私は昭和七年二月三日生まれで、満五十歳になります。英会話と英文タイプと雑役しかできません。赤坂にある山王ホテルで丁度私のような人を欲しがっているとの事でした。

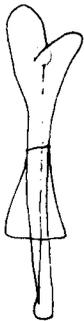
山王ホテルとは、この前火事騒ぎを起したホテルニュージャパンの隣りにある、米軍専用のホテルです。

その人事課で、従業員の人事を扱っている人(二人)のアシスタントとしての仕事です。一人はアメリカ人の人事、一人は日本人の人事です。タイプ、ファイル、雑用などです。

面接に行きますと、すぐに採用になりました。身分は正採用ではありませんが、全ての社会保障、厚生年金、健康保険、雇用保険もつくそうです。五月から働くことになりました。

アルバイト放浪記も、ここで終らせなければと決心しました。あの時、あのテレビを見なければ、いつまでも放浪していたかも知れません。「働く主婦のパスポート」それは保証なのです。私名義の保険証を手に入れました。

ありがとうございました。



からだが二つほしいけど

大阪市岸和田市 小出 久子

「働くこと」への動機

午前九時になると決まって恐怖にかられるようになっていた。

一体どうやって、何をして一日を過ごせばよいのか。それを考えると、ぞっとするほど時間の流れが怖いのであった。いや、まるで流れていないほどの動きにしか感じられないのであった。

本を読むこともした。あれほど、れていた自分の時間が充分に入ったのだから。しかし、毎日毎日、一日中本を読み続ける作業ばかりできるはずもない。より以上に、何のために？ 何を知るために？ どうするために？ と、次々と疑問がわき出てくる。

目的のない読書はただ目を動かしているにすぎない。眼球の筋肉運動にすぎない読書は脳を刺激し、思考を働かせ、広がりや深みあ

る思考までには到らない。読書の意義やおもしろさを見い出せるはずがないのだった。

ものを作ったり縫ったりもしてみた。テーブルかけを編み置いてもみたし、スカートを作り子供に着せてもみた。確かに「いいナ」「かわいいナ」と思う。しかしそれ以上の歓

びはない。手作りの品々で部屋を飾り、夫や子供を飾ってみたところどころか、何か空しさがついてくる。燃えてくるものがない。

狭い狭い3DKの杜宅。鉄とコンクリートの箱の中は、一時間もあれば掃除は完了するし、三人分の洗濯といっても洗濯機がやってくれる。夫を送り出した後の、為すすべもない恐怖感はいま思い出しても背すじが冷たくなってくる。身の置きどころのない退屈に縛られるのだった。このまま行けば精神科医の世話になる状態に陥りそうであった。

何とかしなければ……夫のモータールなる反対は覚悟の上で、結婚と同時に退職した教員

稼業に戻る決心をした。

「オレはいい。しかし子供はどうなるんや？ おまえが仕事を持ったせいで子供がへんになってもオレは知らん。おまえの責任や！」

予測した通り子供をダシにやってきた。

——子供がへんになる前に、女房がへんになってもいいというの！——

とは言わなかったけれども、夫は女房の精神状態がへんになるなどは考えてみたこともない。夫、言うに、なんせ一見小さいながらも幸せを絵にかいたような生活なんだから。

そんなことでへコたれるような私ではない。そうそう、こういう生きる闘志、気迫が欲しいのだ。それが夫にわかるはずもない。

夫との戦いで、甘ったるいぬるま湯に浸り切り、すっかりマヒしていた昔の闘志がよみがえってきた。

——誰が何と言おうとこんな生活真っ平ど免だ！ 私の道は私自身が決めるのだ！

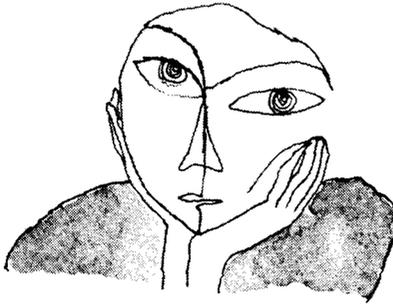
その決意たるや悲壮と言おうか、あつげれと言えるのか。涙ぐましいほどであった。三年間うっ積していた凄まじいエネルギーの爆発に、我ながら「すごいなあ」と目を見張る思いであった。

言われるまでもなく心痛の種は二歳の娘のことなのだ。心配や不安は山積している。仕事に自信はあっても「子供のこと」に関して是不安だらけであった。やみの中を手さぐり歩いていくようなものだ。しかしここでひくならばこんな決心は最初からしていない。

にわたりのケージの如き場所に閉じこもって、他の人間との接触もなく、ただ家事、育児のあけくれに、今までの三十年間何を苦しみ悩み考えて生きてきたのか。

好きなことをストップさせて受験勉強もした。大学で一応は学問の門も見てきた。それらは一体どこへ行ってしまったのか。今までの積み上げた石を壊すために、今を生きているのではないはずだ。

家事育児がいくら立派であるとシャモジをふり上げて力説したところで、しよせん、動物が生存していく上での必要不可欠なる部分でしかなく、本能の域を出るものではない。仮に



も系統樹の最上部にあるホモ・サピエンスならば、メンツにかけても他の動物とちがう部分にかかわっていきたい要求は、当然のこととして出てくるのである。

それは私にとっては「働く」ということである。

現在の日本社会にあっては男が「働く」とは当然なることであり、疑問の余地さえもないしくみであり意識であるが、女が「働く」ことには有形無形の社会的圧力をかけてくる。この状況をどう受けとっていかを左右するのは、まず女の決意、意欲、生き方にかかっている。

つらく苦しい底に潜むキラリと光を放つもの。「働く」ことの、いや生きていることの本当の「よさ」や「味」を知ってしまった女には、そうやすやすと捨て去ってしまうことなどできはしない。

この「味」を知ってしまった私は、結婚三年にして再び旗上げすることになった。

体が二つほしい！

孫悟空がうらやましくてならなかった。頭の毛を一本抜き、フツと息を吹きかけるとた

ちまちにして分身がいくつも現われてくる。

欲は言わない。あと一つだけ分身がほしいと熱望したものだ。

「子供のそばにいる私」そして「仕事をしている私」の姿を想像したものだ。

二歳になったばかりの娘を保育所に預け、夕刻迎えに行くことから出発した。心さな彼女は今までとは全く違った環境の中へ放り出され、全身で不安を訴え抵抗し始めた。

一日中愛用の毛布を抱え、指を吸い、泣きつ放しの連続であった。

朝送る時、保育所の門が見えてくるとぐずり始め、渡す時は胸にしがみついて離れない。それをもぎ取るように保母さんが抱きとってくれる。

「おねがいします」の一言で、ふり切って走り出す。「後髪をひかれる」どころか、髪はまだまだ子供にくっついていて。ぶった切るように夢中で電車にとび乗る。満員電車の中でポタポタと涙があふれ出してくる。歯をくいしばり、上を向いてぶら下がった広告に見入る。胸がキューンと熱いほどに痛くなってくる。皮肉にもこの苦しさに、結婚以来はじめて「生きている」という実感がズシリと

響いてきた。

七年が過ぎ去った今も、この当時のことだけはありありと目に浮かんでくる。そして、この年の彼女の写真が何とさびし気で、痛々しい表情であることか。

毎日泣き続ける娘は、揚句の果てには扁桃腺をはらし高熱を出す有様であった。そのたびに勤務し始めたばかりの新職場にもかかわらず、何日も仕事を休まねばならなかった。夫はそんな娘や私に手をかす気配さえも見せなかった。

大部分の子持ち女はここで必ず「わが母」を思い出すだろう。母の手助けで乗り切っていくのだ。しかし私には既に母は亡い。しかもいなかから出て来ている関係で知人さえもいない。悪い上に、それまでは愛知県で仕事をもち、結婚と同時にこの大阪へやって来たために、周囲とのつながりが全くない。私は途方にくれてしまった。

残る手段はただ一つ。夫の母に頼むしかなかった。幸い健在なためにいなかから出てきてくれた。こんな小さい病気の子供を置いて仕事に出るなんて、彼女にとっては考えられないくら

いのできごとにちがいない。良妻賢母をモットーとする旧制高女の教育を受け、サラリーマンの妻としてやってきた彼女にとっては、批難する以外の何ものでもないであろう。

私は下を向き、黙々とはしを動かして彼女の言を素通りさせていた。

娘をみてくれる。この条件さえあればどんな状況も受容できることであった。

以後、娘の病気が長びく時は夫の母に頼みこんだ。最初は私が頼んでいたが、夫にこの役をやってもらった。不承不承ながらも電話をした。夫の母にもこの方が効果的であった。

娘は私の子供というよりも夫の子供であり、夫の母の係であるという、夫を媒介とする関係を強調していく方がスムーズに進むことが分かってきたのであった。生活の悪知恵であろうか。夫の海外出張、私の出張など事あるごとにいなかから出てきてもらった。もちろんそれ相応のお礼は必ず包んだものであった。

子持ちでの再出発から七年が過ぎ去った。時として「これでいいのかしら」と迷いつつも、「やめたい」と思ったことは一度もない。私にとっては「生きる」ということは「仕事」と切り離して考えることはできない。そ

して動物（生物）である限り子を生み育てることも必然である。

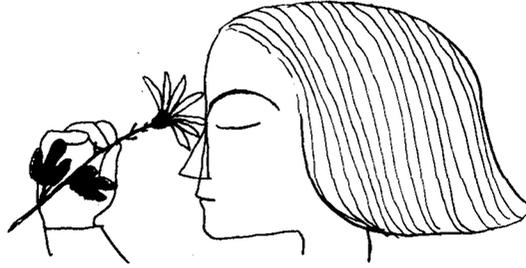
これからも、身体が二つあったら……と思いつつ、子育てに気を配りながら働き続けていくことだろう。

ふりかえって

すでに保育所時代は過ぎたものの、子育てが終ったわけではない。現在も進行中であるし、今後も続いていく。その中で得たものを手短かにまとめ、現在乳幼児を抱え奮闘中の方、これから入ろうとする方、そして「仕事」を当然として持ち続けていこうとする若い方へ、少しでも役だてればと思います。

(1) 一番のポイントはよい伴侶を選ぶこと。私の場合は完全に失敗であった。世の平均的男像の一人である夫は、よき協力者ではなかった。また、結婚前に生活設計を立て、充分話し合うことを一切しないままであり、彼の給料がいくらかさえも知らなかった。初めて給料袋を見た時、その額の低さに、深く退職してきたことを後悔した。

核家族化してきた現代では、夫婦が協力し



合わない限り、特に病気がちな乳幼児期の子育ては大変にやりにくくなってくる。

何と言っても子の父親である夫こそ、たいした気づかいもなく、しかもタダでこきつかえる第一人者である。

わが家の夫も現在では昔のような態度とはれないのである。石頭の夫を説得し、理解させるというようなやさしいやり方はしない。いやでも応でも、子供の世話をしなければならぬ状態に放りこんでしまうのである。例えば子供を夫に託し、外出したり、出張したりする。この間、子供がケガをしたり死んだらすれば、夫の責任であることを強調しておく。

世の男共は何らかの形で組織の一員である。特にこの「セキニン」という単語には大変弱く、忠実であろうとする。感覚的にピクッと反応を示すのである。

私も働き始めの頃は夫の帰宅が遅いと心配し、いくら遅くても食事の仕度を整えた。まだまだ「かわいい奥さん」であろうとしていたのであった。

しかし、神経的にも肉体的にもクタクタに疲れ果ててしまった。

何と言っても肝心なのは最初である。「夫」
選びにかかっている。

(2) 子育てに周囲の人々を巻きこもう。

子育ては母親だけではできないし、またや
ってはならないことである。夫、おじいちゃ
ん、おばあちゃん、兄弟姉妹、隣人、知人と
できる限り多くの人間達をまきこんでしま
うことである。母親も楽だし、子の成長にと
ってもプラス要因となるもの大である。

核家族化した現代では、どうしても母親一
人が育児にかかわる場合が多いし、そうであ
るべしという意識が母親内にも強すぎる傾向
がめだっている。

私もこの一人であった。そして育児ノイロ
ーゼ寸前であった。

子育てに気負いは禁物だ。自分ができない
ときは深く人にまかせることである。そうす
ることによって子育てが拡がっていく。

(3) 職場では「母は強し」になろう。

子持ち女はとかく休みがちということに敬
遠されがちである。

確かに乳幼児を抱えている場合は休まざる

を得ない事態が多く生じてくる。

アレコレ考えずにアッサリ休むことである。
特に子供が病気の場合サッサと休んで早く治
してやることである。母親の看病が精神も情
緒も安定して最も効果的である。病気をせず
大きくなる子供なんているはずがない。

自分の子供とだけ限定せずに「日本の子供」
「世界の子供」そして、「子供」と考え、今こ
こに病気の子供が一人いる。捨て置けるはず
がないではないかと、私などはデッカク構え
たものであった。

しかしいろいろ言う者が必ずいるのだ。そ
んな者は言わせておけばいい。心臓に剛毛を
はやし、ウワサに神経をつかうことなど止め
て乗り切っていくことである。

そして職場では常に女同士が助け合えるム
ードを作り出しておき、休んだときの穴はひ
つかぶってもらい、その代り自分ができる場
合は喜んでやっていく。いつも豊かな器量を
心がけ、仕事の技量をみがいておくことであ
る。先輩に助けてもらった分は後輩に返して
いけばいいのである。

英文タイプのできる方

求めます！

- 年齢四十歳位まで（有能な方ならこれ以上でも考慮します）
- タイプ一日二―三時間、その他電話番、コピー、などの雑用。できればこれまでにもお勤めの経験のある方。
- なるべく通勤三〇分前後の地区のかた。
- フルタイム正社員を希望する方は、週休二日。パート希望なら週休三日。
- 通勤時間いづれも九時二〇分―五時迄。給料十二万＋アルファ。（タイプがうまくい場合は考慮します）ボーナス二カ月分。交通費支給。当方は小規模の貿易会社です。
- 連絡先 MS R インタナショナル（株）
162 新宿区天神町 64 重田ビル 3 F
TEL 二三五―三三五五
- 地下鉄東西線神楽坂駅下車五分
有楽町線江戸川橋七分
- 六月二十日までにご連絡下さい。

子育て合議



高野 貴子 東京都目黒区

ある日トイレで何となくうしろをふり返り

(いつものことなのだが)自己排泄物を見たのだ。すると「アレ何だか動いている」何だ、何だ、と興味を持ってもっと良く接近し、又御丁寧に古割はしなど取ってきて中を割ってみると、もめん糸くらの太さの白いものがピコピコという感じで動いていたのだ。これはもしかすると「アレ」じゃあないか。そう

うだ「寄生虫」なんだ！ ギョッ。

そう言えば去年の五月頃、長男が「便の中に白い虫がいて動いていた」と言っていたけど、同じじゃあないのかな。とふと不愉快な

ことを思い出した。

畜生め。やっぱりいたんだな。いや確かなことは言えないが、あれから九ヶ月たったし私は三十三歳の成人だから、家庭内で繁殖した可能性は強い。

いやな思い出というのとは他でもない。その長男が発見した時に、私はきちんと子供をつれて小児科に行き、検査してもらったのだ。だがその時の医者は「今時、寄生虫なんてい

る訳がありませんよ。お子様の見間違えではありませんか」と長男一人の検便だけでお茶を濁してしまったのだ。しかもいかにも私た

ちをバカにして。あの時、家族中の蟻虫検査

をして下されば、きっと発見されたのではないかと不愉快きわまりない。

考えてみれば「うちの子にかぎって」の親バカの代表みだいが——あの細かい観察力の持ち主の長男が、見間違える苦がなかったのだ。親はもっと子供を信じるべきだった。

まあ今さらガタガタ言っても始まらない。早速、知り合いの別の医者に行き駆虫剤をも

これが先生に言わせると仲々の劇薬だそう
で、体重10kgにつき「こ」間違えないで下さ

いよ」とおどかさされ、私、六つものんだのだ。大丈夫かな。真赤な直径七、八ミリもありそんなデカイ薬だった。

一家族、全員飲まなくてはならない。二月十三日昼、全員服薬。(本当に大丈夫かしら?)するとどうであろうか。その晩から、何やら下腹がジーンと痛むのだ。そしてコタツに入ってテレビを見ていたとき、何とも言えぬ異臭がしたのだ。これが夕方からズーッと続くのだからたまらない。

「ちよつとまで、今オナラしたのだからだ?」と言って白状させると三男が「ボク」と小さな声でテレ臭そうにして近寄ってきたので、「あっち行ってあっち。お前クサイもの」とシッシツの感じでおっ払った。(実は私もその後少々出たりして)七時すぎても何となくクサイし、これはおなかも痛いからもしかすると大の方をおもらしたのではないかとチビのパンツを調べてみたが、それはなかった。

そうなのだ。それは正にあの薬の副作用なのだ。三男は体が小さいから直通で出ちゃうけど、私のとニオイも同じだし、きつとみなやっているんだ。長男、次男はカッコつけ屋だから出たって知らん顔していたんだ。それ



にしても長時間続くなあ。一人ずつやっているのかなあ。どうなるんだらう。心配だ。

「みんなうち出たくない?」と聞くと「ゼンゼン」なんて言っている。「でもおなか痛いよ」と言っている。私のおなかもやっぱり痛みが続く。

その日は次男一人排便あり。だがこれは言っておかなかったからすぐに流してしまった。翌日、三男に排便あり私が「こりゃ検査しなくちゃ、絶対流しちゃだめ」と大騒ぎしていたから、ちゃんと流さず出てきた。またまた古割りばし持って調べてみると、イルイルもめん糸状の虫がピコピコ動いている。動いていないものもあるが、これは死んでいるのだらう。調べようとしたのは良いが、やっぱり「ウェー」の気分なのだ。一、二、三と数えてみたが、途中で「ゲーツ」となりそうで四匹をやめた。それ程はいなかったと思うが、良く数えれば良かったのか…。

「キモチワルイ」唯その一言。

亭主いわく「なんせうちは不潔だから」何言っているんだ。下宿人が。ダメレ。

そうは言っても、この「ウェーツ」の気分が続き、次男は検査せずにパスさせた。いず

れ出ているに違いないが、もうあんなものは見たくもない。

その日より私の生活は変わった。

「晴れた」となればソレツとシート、布団カバー、とセッセ、セッセと洗濯し、もちろん布団は毎日ほして、と頑張っているのだ。

その後私の友人（この人のつれあいは小児科医）にその話をしたら、「あーら、あなたって神経質ねえ。虫なんて子供みんないのよ。汚い手は洗わずに手づかみで食べるし、つめはかじるし、ズボンは泥だらけ。うちの子だっておしりから白い虫がチョロチョロして

たから、お菓飲みしといたわよ。あんなもの菓飲めばすぐいなくなっちゃうわよ。そんなシートやカバー洗ったり、布団しく前に掃除しなくちゃなんてやっていたら、忙しいのにたまらないじゃない。あなたって予想外なのねえ。アッハッハッ」なーんてね。

その上「この頃じゃあダニやシラミも発生しているというじゃない。文明が発達したからって子供達のやることって変らないのよ。汚すのあたりまえ。そうねえ、お宅の場合、最初の小児科医が悪かったんじゃない。早く菓飲んだ方が良いのよ。寄生虫がいると、

イライラしたりして落ち着きなくなるから、きちんと駆除しなくてはいけないわ」とまあスケールの大きいこと驚きだ。

それでもやっぱり私はきれいにしたいと思っている。子供達には「手洗い」を奨励し、汚れたズボンは玄関でぬがせ、つめを切らせ、「ほこりで死ぬ人はいない」と聞き直ったのが、掃除もママになった。

だがあの時を思い返すと今でもやっぱり胃の中の気分が悪い。

吉田 玲子（30歳）埼玉県春日部市

のっけから尾籠な話ですが…

「隊長は男しかなれない。女はダメ」と四歳の息子は、妹がウルトラマンごっこで隊長になることを頑として聞き入れない。「テレビの隊長は皆男だ」と言い張るのだ。私は一男

一女の子供がいるが、できるだけ男だから、女だからと区別せず育てるように努力してきた。それなのにこの言葉である。頭を石で殴られたようなショックであった。この時程

テレビの影響力の強さを思い知らされたことはなかった。考えてみると、息子の好きなウルトラマンもダイモスも隊長は男性で、隊員の中に女性

もいるが、それは紅一点で、なおかつ補佐的な存在でしかない。他の女性の登場人物は悪物の女王等が数人だけ、女性が隊長として指揮をすることも、華々しく味方の男性隊員とチームワークを守って中心的に活躍する場面もあまりない。また、反対に少女マンガの方向は、あまり見ないので詳しいことはわからない

いが、恋愛や結婚が安易に描かれているのが、気にかかる。昔ながらのシンデレラや白雪姫と最終の理想が変わりばえがなく、男のパターソンと女のパターソンの類型にはめ込まれて描かれているように思う。

現実には、女性首相もいるし、女性宇宙飛行士もいるのであるから、もっと自由な発想

をもって幼児用のドラマやマンガを製作できないものだろうか。たった三十分のマンガでもテレビの主人公は子供にとっては英雄であり、その影響力は絶大であるのだから。

息子と私はこの一件で大げんかをし、やっと息子も納得したが、皆様のご意見はいかがでしょう。

住谷 やす子 茨城県勝田市

女は隊長になれない

縁あって上の娘が八歳、下の娘が四歳の時に親子になった私です。二女などは母親の愛情にうえていたのでしょう、私にまつわりつきながら一日に数えきれないほど「お母さん」を連発し、姉に「お母さんは安売で売っていないよ」とからかわれている。幸いに二人ともやさしい素直な娘達である。本当に可愛いと思う。私達のような親子は夫婦よりも、絆が強いという、よく新聞などで継母の虐待の記事が出ているが私は思う。心を開いてぶ

つければ必ずはねかえってくる。なつかなければなつくまで愛情でぶつかればいい。子は親を選べないという。親の愛情と責任があるかないかで子供の一生は決ってしまうと思う。娘達は思いやりがあり主人はやさしい。私は言う事はないのであるが、悩みが一つある。二女は私と暮している年月の方が長い。幼児期の事はわからないので私から生まれたと思っている。やがてわかる時がくると思う、その時を考えると、胸が痛む。でもや

がてはわかるその時が問題だと思う。親の口からわからせるべきか自然にわかるまで待つか。私は悩むのである。主人はそのうちになんとなくわかるだろうと言う。このような悩みをもつお母様方、又、よい結果なられた方達が世の中にはたくさんいる事と違いますのでペンを取りました。よいアドバイスをお願い致します。娘達がよりよい幸せを末長くもって大きくなるようにと念じながら。

おしゃべり



一人になって分ったこと

男女の成績差雑感

T・K

愛知県岡崎市 鈴木 昌子 (41歳)

主人が生きていた時は、生きがいとしての仕事や、自立するには女(私)は、などの問答でしたが、生きていくための仕事に、一人で歩かねばならない女(私)は、に変わると、今までの問答では見えなかったものが、角度を変えて見えるようになりました。

子供達は、私にとって生きていくのに一番身近な仲間になりました。だから、まず勉強がよくできることより、健康で病気をしないことが第一条件、そして自分のことはきちんとして自分で仲間に負担をかけないようにと、変化してしまっただけです。

主人に先立たれると、深い悲しみとともに物事に対する姿勢も原点に引き戻されたような気がいたします。

うちの主人は一応名門とされる公立高校の教師です。今年の入学試験を受ける人はひのえうまに当り、絶対教が少かったとか。しかし昨年にして生徒教をニクラス分減らした為、競争率はほぼ同じだったといえます。ところで昨年と今年では女子の教は変わらず、それはとりもなおさず男子がニクラス分減ったことになるわけです。平均的男性の主人は、「中学までぐらいは、勉強量の多いまじめな女子の方が良くできるのは当然。実際高校でびるのは男なんだから」といって、名門校(愛知は公立の方がほとんどの私立に勝るとされている)に女子が増える事を嘆いています。ちなみに昨年までは男子が $\frac{2}{3}$ 女子は $\frac{1}{3}$ だ

ったといえます。私は「女子は半数までいくと思うよ。今は、女はそれほど勉強しなくてもいいという風潮はうすれてきている。全体に今まで小学校は女子が男子より成績上位でも、中学に行くと男子の方が上位に変わっていくといわれて来た。しかし今は中学でも女子が男子とほぼ肩を並べるようになってきているのではないかしら」と言ったのですが……自分を省みて、やはり女はつめが弱いのではないかと思っていました。しかし、自立志向の女性が増え、親も男女の差別をつけずに育てる傾向の現在、中学、高校の教育の中でも男女の差はなくなりつつあるのではなからうか。パッとしない男の子二人を抱えた母親として複雑な心境です。

山田保子さんへ

埼玉県所沢市 江口 史子

子さんも小さいことだし、外へと浮き足立つよりじつくり家庭づくりに専念してみたら、
というの？
——一々学問的に反論できないんだけど……
それだけではね。

——一七五号の「私を助けて下さい」ストリートな訴えが、こたえたなあ。同じく三十七歳、小五小三の二児を持つ身で何と答える？
——ありきたりの答えとしては、公民館主催の手芸やスポーツのサークルに参加したら、とかお子さん達の父母会の役員をしてみない？とか。

——今や、有名無名、さまままの人がこうした主婦を対象に意見したり書いたりしてるけど、ピンと来ない事多いね。

——あなたは、まだ恵まれてる。私なんか姑と病夫を抱えて……と怒る人もいるよ。同じような言い方で、男だって、外で働く女だってつまらぬ雑用に追いまくられてんですよって、いさめられるのね。

——それが大方の現実だしそれぞれもともとなんだけれど、別の問題として考えるべきで、全然、答えにはならないと思うわ。

——家庭こそ創意工夫を生かす場所、まだお

全部折衷した形で手頃なのが、やっぱり生協とか、子供文庫みたいな地域活動に参加する事じゃない？ 手前ミンになるけど私は、それで救われたような気がする。友達はできるし勉強にはなる、子供同士仲良くなるし、家族のためになるから気分的に楽よ。

——目覚めたけど稼げない女は地域活動に活路を見出せ、か。ウーン、でも収入にはならないし、家族がらみの事だからあまり気分転換にもならないよ。当然、食品公害とか地域ぐるみの教育なんてことは専業主婦だけに任せていいもんじゃないと思う。

——ウチの方じゃお料理講習会や子供映画、ピクニック、ギターコンサートまで開いて、たのしいのよ。こういう活動の仕方はやはり専業主婦が中心にならないとできないと思う。

——それ生協の活動で？
——ウーン、子供文庫でも伝承遊びの会を開いたり、民族工芸家を呼んだり……そういう活動

って自分一人の趣味の世界とは違っていろいろ経験できるわよ。時間帯だって無理ないし。——ポルテールの「ここ以外の場所ならどこへでも、私は出かけて行きたい」ということば開高健が引用してたなあ。「ここ以外の場所」をどこにするかだな。地域活動はその一つなのかしら。

——私のせまい経験ではね。とにかくいつも建設的に考えていきたいし、ハングリーな気持を失なわずにいてほしいと思う。お互い「手遅れの主婦」同士だけで……(笑い)

サークルだよりを読んで

東京都渋谷区 倉橋 祐子(21歳)

浅賀さんの投稿を教回読みかえしましたがどうしても理解しがたいものが残りました。

その理由は、牧歌的労働を賛美し賃労働を批判している御自分が、実は賃労働社会の上に支えられて生活をしていることを、すっかり忘れていらっしやるからだと思います。

金からむ労働を人間疎外の要素として否定するならば、この社会すべての賃労働を否定しなければなりません。女性の賃労働のみ

を否定なさる浅賀さんの論理を尊重するならば、男性は凌辱され疎外されてもかまわないことになりませう。

古代ギリシアの哲学者たちは、学の為の学を尊び、生活手段につながる学や活動を否定しました。しかし彼らはすべて有閑階級であり、下層階級の労働の上に生活していたので、哲学と実生活は全く相違するものだったのです。これに対し、労働を賛美したのはキリストであり、近代ではマルクスです。

現在の科学優先社会、利潤追求第一の資本主義社会、ソビエトにおける管理社会が、人間の感性や尊厳を破壊していることは事実です。しかし、賃労働の全面否定の理由にはなりません。なぜならば、賃労働の存在がこれらの弊害の原因とはなっていないからです。すばらしい芸術、創作はすべて人々の労働による経済社会の上に成りたってきたことを考えあわせると、もっとよくおわかりになると思います。現在においても同様で、私達が創造的行為をするにはそれなりの経済社会に生活していることが必須条件です。例えば手編みのセーターを作る際、その材料一つを確保するにも

工場・メーカー・販売店といったルートを通して行われます。労働の存在の上に「編む」という創造的行為が成り立つのです。

マリー・アントワネットは、国民の税金をつぎこんでトゥルイエル宮殿に「田園」を造らせ、貴族達に農夫の格好をさせて楽しんでさうです。この創造は無論、市民の労働の上に成り立っていました。又、彼女はパンをよこせと叫ぶ人を見て「では、お菓子を食べればよいのに」とも言ったさうです。

このフランス王妃の話は全くの余談ですが、浅賀さんの御意見を読んでいて浮かんだったので、書きそえました。

やりたいことがいっぱいです

千葉県沼南町 吉沢真里子（29歳）

「あなたほど、この一年間で、変わった人も珍しいんじゃない？」友達の言葉に、思わずニヤリとしています。そう、昨年下の娘が幼稚園に入園したとたんに、待ってましたとばかり行動を起こしました。まず、近所の農家から借りた家庭菜園で野菜作り。大根、じやがいも、白菜、ナス、トマト……自分で作

った野菜のおいしかったこと。そして五月から、今年の三月まで、町の公民館主催の婦人学級への参加。農薬や食品添加物について学びました。更に小学校の役員を引き受け、六月からは、地域の女性コーラスに入会し、週一回大勢で歌う喜びを覚えました。夏休みは、一週間たっぷり家族四人で、いがたの私の実家へ里帰り。毎日のように海へ出掛けました。

そして十月十一月十二月は、町役場の指導によるお城の発掘調査に参加。中世のお城としては関東一といわれているほど規模の大ききものでした。週に何日か働きたい日を選べるとあって、近くの団地の主婦などが約六十人も集まりました。歴史の大好きな私は、住居跡に土器の破片が出るたびに胸がわくわく。考古学者になった気分でした。そして秋空の下で食べるお弁当は、格別の味でした。そこで出会った多くの友人は、私の大切な財産です。

そして今年の一、二、三日、我が家の洋間にピアノが運ばれてきました。私のアルバイトを元手に、念願のピアノを購入したのです。小二の長女と私は、うれしくてうれしくて飛びはねてしまいました。二月三月は、ピアノ

を弾いて過ごしました。やっと両手で弾けるようになりました。お花のワルツ、夢の花、ちようちよ、春の小川……。

生活の中に音楽があるって何て楽しいんでしょう。エレクトーンも習いたいなあ、なんて思います。英会話の勉強もしたい、将来に備えて資格も取りたい。あーあ、やりたいことがいっぱいあります。でも主婦だから、家庭にいるからできるんですよ。今を、この時を大切に生きていきたい。好奇心を持って、どんなに。

あなた、そして子供たちよ、素敵な一年をどうもありがとう。これからも、いたらないママだけれど協力してちょうだいね。

ただ今人生スランプ期

Y・O

夫三十一歳パイロット、その妻二十七歳元国際線スチュワーデス。二年前に恋愛結婚して私は退職。現在主婦専業、一歳五カ月になる娘と毎日育児戦争。入社して五年目肉体的疲労感と精神的疲労も手伝って少々仕事に對

する情熱を失いかけていた時だったのか何の未練もなくやめてしまった。夫の収入には少しも不安はなくこのまま平凡な主婦、母として生きてゆけるような気がしていた。欲しい物を揃えて新築マンションに住み、グチの一つでもとばそうものならバチがあたると言われそうな毎日を送っていた。

これで夫が心広く人間大きく理解ある良夫だったなら、私自身何も考えずに小さな金魚鉢の中でピチピチ泳ぐ小さな金魚のままで一生を終っていたかもしれない。しかしである。子供が生まれあたふたとふりまわされる毎日が続き、どういうわけか不安というのかイライラというのか、何かが違う。何かが私の思っている事とく違っている。と思ひ始め……でもそれが何なのか自分自身でわからなかつたし何か言葉に出して言いたいのだけれど、何か彼に理解してほしい事があるのだけれども当の本人がはっきりわからないものを夫とはいえ結婚二年足らずの他人にわかるはずがない。

そのイライラをささいな事でムカツときてはついつい感情的に彼にぶつける日が多くなりけんかもふえてきた。そうこうしているうち

に彼は仕事上訓練ということで約五カ月間まったくの別居生活。私は母子家庭という味がいやおうなしに背負わされる羽目となってしまった。そしてとうとう二カ月弱の海外訓練出発直前ガンと打ちひしがれるような彼の感情のすれ違い（もしかししたら私の一方的なものかもしれないのだが……）。それに加えてのあの羽田でのヒコキ事故。おかげで「あ

あ、私の感情を今彼にぶつけちゃいけない。訓練にさしさわりがあっちゃいけない」と我を殺して笑顔で送り出す。成田から帰った私はもうどうしようもないほど心身共にボロボロになっていた。そして四、五日間ハラハラと涙の毎を送り、でも結局のところ自分を救えるのは最終的に自分自身なのだからと言ひ聞かせつつも一週間もんもんとした日を過ごしてしまふ。

ちようどその時同期の人からこの「わいふ」を見せてもらい、まず自分の一番言いたい事は何なのかを突き止めるべく行動を起こそうと奮い立ったのです。たまたま、サンケイ新聞の論文募集の入選作で、長谷川明子さんという方の「男女分業化の切り崩しから」というのを読み、やっと答えらしきものを見つけ

たように思うのです。私のうまく表現できなかった心情そのもの。「夫も妻も一個の人間として経済的精神的な自立をすべきである。そうすることにより男と女が損得勘定ではない本当の愛情によって結ばれ」とあるのをもうすぐ帰国する彼に見せたい。

ニュース速報!!

大分県大分市 広戸きくみ

イチゴが安くなりました。一パック九十円から、百円です。ジュースとジャムを作りましょう。今のうちです。

イチゴというのはほとんどが水分なので、火にかけてハシカシャモジでコロコロころがしているうちに、ワーツと汁が出てくるのです。

ジャムの場合、この水分をとばさなくてはならないので、弱火で気長にやるわけですがジュースを取ってしまったカスは、サトウを加えてグツグツと煮たらもういいのです。

色が悪すぎたら、ジュースを少し入れて、ひと煮立ちして下さい。とにかくアレヨアレという間に汁が出てくるので、焦げつく心配はありません。

話は変わりますが、長男が入学して、初めてのP・T・Aで役員選出がありました。皆逃げ腰で要領のいい人は先に帰ってしまい、ジャンケンで負けた人がシブシブ……といった調子。私もジャンケンに勝ってホッとしたものの広報部がいつまでも決まらない。下の娘がもうすぐや々と三歳では、役員の活動もままならず、「どうぞ他の方が……」と祈るばかり。しかも当日熱を出した娘を近所に預けてきた私は、どんだん過ぎる時間も気が気ではない。「エイクソ！」と持ち前のせっかちと短気とおせっかいと……ああもう自己嫌悪！「私やります」といつてしまったのです。

後で聞けば、一番忙しい部とのこと、後悔の念がドバーツ、「わいふ」にて、役員選出なるレポートをせび扱っていたのだ。

月刊 教育の森 6月号

発売●定価480円
発行●毎日新聞社

特集・生徒手帳は今や教師の守り札

全国中学・高校の生徒手帳を分析する

【連載】愛知の教育その⑤……有賀幹人
まかり通る旧かな・君が代……

●わが中学の白めき生徒手帳……加藤彦彰

●ある高校にみる制服論争……関千枝子

●いま教員生活を終えて……宇野 一

●わたしの教育実践—落ちこぼれた生徒とのかかわりあい—……渡辺八郎

●新連載

●懐萌子の教育委員日記

連載

●落合恵子の子どもの本だな
●学園生理学……志賀貴

子ばなれ第一歩

三重県員弁郡 井後ひろみ(29歳)

二人の息子達の入学、入園式から三日目。

朝寝がちの怠だな母親を返上し、目覚し時計に促され、慌しく朝食をととのえ長男を送り出す。この間一時間余り。大きな一年生でランドセルも軽々しよって、近所の上級生に混り嬉々としてでかけて行く姿に、ホッと安堵の胸をなでおろし、「気をつけて……」を心の内で反すつする。後片づけ、洗濯を終え、待ち遠しそうに早々と登園準備をしている二男をバス停まで送って行く。過ぎようの黄色、白とピンクの芝桜、紅梅、遅桜とバステルカラーに包まれた花冷えの肌寒さを、清々しく感じる。慌しさをふと忘れてしまう貴重なひと時、兄に比べ小柄で、この間までいつもかたわらにくっついていた幼い二男であるが、心配をよそに、「バイバイ」と元気よく手を振り、ケロリとした表情でバスに乗り込んで行く姿に、急に一まわり大きくなったような感慨である。騒々しい小鳥が飛びたった後の巣のような温

もりを残しつつ、ひっそりとした我が家に戻ると、「二男が保育園へ通い、早く自分の時間をたっぷり持ちたい」との長年の夢も少し色あせ、張りつめていたものが失われていくかのような一まつさびしささえ感じるありさま。「一人でゆっくり買物をしたい」の夢も、いざ実現してみると、相棒が欠けていて格好つかず、ぎこちなさを感じてしまう。でも一カ月もすれば気にならなくなり、快適さに満足を得ることだろう。母親ならば誰しも一度ずつ、くぐり抜ける「子離れ」への第一関門。このワンステップにためらうことなく、新入生の息子たちに負けず、△△君の母さんの代名詞にすっかり甘んじていた我が身を省みて、一女性である自覚を持って再出発、心機一転をはかるべく第一歩を踏み出したい。小石につまづき、ぬかるみに右往左往しながらも、息子達と共に歩んでいきたい。

言葉は大切なもの

千葉県船橋市 中島しげ子

言葉というものは、時代と共に変わってゆく

のだと聞いた事がありますが、近頃の子供の話をきいていると、変わってゆくどころか聞くに耐えないものがある一方、有難う、お早う、ゴメンナサイ、等とそんな言葉は知らないのかしらと思う時があり理解できないことがあります。

少し前「カラスの勝手でしょう」と言う歌が流行したことがあり、子供がカラスの勝手ではなく「私の勝手になったらどうしよう」なんて思った事がありました。また「ドウモドウモ」とか「ドウモネ」という言葉ももうすべらかな感じがします。ドウモ有難うと云えばより一層有難味が感じられますのに、重宝といえは見えるが、あまりに簡素化された言葉のようです。

子供は産れた時から母親が乳呑児に語りかける事や、少し発育して周りの人が「おねむなの」「ぼんぼ痛い」「そんなにおかちいの」と語りかけるその時、相手の顔を見ていきいきとし話し方を覚えるのでしょうか。そして自分の意志も伝える事が出来るような言葉を覚ええます。正しい言葉があればこそ仲間との交流も出来るのです。子供のために言葉は大人が押しつけてではなく、正しく充分に覚えられる

家庭即ち話し合いの出来る家庭であってほしいと思います。

先日孫の小学六年生が友人と話をしているのを聞いていると、「僕がこうしたわけ」そうしたら「K君がこういったわけ」「だけどそれ違うわけ」とわけばかり話のくぎりにつけるので、とても聞きづらいから「何故わけばかりつけるの」ときくとみんな使っているからと言った。直すように注意したところ最近普通に話すようになりました。またヤッパリとかやはりと言うことを「ヤッパ」と言う人が目立ちます。正しい発音ではないようです。正しくない言葉が言語生活の中に根を下すと、正しい言葉が忘れられてしまうようになります。恐ろしいことだと思います。言葉とは人間生活で欠くべからざるもので、社会生活、家庭生活の中で大事な言葉を真剣に考えたいと思います。



長い目で育てたい

東京都新宿区 富沢あきこ

一七五号のサークルだよりに、わいふに付いてのアンケート結果や所見が述べられていた。「わいふ」が東京で再出発した時からの読者として、一緒に育てていかなければという使命感のようなものに駆られて、私は、友人知人の読者を増やしてきた。でも今、その人達に喜んで読んでもらえているかどうかとなると、ちょっと自信がない。

しかし、かといって、浅賀さんが書かれたように「雑誌というものは体裁が整ってくる」と、大体おかしくなっていくもののように「という程、手厳しくは見ていない。百五十頁近くの量にする必要性の是非は別としても、大世帯になった読者層のニーズに応えようとする編集者の努力は、随所に滲み出ているし、企画編集する側の苦心が手にとるように感じられて、とても外野席からヤジるような気持ちはなれないでいる。

私の増やした読者層は五十代前後が多い。

中にはパラパラとめくって「若い人向きのようなので娘に読ませている」という方もある。教育、受験の話。ああ、もう関係ないワ。老後の話？ まだ早いワ。という声も聞く。でも「わいふ」には本音の発言が載っていると、今思っているので、今の若い人達がどんな状況におかれ、どんな考えでいるのか、娘や嫁（まだいないけれど）や孫達にも係わってくる問題として大変参考になる。老いの問題、その他もまた然りである。

結局、自分がそういう関心の示し方をするかしないか、できるかできないかによって、読む側の価値観は違ってくるのだと思う。要すべきことはどんどん要求していいけど、思うように満たされなくても、長い目で見守っていきたい雑誌ではある。一読者をして、そういう気持ちにさせたという点では、それだけでも成功の証しではないだろうか。

いらぬお節介かもしれないけど…

千葉県船橋市 岡本 恭子

毎朝七時過ぎ家を出る主人、続いて次男と

その朝食を用意するために私は六時起床、息子の希望でたいいてパン食だが、そこは臨機応変、時には純和食の時も……。

前夜洗っておいたレタスやキャベツ、その上には必ず生の人参の千切りをのせる。キュウリ、トマトはいつものこと、その他ゆで玉子、サラミ或はハム、チーズ等バラエティに富んでいる。朝からこんなに生野菜をとる家はないんじゃないと笑う次男、それをきれいに平げてそれぞれ出勤する。今朝はとり肉とたっぷりの野菜入りのスープを、胃袋につめて飲んで……。

今は朝食をとらない人がかなり多いという。朝食の価値は「金」にも匹敵するというのが……。数年前のこと、おいが結婚するとき、義姉は真顔でお嫁さんに「息子に朝食は必ず食べさせてほしい」と助言。昔ならとても考えられぬことである。子供にしても共働きの母親のインスタントの夕食に満足し、かろうじて学校給食のカロリーでバランスをとっているという。そのせいかスパゲッティやプリン、牛乳と手早く流し込むものを好み、これはあごの発達や歯の生育にも大きな支障をきたすともいわれている。

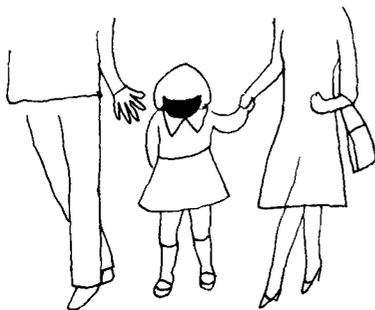
そういわれてみると、スーパーなどで若いお母さんの買物かごの中味は、そんな食品で占められている。パーゲンの時などもさまざま種類の冷凍食品をいくつも、まとめて買っていく姿を見かけます。さらに若い主婦の中には、ほうれん草でさえ洗うのを面倒がり、年中店頭にあるキュウリやトマトにご執心か。これでは長い間に子供たちの体が自然にむしばまれていくのは目に見えている。いらぬお節介とはいうけれど、さまざまな食品を食べるといふことは、それなりに理屈があるのです。好むままにというのは危険なことではないでしょうか。

いつぞや、ご近所の家の前におそう菜持ち込みの会社の車が止まっていたのを、目ざとく見つけた次男、現代っ子ゆえ、恐らく「わが家でも試食を」と思いきや、開口一番「どこの家だ、あんなものとなっているのは」と非難の口ぶり、私は黙っていたが内心では私の手作りが一番だと思っていると解釈してはった。

今後私たちの食生活の歴史が大きく変わっていくのは明らか、それがいい方向であれば問題はないのですが……。今朝も「今夜のお

かずは何？」と出して出勤していった息子、昼食の際のバランスを考えてのことである。どんなに優秀な食品でも、そのバランスが失われては決してプラスにならないということとを常に考えるべきではないでしょうか。老いまで、私たちはそれを、学校や本や料理教室からではなく、長い年月をかけて、本能的に母たちから受け継いできたように思います。

(カット・松本をきえ)



投稿規定

定期購読者はどなたでも投稿できます。
(定期購読は直接編集部へお申し込みください)

対話のページ・エコー(千二百字まで)
わいふ誌上の投稿、記事についての感想
反論、批判など。

私の視点(千二百字まで)
問題提起、何でも自由に。なるべく体験
的実感のあるものを歓迎します。

子育て会議(千二百字まで)

——乳・幼児期から思春期まで——
子どもを大きくするまでの体験、苦し
み、悩み、楽しみなどを寄せて下さい。
らうんど・てーぶる(八百字まで)
おたよりその他、気楽なおしゃべりのペ
ージです。編集部へのおたよりをそのま
まのせさせていただくこともありませ
うで、掲載をご希望でないものは「私信」

と必ず明記してください。
情報コーナー(二百字まで)

あげます、貸します、こんなこと一緒に
しませんかなど、何でもお知らせ欄。扱
っていらっしやる商品やおしごとなどは
「私のPR」として一括します。

私の再就職

あなたの再就職事情、職場体験をお書き
下さい。(四百字詰十五枚以内)

以上は紙面の許すかぎりすべて掲載。

持ちこみ原稿(長さ自由)

評論、ルポ、ずいひつ、詩、小説。
ぜひ力作をお寄せください。

コミック・ライブラリー

身近かでおきたケツサクな話をお寄せく
ださい。編集部でくわしくお話をうかが
うてからシナリオを作りますので、コマ
漫画の構成になさる必要はありません。

テーマ原稿(四百字詰十五枚〜三十枚)
規定は投稿募集欄でお知らせします。

*

●紙上匿名は自由ですが、原稿には必ず
住所氏名を明記してください。

●投稿は必ず原稿用紙に書いて下さい。
書き出しは一字あげ、句読点は一マス
分を取って、その下は一マスあげず
すぐに次の字を書いてください。

●紙面の都合上原稿は削らせていただく
ことがあります。あしからずご了承ください。

●サークルだよりをお寄せになるかたは
なるべく六百字までの原稿にして送り
ください。サークルのパンフをそのまま
お寄せ下さると、どの部分をおのせして
よいか迷いますので、よろしく願いま
す。

テーマ原稿募集

●一七八号のテーマは、「女・体の履歴書」です。

昨年避妊についての座談会を掲載したところ（一七〇号）、かなりの反響がありました、皆さん悩みを持っていらっしゃる事が、よく分りました。

避妊問題に集約されるように、女は産む性であるがゆえの、体の悩みをいろいろと抱えているのですが、残念ながら女の体といえは興味本位に見られがちで、そのため語ることをためらう風潮が強く、解決の緒がなかなか見付けられません。

「わいふ」は女たちが語り合うことによつて、新しい道を見出し、進むことができるようにと、それを願ひとして発行されている雑誌です。ふつう「はしたない」とタブー視さ

れている私たちの体の問題を、ひとつ遠慮を捨てて語り合ってみましょう。

きつと「ああそうだったのか」「お仲間がいる」と心からほっとするようなデータが集まると思います。

月経・性体験・結婚・妊娠・中絶・避妊・出産・婦人病・更年期と、女が一生の間に経験するさまざまな体の履歴を、あなた自身の実際についてお書きになってみてください。初潮のショックや中絶の苦しみや、あなたの体験の中でもっとも切実であったことをとりあげて書いていただきたいのです。

履歴書といつてもたんに列的なものではなく、一点にしばってお願ひします。

締切・七月二十日

枚数・四百字詰十五枚以上三十枚まで

お友達に(わいふ)をおすすめ下さい

新しい読者をご紹介下さった方には、次のように購読期間を延長させていただきます。

●定期購読者をお一人ご紹介下さるごとに、誌代プラス送料とも一回延長。

(六人ご紹介下されば、翌年の誌代・送料とも無料になります)

〈わいふ〉年間分をプレゼントにお使い下さい

●結婚のお祝い、遠方のお友達とのコミュニケーションにどうぞ。

お申込みいただければ、まず新読者にきれいなプレゼント・カードをお送りしてお知らせし、以後毎回送本いたします。

●その場合も定期購読者のご紹介と同様に、お一人につき一冊分延長させていただきます。

編集だより

●座談会「男にとつての恋愛と人生」いかがでしたか。終ってみると「男はやはり、女に尽くされることをのぞんでいる」というのが編集部としての偽らぬ印象です。

●一七一号で呼びかけた「働きたい・育てたい」の原稿募集に対して、二十一名の方からご応募をいただきましたが、ほんとうに残念なことにご当選作なし、の結果に終わりました。なかなか力作もあったのですが、出版社の意向にびつたりのがなかったようです。編集部としては応募原稿をこれから先のわいふ誌上で、誌面の許すかぎり少しずつ掲載して行くつもりでいます。よろしくご了承下さい。

●投稿規定の中に、これまでなかった「私の再就職」体験記の募集を一項目ふやしました。皆さんどうか、めいめいのナマの体験をどんな小さなところからでも語って下さい。

●日下恵子さんのヤップ島滞在記の内容は、実におどろき！の連続でした。

ユニークな外国旅行、外国滞在のご経験をお持ちの方、ご投稿をお待ちしています。知らない世界を知ること、いつも私たちの視

野を広げてくれるものですね。

●一七四号に、新しく発足した雑誌「ウイ」のPRのチラシをとじこみ、ウイ書房の振替用紙を同封してお申込みいただくようにと考えたのですが、何となく、その振替用紙で「わいふ」に入金したつもりになっている方が、五、六人もあったのです。（ウイ書房のあて先が明記してありますのに）。編集だよりで一言書いておかなかつたために、ウイ書房さんにすつかりご迷惑をおかけする結果になってしまいました。わいふの振替用紙は、表面にわいふ編集部と書いてありますから、どうぞお間違えのないようにおねがい致します。

●最近テーマ原稿のご投稿が減っています。二十枚以上という制約のため、書きづらいかもしれないということで、編集部内で協議の末、十五枚に切り下げることになりました。上限は同じ三十枚ですので、ぜひ力作をお寄せください。編集部としては特集投稿を通じて、才能あるライターを発掘したいという意図を抱いておりますので、野心作をおまちいたします。

□購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの
で、折返しご送金ください。バックナンバー
のご注文も同様に。二冊以上まとまりま
すと送料が半額以下になります。

わいふ

1982年7月1日発行
印刷・浩文社印刷

定価 450円

(年間購読料送料共3600円)

発行所・(株)グループわいふ

編集・わいふ編集部

東京都新宿区加賀町2-4 ☎162

T E L (03) 260-4771

郵便振替 東京5-110430

銀行口座三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4348909

□購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れに
なる方が多いので、誌代が切れてもひき続
き送本しています。お申出がないと、お送
りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

貴女の腕前を見せて下さい!

たった一度の人生で
“私なりの能力を社会の中で発揮したい”
とお考えではないでしょうか。

女性は全員家事能力だけ——、というのは不思議なはなし、殊に子育てのあとの人生は自分のキャリアを活かして生活したいと思いませんね。

それには今の生活を考え直す必要があります。

確かに生来の知的能力は男性と変りないけれど訓練の累積で差が出てきます。

とういん
■十印は出来る範囲で貴方のキャリア作りと仕事を結びつけるお手伝いを致します。

●業務内容のご紹介

翻訳／通訳／編集・レイアウト・デザイン／校正／英・和タイピング／英・和ワードプロセッサ（編集機能つきタイプライター）オペレーション／タイプセッター（欧文電算写植機）オペレーション／一般事務 他

●勤務の種類

社内勤務／自宅勤務／顧客先への出向勤務

●キャリア訓練システム（例）

- 語学の出来る方は技術翻訳の訓練コースを週2回位6ヶ月間受けていただきO.J.T（仕事をしながら覚える）方式でキャリアを積み、自宅、又は社内勤務となります。
- ワードプロセッサのような新機種は一定時間訓練をして社内又は、顧客先勤務となります。
- 編集、レイアウト等は一定期間O.J.Tで社内訓練をし、自宅、又は社内勤務となります。

※尚、くわしいことは人事部・関屋、星までご相談ください。



株式会社 **十 印**

〒105 東京都港区芝2-14-6
電話 (03)455-8711 (代)

Be a get-out...

あなた自身への美しきチャレンジ

わいふ 一七六号

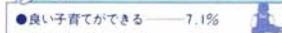
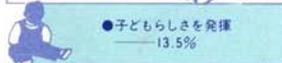
一九八二年七月一日(隔月刊)発行



子ばなれ、してみました。

- ①子どもの社会性が育つ②自分のことは自分でできるようになる
 - ③子どもの中で育つから子どもらしさを発揮できる。
- 保育所に子どもをあずけて働きたい

●働きに出ている母親の保育所に通う子どもたちの評価



出ている母親たちの意見です。〈子どもをあずけてまで働きに出る必要があるのか〉なんと苛酷なことばでしょうか。しかし子どもをあずける重みを自身の痛みとしながらも一人の人間として自立を求め働く母親たちは確実に増えています。「働くことを通して自分自身を育てたい、そんな生き方が子育てにも良い影響をおよぼす。」子どもたちの成長ぶりがまさに物語っていると

子どもを人手にあずけるなんてカワイソウという気持ちこそは母性をタテに子どもに甘え執着する閉ざされた心のあらわれかも知れません。子どもとの関係に距離をつくる、子どもを一人の人格として見つめ直してみる、働きに出ることもそのためのチャンスだと思います。

「be able」ビー・エイブルNo2「未就学児をもつ母親の意識」調査より

●「be able」誌を、購読希望の方は下記にお申し込み下さい。
「be able」定価280円+送料200円

応援します

メンバーは、自分自身のために働くこととする女性のために望ましい職場と環境、さらに働きやすい条件を整えていこうとする会社です。もし“あなたが働きたい職場で、働きたい時間だけ、しかも、あなたの能力にふさわしいペイメント(給料)を得たい”とお考えなら、メンバーにご相談することをおすすめします。現在、メンバーでは、5,500人以上もの女性がスタッフ参加、およそ4,400社ほどの優良企業で働いていますが、これらの女性のうちほとんどの方に、ご満足いただいております。

●メンバーの窓口は全国9ヶ所。ご希望のところへお気軽に電話してください。経験豊富なサービスレプレゼンタティブがご相談に応じております。

- 東京/銀座 ☎562-4271 ●横浜 ☎314-1222
- 東京/新宿 ☎342-5555 ●大阪 ☎222-6300
- 東京/赤坂 ☎478-6311 ●神戸 ☎321-5951
- 名古屋 ☎962-7771 ●広島 ☎223-1100
- 福岡 ☎741-9531 ●札幌 ☎222-4881

あなたの経験と時間を生かします。



マンパワー・ジャパン株式会社 本社/東京都港区赤坂1丁目11-45第3興和ビル



定価四百五十円